#### 令和6年能登半島地震に係る災害初期対応検証会議 (第3回)

日 時:令和6年9月30日(月)

16時15分から

場 所:災害対策本部会議室

次 第

- 1 開会
- 2 検証結果の取りまとめ状況について(中間報告)【資料1-1~6】
- 3 有識者等広聴会について【資料2】
- 4 その他

#### 〈配布資料〉

- 資料1-1 令和6年能登半島地震災害初期対応検証報告書(案)
- 資料1-2 地域広聴会における主な意見・要望について
- 資料1-3 防災士の会女性部会における主な意見・要望について
- 資料1-4 障がい者団体における主な意見・要望について
- 資料1-5 能登半島地震に関する市民アンケート調査結果報告書
- 資料1-6 避難所指名職員に関するアンケート集計結果
- 資料2 「令和6年能登半島地震 災害初期対応検証に係る 有識者等広聴会」実施概要(案)

# 令和6年能登半島地震 災害初期対応検証報告書 (案)

令和 6 年 10 月 新潟市





第1章	検証の概要
1	検証の目的・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1
2	検証体制・検証スケジュール・・・・・・・・・・・・2
	(1) 検証項目・検証体制・・・・・・・・・・・・・・2
	(2) 検証スケジュール・・・・・・・・・・・・・・・3
	(3) 検証過程・・・・・・・・・・・・・・・・3
第2章	令和6年能登半島地震の概要
1	能登半島地震の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・6
	(1) 地震概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・6
	(2) 本市への影響・・・・・・・・・・・・・・7
	(3) 被害状況・・・・・・・・・・・・・・・8
第3章	新潟市の災害対応
1	災害対策本部・・・・・・・・・・・・・・・・・・・13
2	本市の主な動き・・・・・・・・・・・・・・・・・14
第4章	検証結果
1	災害対策本部・・・・・・・・・・・・・・・・・・・19
	(1) 対策本部の運営・・・・・・・・・・・・・・20
	(2) 職員の参集・・・・・・・・・・・・・・・・2 1
	(3) 職員体制・・・・・・・・・・・・・・・22
2	情報の受発信・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・23
	(1) 市民への情報発信・・・・・・・・・・・・・24
	(2) 被害情報の収集・・・・・・・・・・・・・・25
	(3) 収集情報の共有・・・・・・・・・・・・・・・26
	(4) 報道機関への対応・・・・・・・・・・・・・・・27



3	避難行動・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2 8
	(1) 市民の避難行動・・・・・・・・・・・・・・・・・28
4	避難所等運営・・・・・・・・・・・・・・・・・・3(
	(1) 避難所の開設、運営ルール・・・・・・・・・・・3
	(2) 避難者への物資・食料の提供・・・・・・・・・・3 2
	(3)要配慮者への対応・・・・・・・・・・・・・3:
	(4) 避難所でのペット対応・・・・・・・・・・・3 4
	(5)避難所外避難者の対応・・・・・・・・・・・・34
5	被害状況の調査・・・・・・・・・・・・・・・・・3!
	(1) 被害状況の調査・報告・・・・・・・・・・・・3 (
	(2) 住家被害認定調査・・・・・・・・・・・・・3 (
6	受援体制・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3
	(1) 庁内の応援体制・・・・・・・・・・・・・3 9
	(2) 県・他都市からの受援体制・・・・・・・・・・39
	(3) 民間団体との災害時応援協定・・・・・・・・・・・4(
7	被災者支援・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・4 :
	(1) 災害ボランティアセンターの運営支援・・・・・・・・・4 2
	(2)被災者支援制度・・・・・・・・・・・・・・・42
	(3) 被災相談窓口・・・・・・・・・・・・・・・・4 :
8	インフラ関連・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・4.
	(1) 上水道の応急修繕・・・・・・・・・・・・・・・・4 (
	(2) 道路の応急修繕・・・・・・・・・・・・・・・・4
	(3)下水道の応急修繕・・・・・・・・・・・・・・・・45



9	その他	也••			•	•		•	•	•	•	 •	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	4 9	9
	(1) 応急	急危険原	度判別	定・	•	•		•	•	•	•		•	•	•	•	•		•		•	•		5 (	Э
	(2) 災暑	廃棄物	勿・		•	•		•	•	•	•	 •	•	•	•	•	•		•	•	•	•		5 3	1
	(3) 医療	条体制			•	•		•	•	•	•	 •	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	5 3	3
	(4) 自治	台会・	时内含	会と	の;	連担	隽•	•	•	•	•	 •	•	•	•	•	•		•	•	•	•		5 5	5
	(5) 防災	災士・			•	•		•	•	•	•	 •	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	5 5	ō
	(6) 仮記	ひトイ!	/設詞	置•	•	•		•	•	•	•	 •	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	5 6	ô
	(7) 義扬	受金・			•	•		•	•	•	•	 •	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	5 6	ô
第5章	市民、有	識者等	等の意	意見																					
1	市民の	D意見			•	•		•	•	•	•	 •	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	
	(1) 市民	ミアング	ケー	ト調	査	•		•	•	•	•	 •	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	
	(2) 地域	或広聴的	<b>会</b> •		•	•		•	•	•	•	 •	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	
2	有識者	音等の意	意見	• •	•	•		•	•	•	•	 •	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	
第6章	総括・・								•			 •													



#### 第1章 検証の概要

#### 1 検証の目的

令和6年能登半島地震の影響により、本市では最大震度5強を観測するとともに、津波警報の発表を受け、直ちに避難指示を発令し、1万4千人を超える避難者を受け入れました。

また、主要国道の新潟西バイパスなど、多くの道路での通行止めや、JR越後線の運休(5日間)など、市民生活に大きな影響が生じました。

そして、今回の被害の大きな特徴は、液状化現象です。

特に、西区を中心とする砂丘縁辺部や旧河道など、地下水位が高い地域で、集中的に 液状化現象が発生したため、大量の砂や水が地表に吹き出し、道路の損傷や住宅等の建 物の傾斜や沈下が多数発生しました。

本市では、発災直後から災害対策本部を設置し、応急対策に全力で取り組みましたが、 被害情報の収集については、どの地域で大きな被害が出ているのか、液状化がどこで発 生しているかなどの情報を迅速に把握できず、庁内の共有にも時間を要したほか、自動 車避難の問題や、避難所開設、避難所外避難など様々な課題が浮き彫りになりました。

このような状況を踏まえ、本市では災害初期対応について、全庁的な課題整理を行う とともに、改善に向けた取組を検討することで、本市の災害対応の強化を図り、次の災 害に備えていくため、市長をトップとした検証会議を設置し、検証を開始しました。

市内部で検証を進めるとともに、自治協議会やコミュニティ協議会などの地域団体の 方々から意見をお聴きするため地域広聴会を実施したほか、市民の皆さまへのアンケー トの実施や、有識者の方々からご意見をいただいた上で、最終報告をとりまとめました。

この検証結果を今後の防災体制強化のための基礎資料とし、将来にわたって安心・安全に暮らせる、災害に強い新潟市を築いていきます。



### 2 検証体制・検証スケジュール

#### (1)検証項目・検証体制

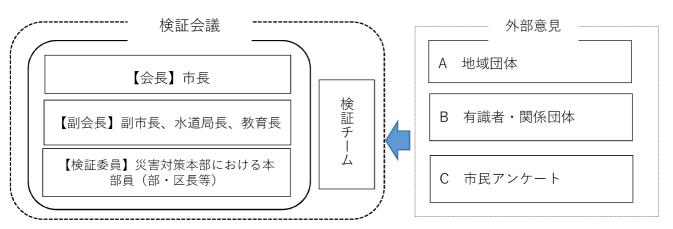
#### 検証項目

特に重要な課題・問題点が生じたと考えられる事項を庁内において、検討・抽出し検証項目とした。

①災害対策本部	④避難所運営	⑦被災者支援
②情報の受発信	⑤被害状況の調査	⑧インフラ関連
③避難行動	⑥受援体制	9その他

#### 検証期間・検証体制

- ◆検証期間 発災から令和6年3月末まで
- ◆検証体制 能登半島地震に係る災害初期対応検証会議
- ◆組織体系 災害対策本部に準ずる



- ◆検証チーム 各対策部から課長補佐・係長級1名
- ◆外部意見の聴取

A 地 域 団 体:自治協委員、コミ協会長、防災士など(8区で実施)

防災士の会女性部会、障がい者団体

B 有識者・関係団体:大学、関係機関、国、県など

C 市民アンケート: 新潟市内在住の18歳以上の市民4,000人に実施(無作為抽出)



#### (2)検証スケジュール

#### 検証スケジュール

	5月	6月	7月	8月	9月	10 月
検証会議						
検証チーム						
A 地域団体						
B 有識者・関係団体						
C 市民アンケート		`				_

#### (3)検証過程

#### 内部検証

#### ①検証会議・検証チーム会議

日程	内容
令和6年5月21日(火)	第1回災害初期対応検証会議 ・検証体制、検証スケジュールの設定
令和6年5月29日(水)	第1回災害初期対応検証チーム会議 ・検証項目に関すること、検証シートに関すること
令和6年6月24日(月)	第2回災害初期対応検証チーム会議 ・検証結果の取りまとめ状況について
令和6年6月26日(水)	第2回災害初期対応検証会議 ・災害初期対応の検証状況について ・地域広聴会について、市民アンケートについて
令和6年9月25日(水)	第3回災害初期対応検証チーム会議 ・検証結果の取りまとめ状況について(中間報告) ・有識者等広聴会について
令和6年9月30日(月)	第3回災害初期対応検証会議 ・検証結果の取りまとめ状況について(中間報告) ・有識者等広聴会について

#### ②避難所指名職員に関するアンケート

- ◆調査対象 令和6年能登半島地震発生(令和6年1月1日)時点の避難所指名職員
- ◆調査方法 電子申請 (e-NIIGATA) または紙による回答
- ◆回 答 率 57.5% (回答率 350/アンケート対象職員数 609)



#### 外部意見

#### ①地域広聴会

◆開催期間 令和6年7月31日(水)~8月30日(金)

◆参加人数 321 人(自治協委員:181 人、コミ協会長等:119 人、防災士:21 人)

◆意 見 数 196件(情報の受信 43/避難行動 46/避難所運営 66/その他 41)

日程	内容	会場	参加者数
令和6年7月31日(水)	西区地域広聴会	西区役所	37 人
令和6年7月31日(水)	南区地域広聴会	南区役所	36 人
令和6年8月22日(木)	江南区地域広聴会	江南区役所	36 人
令和6年8月26日(月)	北区地域広聴会	豊栄地区公民館	35 人
令和6年8月26日(月)	東区地域広聴会	東区プラザ	56 人
令和6年8月27日(火)	秋葉区地域広聴会	秋葉区役所	34 人
令和6年8月29日(木)	西蒲区地域広聴会	巻地区公民館	38 人
令和6年8月30日(金)	中央区地域広聴会	新潟市民プラザ	49 人

#### ②防災士の会女性部会

◆開催日 下表参照

◆参加人数 下表参照

◆意 見 数 22件(情報の受信4/避難行動4/避難所運営13/その他4)

日程	内容	会場	参加者数
令和6年9月10日(火)	防災士の会女性部会意見広聴会	新潟市役所	4 人



#### ③障がい者団体

◆開催期間 令和6年9月10日(火)~9月13日(金)

◆参加人数 16人

◆意 見 数 69件(情報の受信 21/避難行動 24/避難所運営 25)

日程	内容	会場	参加者数
令和6年9月10日(火)	   新潟市視覚障害者福祉協会意見広聴会 	総合福祉会館	6人
令和6年9月11日(水)	NPO 法人新潟市ろうあ協会意見広聴会	総合福祉会館	3人
令和6年9月13日(金)	新潟市身体障害者福祉協会連合会意見広聴会	総合福祉会館	2人
令和6年9月13日(金)	NPO 法人にいがた温もりの会意見広聴会	越路ビル	5人

#### ④市民アンケート

◆調査対象 令和6年5月末現在18歳以上の市民4,000人

◆抽出方法 単純無作為抽出法

◆調査方法 郵送 (調査票の配布、回収)、インターネット (回答のみ) 併用

◆配布数等

配布数	回収数	回収率
4,000	2,037	50.9%

#### ⑤有識者等広聴会(今後開催予定)



#### 第2章 令和6年能登半島地震の概要

#### 1 能登半島地震の概要

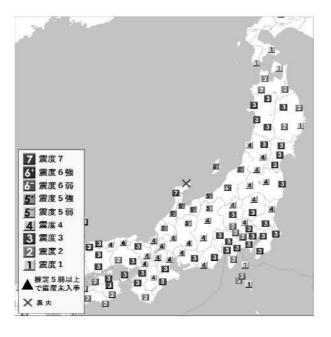
#### (1) 地震概要

#### 地震に関する概要

令和6年1月1日16時10分、石川県能登地方の深さ16km(暫定値)を震源とするマグニチュード7.6(暫定値)の地震(以下、本特集において「本地震」という。)が発生し、石川県の輪島市及び志賀町で震度7を観測したほか、北海道から九州地方にかけて震度6強から1を観測した。気象庁は、同日に、本地震及び令和2年12月以降の一連の地震活動について、名称を「令和6年能登半島地震」と定めた。

#### 津波に関する概要

本地震により石川県能登に対して大津波警報が、山形県から福井県及び兵庫県北部に対して津波警報が発表された。金沢観測点(港湾局)で 0.8m、酒田観測点(気象庁)で 0.8m など、北海道から九州地方にかけての日本海沿岸を中心に津波を観測した。そのほか、空中写真や現地観測から、能登半島等の広い地域で津波による浸水が認められた。また、現地調査により、石川県珠洲市や能登町で 4m 以上の津波の浸水高、新潟県上越市で 5m 以上の遡上高を確認した。本市では最大約 0.3mの津波が観測された。



#### 地震概要

1月1日

16 時 10 分 地震発生

震源:石川県能登地方

規模:マグニチュード 7.6 (暫定値)

震源の深さ:16km (暫定値)

市内震度:

震度 5 強 中央区、南区、西区、西蒲区

震度 5 弱 北区、東区、江南区、秋葉区

16 時 12 分 津波警報発表、避難指示

1月2日

01 時 15 分 津波警報解除、津波注意報発表

10 時 00 分 津波注意報解除



#### (2) 本市への影響

#### 地震被害の特徴

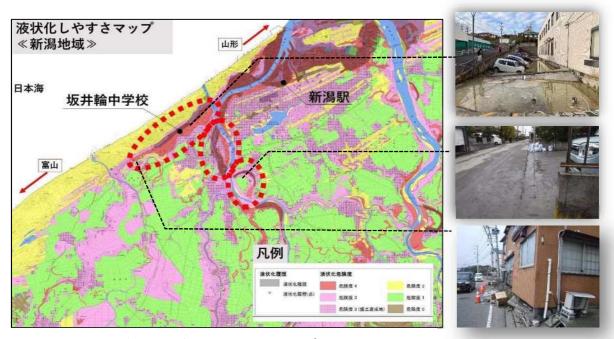
#### ①津波警報発表

本市では、最大震度 5 強の強い揺れと、津波警報の発表を受け、直ちに避難指示を発 令したが、浸水想定区域以外の多くの人が車で避難したことで、道路渋滞が発生するな ど、避難時に混乱が生じた。

#### ②液状化被害

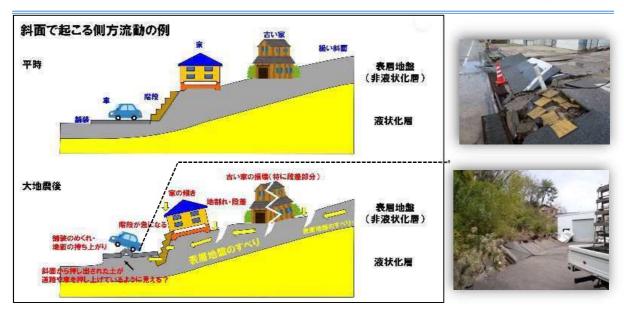
能登半島の甚大な被害と共に、本市においては地盤の液状化による住宅の甚大な被害が発生した。特に西区を中心とする砂丘縁辺部や旧河道など、地下水位が高い地域で集中的に液状化現象が発生したため、大量の砂や水が地表に吹き出し、道路の損傷や建物の傾斜、沈下が多数発生するなど大きな被害が生じた。

調査の結果、砂丘の縁辺から後背湿地の斜面における「側方流動」とみられる被害や、 旧河道といった地形の場所における被害傾向が確認された。



出典:北陸地方整備局 液状化しやすさマップより





出典:河北郡内灘町の調査報告

#### ③特定の地域に被害が集中

液状化による被害が中央区、江南区、西区の3区に集中したことにより、該当区の業務量が増加したが、局所的に発生した大規模災害に対応するための業務や役割分担、体制が整理できていなかったため、一部の業務で全庁的な体制の構築が遅れた。

#### (3)被害状況

#### 人的被害

この災害を原因とする死者が2名発生したほか、重症者が5名、軽症者は21名発生している。(X:ご遺族の意向により区名は公表しません。) (令和6年9月26日時点)

項目	計	北	東	中央	江南	秋葉	南	西	西蒲
死者	2	X	X	X	X	X	X	X	X
重傷者	5	0	0	1	0	0	0	4	0
軽症者	21	0	4	5	2	0	3	6	1



#### 物的被害

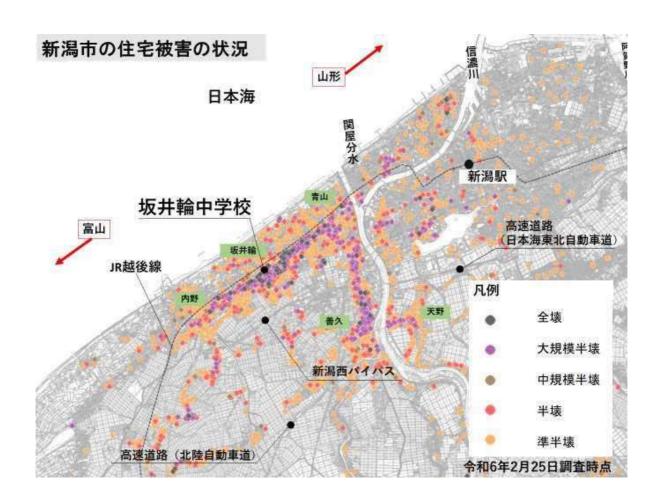
#### ①建物被害数

(令和6年9月26日時点)

項目	計	北	東	中央	江南	秋葉	南	西	西蒲
全壊	100	0	0	11	0	1	1	80	7
半壊	3,822	13	16	402	279	36	55	2,929	92
一部損壊	12,421	293	406	1,729	1,211	696	715	6,515	856

参考 損害判定基準 (住家の主要な構成要素の経済的被害の住家全体に占める損害割合)

全壊:50%以上、半壊:20%以上50%未満、一部損壊:全壊及び半壊に至らないもの





### ②道路被害路線数

項目	計	北	東	中央	江南	秋葉	南	西	西蒲
国県道	5	0	0	3	1	0	0	1	0
市道	316	0	0	77	21	0	6	211	1



道路の被災状況 (鳥原地内/西区)

### ③学校被害数

項目	計	北	東	中央	江南	秋葉	南	西	西蒲
被害数	123	13	14	23	10	12	10	26	15





学校の被災状況 (坂井輪中学校/西区)



# ④ライフライン等の被害状況

項目	発災後の状況
電気	市内各所で停電発生
ガス	西区、西蒲区でガス漏れが多数発生
上水道	中央区、西区、江南区で減断水、濁水が発生。漏水は最大 253 箇所
下水道	黒埼地区のマンホールポンプ 5 箇所で異常高水位
電気通信	被害なし
公共交通 機関	高速道路: 一時全線通行止め 鉄道: 一時全線運転見合わせ バス: 一部を除き通常運行
道路	市内各地で液状化による道路陥没や損傷し、最大 53 箇所で通行止め



公園の被災状況(鳥屋野交通公園/中央区)



マンホールの被災状況 (西区)



# ⑤避難の状況

1/1 20:30 時点	計	北	東	中央	江南	秋葉	南	西	西蒲
開設避難所数	288	37	22	43	20	42	47	38	39
避難者数	14,187	1,011	2,044	4,584	78	79	94	5,876	421



段ボールベッド設置状況 (西区)



ペット避難対応状況(西区)



### 第3章 新潟市の災害対応

#### 1 災害対策本部

災害が発生し、または発生する恐れがある場合等で、対策を実施するため必要があると認めると きは、災害対策基本法第23条の2(市町村災害対策本部)の規定に基づき、新潟市災害対策本部 (以下「本部」という。)を設置する。

本部に、災害応急対策の実施について協議をするため、災害対策本部会議(以下「本部会議」という。)を置く。本部会議は、本部長、副本部長、本部員及び本部長が指名する職員をもって組織し、所掌事務は、以下の表に掲げるとおりとする。

#### 災害害対策本部

災害対策本部長 ————————————————————————————————————	市長
災害対策副本部長	副市長 水道局長 教育長
災害対策本部員	危機管理監 会計管理者 北区長 東区長 中央区長 江南区長 秋葉区長 南区長 西区長 西浦区長 政策企画部長 統括政策監 都心のまちづくり担当理事 技監 市民生活部長 文化スポーツ部長 観光・国際交流部長 環境部長 福祉部長 こども未来部長 保健衛生部長 経済部長 農林水産部長 経済部長 建築部長 土木部長 下水道部長 総務部長 財務部長 消防局長 水道局総務部長 教育次長 市民病院事務局長 選挙管理委員会事務局長 監査委員事務局長 監査委員事務局長 農業委員会事務局長
所掌事務	1 被害状況、対策状況等の総合的な掌握に関すること 2 災害応急対策計画の協議、決定に関すること 3 災害救助法等の適用協議に関すること 4 現地災害対策本部の設置に関すること 5 自衛隊等及び他団体等への災害派遣要請に関すること 6 県災害対策本部との協議に関すること 7 防災会議を構成する関係機関との協議に関すること 8 災害情報の公表に関すること 9 その他災害応急対策の重要事項の決定に関すること



# 2 本市の主な動き

月日	時刻	災害情報・国県支援・ 災対本部の動き	対応等
1/1(月)	16:10	石川県能登地方で M7.6 地震発生(最大震度 7) 新潟市内(中央区、南区、西区、西区、西蒲区)で震度 5 強を観測 新潟市内(北区、東区、江南区、秋葉区)で震度 5 弱を観測	3 号配備体制(全区)
		新潟市災害対策本部設置	
	16:12	津波警報発表	避難指示発表(北区、東区、中央区、 江南区、西区、西蒲区のそれぞれ一部)
	17:09	津波到達 0.3 m	
	18:30	第1回災害対策本部会議	【本部長指示】 人命救助を最優先、被害情報の収集にも全力で取り組むこと、ライフラインや交通機関など、生活に直結する情報は、随時、市民に対し情報発信を行うよう指示
	21:30	第2回災害対策本部会議	【被害状況等】 ・中央区、江南区、西区を中心とする減断水や道路の隆起、陥没・液状化等による交通障がいが多数発生・高速道路:全線通行止め・鉄道:全線運転見合わせ・約14,000人の市民が避難所に避難【本部長指示】 被害の情報収集と復旧作業、避難者の対応に全力で取り組むよう指示
	23:28	災害救助法適用	
1/2 (火)	1:15	津波注意報発表	
	9:00	第3回災害対策本部会議	【被害状況等】 ・人的被害:軽症者 3 名 ・建物被害:全壊 1 棟 ・停電約 30 戸 ・約 350 人の市民が引き続き避難所に避難 【本部長指示】 夜が明けたためパトロール等により、迅速な被害の把握と復旧作業、避難者の対応に全力で取り組むよう指示
		水道局が県外事業体(2都   市)に応援要請	さいたま市、仙台市に応援を要請
	10:00	津波注意報解除	
	•	•	



1/2 (火)	10:30	新潟県が市災害対策本部 へ DMAT を派遣(西区内 の病院の状況把握のため)	市本部の各リエゾン(市保健衛生部、水道局、DMAT)と県本部で情報共有し対応・信楽園病院対応(給水、非常食等の支給、透析患者移送検討) →1/3終了・西区内病院の給水状況把握
	15:00	第4回災害対策本部会議	【被害状況等】 ・人的被害:軽症者7名 ・建物被害:全壊2棟、半壊4棟、 一部損壊32棟 ・停電約30戸 ・中央区、江南区、西区で 減断水、濁水発生 ・高速道路通行可能 ・避難者:75名
		応急危険度判定を開始	
1/3 (水)	9:00	第5回災害対策本部会議	【被害状況等】 ・人的被害:軽症者 8 名 ・建物被害:全壊 2 棟、半壊 9 棟、 一部損壊 111 棟 ・西区の一部で断水継続 (9 か所で臨時給水所を設置) ・鉄道:一部を除き通常運行 ・避難者:34 名
	12:00	3号配備体制解除(全区) →準3号配備体制(全区) 避難指示 ・土砂災害 西区内19軒	
	13:00	チームにいがたマネジメ ント調整会議	被害認定調査業務の方針を決定
		市長災害現地視察	西区大野地内(建物被害) 坂井輪中学校(建物被害、避難所)
		西区社会福祉協議会が西 区災害ボランティアセン ターを開設	



1/4 (木)	9:15	第1回関係者会議	【検討事項】 ・災害ごみの減免 ・災害ボランティア ・住宅被害支援、避難者住宅確保 ・道路復旧、泥処理 ・家屋被害認定調査 ・謝技界の選供
			・学校園の運営
1/5 (金)	10:00	建物被害認定調査のため チームにいがたに職員の 派遣を要請	拠点:ふるまち庁舎災害対策室 第1クール 1/7 ~1/11 第2クール 1/11~1/15 第3クール 1/15~1/19 第4クール 1/19~1/23 第5クール 1/23~1/27 第6クール 1/27~1/31
		市長災害現地視察	秋葉区滝谷町(油水) 江南区天野、西区善久(液状化)
1/7 (日)		市長災害現地視察	西区中野小屋(建物被害)
	10:00	チームにいがた応援派遣 集合式	チームにいがたによる支援開始
1/9 (火)	9:30	第6回災害対策本部会議	【被害状況等】 ・人的被害:重傷者 1 名、軽症者 20 名 ・建物被害: ①応急危険度判定申請数:1,724 件 ②罹災証明申請数 3,930 件 ・断水:ほぼ解消 ・学校被害:89 校(うち 1 校休校) ・避難者:19 名 ・土嚢袋配布状況:281,473 枚
	18:03	佐渡沖で M6.0 地震発生 (最大震度 5 弱) 新潟市内 5 区(中央区、秋 葉区、南区、西区、西蒲区) で震度 4 を観測 →1 号配備体制	
	21:25	1号配備一部解除 (秋葉区、西区、西蒲区)	
	22:45	1号配備一部解除 (中央区)	
1/10 (水)	6:28	1号配備解除	



	11:00	石川県へ災害応援のため 水道局職員の派遣開始	応急復旧活動 ・1/10~3/29:石川県七尾市 ・3/24~5/29:石川県珠洲市
1/11 (木)	8:30	県選出国会議員への状況 報告	
	10:00	応援派遣集合式	拠点:旧新潟市環境事業公社
1/12(金)	14:45	市議会全員協議会報告	本市の被害状況について説明
		応急危険度判定終了 	
1/15 (月)	10:00	応援派遣集合式	拠点:旧新潟市環境事業公社 山形県内自治体職員の応援派遣開始
	16:40	第2回関係者会議	【検討事項】 家屋認定被害調査に係る職員の応援体制 について
1/18 (木)		市長災害現地視察	みどりと森の運動公園 (ボランティアセンター)
1/19 (金)	10:00	応援派遣集合式	拠点:新潟県立教育センター 秋田県内自治体職員の応援派遣開始
	14:20	内閣府防災担当大臣·国土 交通副大臣視察	坂井輪中学校周辺
1/24 (水)	9:00	被災相談窓口開設	罹災証明書交付開始 会場:中央区役所、曽野木地区公民館 西区役所、黒埼地区総合体育館 西総合スポーツセンター
1/25 (木)		チームにいがたによる建 物被害認定調査のため職 員の追加応援要請	第7クール 1/31~2/4
	16:30	第3回関係者会議	【検討事項】 ・罹災証明書交付等に係る体制について ・被災相談窓口の開設状況について
1/26 (金)	13:30	新潟市選出県議会議員へ の被害状況報告会	
1/30 (火)		市長災害現地視察	西総合スポーツセンター(被災相談窓口)
2/4 (日)	16:00	チームにいがたによる支 援活動終了に伴う解散式	会場:新潟県立教育センター



	1	\< B\(   B	F
2/7(水)		近隣市町村相互援助協定   に基づく職員派遣開始 	第1クール 2/7~2/11 第2クール 2/11~2/15 第3クール 2/15~2/19 第4クール 2/19~2/23 第5クール 2/23~2/27 第6クール 2/27~3/2
2/9(金)	10:30	第7回災害対策本部会議	【被害状況等】 ・人的被害:重傷者 1 名、軽症者 20 名 ・建物被害:全壊 86 棟、半壊 2,085 棟、 一部損壊 8,851 棟 ・応急危険度判定数:1,744 件(終了) ・道路被害路線数:国県道 5 か所市道 316 か所市道 316 か所・ 市道 316 か所・ ・断水:ほぼ解消・学校被害:123 校・避難者:17 名 ・土嚢袋配布状況:335,414 枚
2/21 (水)	9:30	北陸地方整備局長 現地視察	
	13:00	市議会全員協議会報告	能登半島地震における本市の対応ついて 説明
3/1 (金)	13:00	第4回関係者会議	【検討事項】 ・道路、下水道の今後の復旧と市民への 広報について
3/13 (水)	15:00	財務省主計官現地視察	
3/19(火)	15:15	第5回関係者会議	【検討事項】 ・住宅支援等について ・液状化等に関する市民説明会 (相談会)の開催について ・国による本市の宅地液状化対策の 状況確認・制度検討
3/25 (月)	9:40	衆議院災害対策特別委員会 現地視察	
3/27(水)		チームにいがた派遣要請	住家被害認定調査 (2次調査)業務 第1クール 4/4~4/8 第2クール 4/9~4/13 第3クール 4/14~4/18 第4クール 4/19~4/23 第5クール 4/24~4/28 第6クール 4/29~5/3
3/31 (日)		災害ボランティアセンター 閉所	活動人数:延べ1,904人 活動件数:315件 主な内容:敷地内や側溝の土砂撤去、 家財などの運び出し



# 第4章 検証結果

# 検証項目1 災害対策本部

### ◆ 主な動きと対応状況

月日	主な動き	対応状況
1/1	地震発生 新潟市災害対策本部設置(3 号配備) 第 1 回災害対策本部会議 開催 第 2 回災害対策本部会議 開催	・1月1日(月) 18:30 に災害対策本部 会議を開催 人命救助を最優先とし、被害情報を収 集するとともに、2次被害を防ぐた
1/2	第 3 回災害対策本部会議 開催 第 4 回災害対策本部会議 開催	乗りることもに、 2.5(板音を防くた め、市民向けにはライフラインや交通 機関などの生活に直結する情報の発 信を行うよう本部長から指示
1/3	第 5 回災害対策本部会議 開催	
1/4	第1回関係者会議 開催	・以降、1月3日までの間に計5回、対策本部会議を開催。各対策部が覚知し
1/9	第 6 回災害対策本部会議 開催	た被害情報等を収集し、迅速な状況把 握に努めた。
1/11 1/11	県選出国会議員への被害状況報告会 市選出県会議員へ災害対策本部会議資料を共有	・第5回災害対策本部会議において、以 降の対策本部会議は必要に応じて適 宜開催するとともに、随時、市長、副
1/12	全員協議会で地震対応、国要望項目説明	市長、関係部区長からなる関係者会議を開催し、状況の共有や対応方針の確
1/15 1/19	第2回関係者会議 開催 内閣府防災担当大臣・国土交通副大臣 視察対応・要望	認を行うこととした。
1/23	省庁への要望活動	
1/25	第3回関係者会議 開催	
1/26	市選出県会議員への被害状況報告会	
2/9	第7回災害対策本部会議 開催	
2/27	省庁への要望活動	
3/1	第 4 回関係者会議 開催	
3/19 3/22 3/25	第5回関係者会議 開催 復旧・復興推進本部立上げを発表(記者会見) 衆議院災害対策特別委員会視察対応・要望	
4/1	第 1 回復旧・復興推進本部会議	
4/15	第6回関係者会議 開催	
5/21 5/31	第8回災害対策本部会議 開催 新潟市災害対策本部 廃止	



### (1)対策本部の運営

課題・問題点	改善に向けた今後	後の取組
・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	短期	中長期
①対策本部の設営の遅れ ・問い合わせ電話の対応により、円滑な設営作業ができなかった。	初動時の体制見直し ・問い合わせ電話への対応と 設営作業の両立が可能と なる体制の検討	
②本部事務局が長期化した場合の役割分担が不明確 ・長期化した際の本部事務局各班の役割に不明確な部分があり、その都度協議して対応する必要が生じた。	<b>マニュアルの見直し</b> ・対策本部事務局マニュアル 等の見直し	
③災害対策本部会議における 被害状況等の情報共有が不 十分 ・災害対策本部会議において 各対策部からの報告の際、画 像や動画などが活用されず、 被害状況が十分に共有され なかった。	画像や動画を活用しやすい会議システムの見直し・災害対策本部会議において、画像や動画・データなどにより、必要な情報を的確に共有できる場となう会議システムを見し	
④災害対策本部会議の開催ルールが不明確 ・大規模災害時の会議開催間隔が決まっていなかった。	会議開催ルールの見直し ・標準的な会議開催間隔や会 議の公開について、本部事 務局マニュアルを見直し	
5全庁的な活動状況の共有が不十分 ・部区内や他対策部の活動状況の把握がしづらく、全庁的な動向の把握が難しかった。 ・職員が担うべき業務を把握できていない。	課長級会議の開催 ・災害応急対策に関して、より綿密な調整を図るため 課長級の会議を開催 応急対策マニュアルの周知・ 共有 ・各班の職員への応急対策マニュアルの周知・共有	関係課の連携強化 ・各対策班での各課 の応急対策マニュ アルの共有

#### ≪表の見方≫

#### ◆課題・問題点

○今回の地震に対する本市における災害対応についての課題・問題点 \*主な意見を掲載しています。

#### ◆改善に向けた今後の取組

○短 期:発災から2年以内に実施・見直しを行う取組 ○中長期:3年~10年の期間に実施・見直しを行う取組



### (2) 職員の参集

= 明 、 明 明 占	改善に向けた今後の取組	
課題・問題点	短期	中長期
①配備体制の理解不足 ・配備体制が分からず参集した職員がいた。 ・区により震度が違うため、職員の参集の判断基準がわかりにくい。 ・職員参集メールの内容がわかりにくい。	配備体制の職員啓発 ・携帯型配備体制表(名 ・携帯型配備体制表(名 ・利サイズ)の作成 ・入庁直後の研修での 集メール登録の周知を 即時登録 ・職員参集メールの本文 の箇条書き化等、分か りやすいメール配信の 検討	
②津波警報発令中の参集判断に迷った ・津波警報発令中で危険を伴っても参集すべきか判断が難しく、参集に時間を要した。	<b>津波時の参集判断基準の明確化</b> ・津波警報・注意報発令時の市全体の参集ルールの明確化及び周知	
③閉庁日の参集による初動 の遅れ ・職員が順次参集する中で、 電話への対応が優先され、 各自が行うべき業務に支 障が出た。	閉庁日も速やかに参集で きる体制づくり ・参集職員の見直し	閉庁日も速やかに参集できる体制づくり ・参集の参集のでは、参集のでは、 ・参場のが参しでは、 ・参場のものでは、 ・BCPや応急対策では、 ・BCPや応急がでは、 ・Bで見ででは、 ・多の見ででは、 ・参いの見では、 ・、 ・、 ・、 ・、 ・、 ・、 ・、 ・、 ・、 ・、 ・、 ・、 ・、
④安否確認の遅れ ・連絡が取れない職員の安否 確認が遅くなった。	職員参集システムの周知 ・職員参集システムの周 知徹底 ・参集職員や参集メール の仕組みを毎年度初め に周知	職員参集システムの見直し



### (3)職員体制

課題・問題点	改善に向けた今後の取組	
・	短期	中長期
①被害状況の把握、避難所運営が計画通りできなかった ・市民からの問い合わせ等に 追われ、本来の役割を果たせなかった。	各種要綱等の見直し ・各種要綱等における配 備体制の見直し	被害情報発信手段の検討 ・市民からの問い合わせ を減らすため、被害状 況等を市民に発信する 仕組みの構築
②職員体制の効率化 ・初動対応は現地確認や業者 の手配などの業務が多く、特 に昼の職員が不足した。一方 で、発災日以外の夜間は、業 務量に対して人員に余裕が あった。	各種要綱等の見直し ・各種要綱等における配 備体制の見直し	長時間勤務に備えた計画 等の見直し ・長期間勤務を想定した 協力体制の見直し
③特定の対策部に負担が集中 ・特定の対策部に業務が大量 かつ長期間に渡って生じ、担 当職員だけでは対応しきれ なかった。	<b>負担を平準化できる計画等の見直し</b> ・地域防災計画及び災害 対策本部規程の見直し ・他市町村被災地への積 極的な職員派遣等によ る職員育成	<b>負担を平準化できる計画等の見直し</b> ・長期間勤務を想定した協力体制の見直し
④BCPの判断基準が不明確 ・緊急性の高くない通常業務 の継続と停止、縮小の判員の 非常に難しく、一部の職員の 負担が大きくなった。特害対 により、災害対 応の人員が限られた。 ・災害対応を優先し、通常業務 が縮いしていることについ ての苦情を受けた。	<b>BCPの再検証</b> ・各対策部のBCPの再 検証	<b>BCPの再検証</b> ・全庁的な実行性のある BCPの再検証 ・災害対応を優先してい ることについての市民 理解向上



# 検証項目 2 情報の受発信

### ◆ 主な動きと対応状況

月日	 主な動き	対応状況
1/1	緊急地震速報発表 津波警報発表 避難指示発令 震度情報発表(震度 5 強)	防災行政無線、メール、市 HP、SNS 等で発信 各対策部において情報収集開始 (「災害対応概要」として共有・発信) 新潟市国際交流協会と連携し、外国人被害状況 の把握や情報提供を開始
	新潟市ホームページに地震関連情報まとめ サイト開設 新潟市 LINE 公式アカウントで地震まとめ サイト開設を通知	詳細な情報を発信できる特性を生かし、順次、掲載内容の充実を図る。 プッシュ型で情報発信できる特性を生かし、順次最新情報を発信
1/3	西区一部地域に避難指示発令(土砂災害)	市ホームページ等で発信(戸別訪問も実施)
1/4	Yahoo!JAPAN 等による地震関連の情報発 信を開始	り災証明の交付や生活再建支援制度等について 発信し、以降、順次発信
1/5	ラジオ番組を通じた地震関連の情報発信を 開始	地震関連情報の市ホームページ掲載について発 信し、以降、順次発信
1/5	「被災者支援制度 利用の手引き」を発行	生活再建支援制度等を整理し発行。以降、順次内 容を更新し発行
1/12	市長記者会見を開催 2/2、2/15、3/22 にも開催(計 4 回)	これまでの対応状況や今後の取組について説明
1/12	「新潟市災害対策本部からの大切な お知らせ(Vol.1)」チラシを発行 1/24 Vol.2、2/8 Vol.3、3/5 Vol.4、 3/19 Vol.5 を発行(計 5 回)	相談窓口、り災証明の交付等について掲載した チラシを発行。被害が大きかった地域を中心に 配布。以降、支援制度等を掲載し発行
1/13	テレビ番組を通じた地震関連の情報発信を 開始	市ホームページへの案内等を発信し、以降、継続 して発信
1/16	記者ブリーフィング(説明会)を開催 1/19、1/23、1/26、1/30、2/6、2/9、 2/13、2/16、2/20 にも開催(計 10 回)	被災相談窓口や生活再建支援制度の新設等につ いて説明。以降、最新情報を発信
1/21	「市報にいがた」を発行 2/4、2/18、3/3、3/17 にも発行(計5回)	り災証明書の交付や各種支援制度について掲載
1/29	「被災者支援制度 利用の手引き」 WEB 版を公開	被災状況や家族構成などにより生活再建支援制 度の候補を検索可能に。
2/19	「各対策部の動向共有シート」作成・共有	各対策部の動向を共有し、全体の取り組み状況 を可視化。以降、順次更新
3/14	新聞広告を掲載 3/28 にも掲載(計 2 回)	り災証明書の交付や被災者相談窓口の案内等を 掲載



### (1) 市民への情報発信

588年,888年上	改善に向け	た今後の取組
課題・問題点	短期	中長期
①きめ細やかな情報発信が不足していた ・津波警報による避難指示の対象地域が分からなかった。 ・地域ごとのリスク等の情報発信がなかった。 ・津波や被害の情報が避難所に提供されなかった。	きめ細やかな情報発信 ・被災者の立場にたった情報発信の実施 ・報道機関との協議・ 連携	情報発信の仕組みの検討 ・GISの活用と災害時 情報システムと連動し た情報発信の仕組みの 検討
②受け手に合わせた情報発信手段が不足していた・テレビ、ラジオを有効に活用できていなかった。・防災行政無線の内容が聞き取りづらかった。また、数が足りていない。・スマートフォンを持っていない市民等への情報伝達手段が少ない。	現在の情報発信手段の 見直し ・テレビやラジオのの有 の対話用方法につい がらの情報入手 手段の啓発 ・平時から災害時等の 緊急情報入手 周知、啓発	他の情報発信手段の検討 ・デジタル媒体に限らず 情報を受信できる手段 を検討 ・防災行政無線の運用方 針の検討
③避難情報の一部不配信 ・津波警報による避難指示を報 道機関に情報提供する L アラ ートの配信を行わなかった。	確実かつ迅速な配信の 実施 ・手動配信が必要なこ とについて本部事務 局内の周知徹底	確実かつ迅速な配信の 実施 ・津波警報の発表による 自動配信が可能となる よう関係機関と協議
④統一的な情報発信の実施 ・被災者の支援制度が新設された際の周知の方法やタイミングについて、制度ごとにばらつきが生じた。	統一的でリアルタイム な情報発信体制の検 ・効果的か信がのででのがでででででででででででででででででででででででででででででででで	統一的でリアルタイムな情報発信体制の検討・災害時の支援制度構築時の周知に加え、その先の手続きについてもオンラインでの実施が可能か検討



### (2)被害情報の収集

 	改善に向けた今後の取組	
課題・問題点	短期	中長期
①速やかな情報収集体制が不足 ・ で被害をでは、 ででで、 でで、 でで、 でで、 でで、 でで、 でで、 でで、 でで、	情報収集体制の強化 ・	避難所開設情報の発信 ・避難所の開設状況を情報発信できるシステムの導入を検討
②所管施設に対する閉庁日の情報収集体制が不足・所管施設の被害情報を収集する際に、休日や夜間で施設を管理する指定管理者に連絡が取れない場合があり、情報を得られなかった。	<b>閉庁日の連絡体制の確認</b> ・管理施設における指定管理者との緊急連絡網と運用の再確認	専門家による点検体制の 構築 ・発災後、できるだけ早 期に専門家による施設 点検を実施できる体制 の構築
③統一した情報収集体制の 構築 ・聴き取りの様式が定まって おらず、統一した内容で被 害状況等の聴取ができな かった。	必要となる被害情報の精査 ・統一の聴き取り様式を設けるなど、マニュアルを整備し、関係部署で共有	



### (3) 収集情報の共有

課題・問題点	改善に向けた今後の取組	
・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	短期	中長期
①庁内の情報共有の不足 ・本部事務局から各対策部・ 区本部が得られる情報が 限られていた。 ・区内の断水状況を水道局 へ複数回電話確認した。	情報共有体制の見直し ・報道発表前の庁内周知の 徹底	情報共有手段の検討 ・本部事務局と各対策部、 区本部が効率的に情報 共有できるシステム構 築に向けた検討
②対策部内での情報共有が 困難 ・様々な要望が各所属に直 接入り、部内共有に苦慮 した。	対策部を単位とする情報 共有体制の強化 ・情報連絡員を起点とした 情報伝達系統の確立	情報共有手段の検討 ・本部事務局と各対策部、 区本部が効率的に情報 共有できるシステムの 構築に向けた検討
③回線途絶時の連絡手段が不足 ・地上での通信が途絶えた場合、本部事務局や各対策部との連絡手段がなくなることが想定される。		衛星通信機器の導入検討 ・インターネットに接続 できる衛星通信機器の 導入検討
④システムの操作性の向上 ・災害時情報システムが使 用しにくい。	システムの周知と訓練 ・災害時情報システムの使 い方の周知と訓練実施	<b>システムの見直し</b> ・災害時情報システムの 見直しを検討
<ul><li>⑤わかりやすい庁内情報の発信</li><li>・災害対応掲示板*が分かりにくい。</li><li>(*職員専用のシステム)</li></ul>	掲示板の周知と訓練 ・災害対応用掲示板の使い 方の周知と訓練実施	<b>掲示板の見直し</b> ・災害対応掲示板の見直 しを検討



### (4)報道機関への対応

課題・問題点	改善に向けた今後の取組	
	短期	中長期
①記者ブリーフィングが都度開催となった ・記者ブリーフィングについて、必要な都度の開催となり、計画的に開催できなかった。	記者ブリーフィングのマニュアル化・開催手法についてマニュアルに記載 タイムリーな情報提供の検討・タイムリーな情報提供にの協議を踏まえて検討	<ul><li>記者ブリーフィングのマニュアル化</li><li>・本部事務局の役割を再編</li></ul>
<ul><li>②プレスルームの利用頻度が低い</li><li>・プレスルームを開設したが、利用されている頻度が少なかった。</li></ul>	プレスルームの設置・廃止体制の検討・災害時のプレスルームの設置や廃止について、災害の種類や規模等により柔軟に対応できるよう見直しを検討	



# 検証項目3 避難行動

### ◆ 主な動きと対応状況

月日	主な動き	対応状況
1/1	地震発生 新潟市災害対策本部設置 津波警報発表、避難指示(津波)	1/1 の午後 8 時 30 分時点で 288 か所を開設 避難者された方は約 1 万 4 千人を超えた。 3/31 に避難所閉鎖
1/2	警報解除、津波注意報発表	
	津波注意報 解除	
1/3	避難指示(土砂災害 西区 19 軒)	余震や降雨により土砂災害が発生する恐れがあるため、西区の一部の地域に避難指示を発令

### (1) 市民の避難行動

課題・問題点	改善に向けた今後	の取組
・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	短期	中長期
①平時における避難行動の啓発不足 ・原は徒歩避難であるが、48.4%が通難であるが、50.4%で避難所の駐車」の財産を要しており場合のでは、50.0%では、52.0%がでは、52.0%がでは、52.0%がでは、52.0%がでは、52.0%がでは、52.0%がでは、52.0%がでは、52.0%がでは、52.0%がでは、52.0%がでは、52.0%がでは、52.0%がでは、52.0%がでは、52.0%がでいた。時には、52.0%がでは、52.0%がでいた。時には、52.0%がでは、52.0%がでは、52.0%がでは、52.0%がでいた。時には、52.0%がで	ハザードマップ、避難所開設 基準、避難行動の周知と防災 意識の啓発	



課題・問題点	改善に向けた今後の取組	
・	短期	中長期
③避難所外の避難の課題 ・医療機関など津波避難ビルに指 定していない施設へ多くの市民 が避難していた。災害対応を行 う拠点施設として使用に支障が でることが懸念された。	<b>指定避難場所等の周知</b> ・避難所、避難場所、津波 避難ビルの周知	避難所開設情報の発信 ・避難所の開設状況 を情報発信できる システムの導入を 検討
<ul><li>④自助に対する理解の促進</li><li>・何も持たずに避難してくる市民が多かった。</li><li>・「避難所で何もしてくれなかった」「必要とする備蓄がなかった」などの意見があり、自助の認識が低いことから、防災意識の啓発を図る必要がある。</li></ul>	防災意識の啓発 ・避難する場合には、食 料や水などの非常持ち 出し品を持参すること を周知	
⑤ハザードマップがわかりにくい ・浸水想定の具体的な高さ等を認 識しづらいため、適切な避難行 動につながらなかった。	<b>ハザードマップの見直し</b> ・わかりやすいハザード マップの作成検討	
6防災関連事業の参加率が低い ・自治会・町内会や新潟市等が実施 する防災関係事業に61%が「参 加したことがない」ことから、有 事の備えなど確認する機会が少 ない。	訓練の参加促進 ・地域の防災訓練への参加 について、啓発するとと もに、訓練を実施してい ない自主防災組織を対象 に、訓練の実施促進	



# 検証項目4 避難所等運営

### ◆ 主な動きと対応状況

月日	主な動き	対応状況
1/1	地震発生 新潟市災害対策本部設置 (3 号配備)	1/1 の 20:30 時点で 288 か所を開設。避難された方は約1万4千人を超えた。
	津波警報発表、避難指示(津波)	避難所生活の長期化を見込んだ運営開始 (人員・食事の手配等)
1/2	警報解除、津波注意報発表	(八貝・艮争の子郎寺)
	津波注意報 解除	
1/3	<以降、西区の対応> 保健師による避難所巡回開始	<以降、西区の対応> 避難所の衛生状態や避難者の健康状態確認 のため避難所へ保健師が訪問
		1/3 の午後 3 時時点で 8 か所を開設 避難された方は 75 人
1/4	長期化を見込む避難所 2 施設の運営を開始 ・坂井輪コミュニティセンター ※新潟市防災士の会の支援あり ・黒埼市民会館	
1/7	黒埼市民会館にペット同行避難用スペース 設置	
1/15	黒埼市民会館のペット避難スペースを同行 避難用から同伴避難用スペースに改変	1/22~26 1 家族が利用(猫)
1/31	坂井輪コミュニティセンター閉鎖	避難生活の継続が必要な5世帯6名に老人福 祉センター黒埼荘避難所への移動を依頼
2/1	老人福祉センター黒埼荘開設	
3/3	黒埼市民会館閉鎖	黒埼市民会館のすべての避難者が退所
3/31	老人福祉センター黒埼荘閉鎖	老人福祉センター黒埼荘のすべての避難者 が退所 市内全ての避難所が閉鎖



## (1) 避難所等の開設、運営ルール

=#1 85 88 85 <del>  L</del>	改善に向けた今後の取組	
! 課題・問題点 	短期	中長期
①避難所開設時の混乱 ・開錠が遅れガラスを割って入場した。 ・少ない人数で多くの避難者の出入りを把握するのは難しい。 ・備蓄物資の保管場所が分からなかった。 ・上階への避難誘導が行われなかった。 ・避難者カードを作成できなかった。 ・避難者カードの取り扱い、管理方法が不明確である。 ・避難所運営マニュアルが分かり	平時における避難所運営の意識啓発 ・避難所の開設基準や非常持ち出し品の準備など市民への防災意識の啓発 ・避難所運営委員会の立ち上げ促進 マニュアルの見直し・避難所運営マニュアルの見ってルの見での領域を 防災訓練の実施	
にくい。 ・避難所運営について話し合われていない地域がある。 ・平時の防災訓練が不足しており、災害時に対応ができていない。・外国人との意思疎通が困難だった。 ・避難所の鍵を持っている方の負担が大きい。また、速やかに開錠されない避難所があった。 ・避難所まで距離が遠く、すぐに職員が参集できなかった。	<ul> <li>・平時における防災訓練の実施促進</li> <li>・多様な視点での防災訓練の実施促進</li> <li>・地域住民、施設管理者、避難所指名(担当)職員の顔の見える関係構築</li> <li>鍵ボックスを設置</li> <li>・各避難所に鍵ボックスを設置し、迅速に鍵を開錠できる体制構築</li> </ul>	
②避難所開設基準が複雑 ・津波浸水想定区域内の避難所 を兼ねている津波避難ビルに ついて、津波警報が発表され ている状況で参集するかどう か迷った職員がいた。	開設基準の周知徹底 ・避難所指名 (担当) 職員に 対する周知徹底 マニュアルの見直し ・避難所運営マニュアルの 見直し	
③避難者数の集計・報告方法の 認識不足 ・避難所の開設状況や避難者数 等の集計に時間を要した。	報告方法の周知徹底 ・避難所指名(担当)職員 に対する報告方法の周知 徹底 報告方法の周知徹底 ・避難所指名(担当)職員の スマートフォンなどによる状況報告の徹底	
④避難者の集計方法の未整備 ・津波避難ビルとの連絡が円滑 でなく、避難者数が集計でき なかった。		津波避難ビルからの 情報収集手段の検討



## (2)避難者への物資・食料の提供

課題・問題点	改善に向けた今後の取組	
	短期	中長期
①備蓄物資の配置体制の課題 ・食料備蓄がない避難所がある。 ・備蓄物資の数量や備蓄スペースが不足している。 ・避難所にある備蓄物資の問知と各家庭での備蓄にのでのでいた。 ・女性用品や乳児用品の備蓄が足りない避難所がある。	個人の備えに対する啓発 ・日頃から家庭での食料品等 の備蓄に取り組むよう周 知啓発  分散備蓄の推進  女性視点の防災対策推進	<b>備蓄スペースの検討</b> ・公共施設再編を検 討する際に、備蓄 スペースの確保を 検討
②備蓄物資の配布時期 ・備蓄品の使用について、現場での判断に戸惑った。 ・備蓄品の配布のタイミングがわからなかった。 ・避難所ではない施設から備蓄品の提供要請があり、配付してよいかわからなかった。	配布方法・時期の検討 ・配布方法や避難の長期化を 見据えた基本的な方針の 検討	
③使用後の備蓄物資の迅速な処理 ・使用済み毛布の処理に時間がかかった。	使用済みの物資の処理方針 の事前検討	
④物資調達システムの運用 ・物資調達システムの操作に 時間を要した。	操作研修の実施	



### (3) 要配慮者への対応

課題・問題点	改善に向けた今後の取組	
杯这 门龙	短期	中長期
①要配慮者の避難体制の構築不足 ・要配慮者の避難に係る支援に合いを ・要配慮者の避難に係るが、具体があるが、具体があるがあるが、表生があるが、調整したが ・選だった。 ・避難者が一時的に配慮がで、り、 ・避難者がったので、ので、がで、と がで、まなかにでいるといるがとは、18.5%で最もた。 ・選達えたはは18.5%でよれるが、と にはは18.5%でよれるが、と にははながあるといるがので、 ・車椅は、ので、 ・力に、 ・プラカーに、 ・プラカ方法を取り入れるであった。 ・プローにある。	避難行動要支援者名簿のの作成事でである。 では では で で で で で で で で で で で で で で で で	
②要配慮者への情報伝達手段不足 ・障がいの特性に応じた情報伝達手 段などの運用が明確でなかった。		情報伝達手段の検討 ・緊急時も含めた手 ・緊急時も(選問を ・関係を ・野ので ・野ので ・野ので ・手ので ・手ので ・手ので ・手ので ・手ので ・手ので ・手ので ・手
③福祉避難所の開設判断が困難 ・福祉避難所を開設するニーズを把握できなかった。 ・指定避難所での要配慮者スペースが確保できなかった。	避難者カードの記載と聞き取りの徹底 ・避難所受付時の聞き取りを確実に行い、ニーズを把握	福祉避難所での避難 者の受け入れ体制の 見直し



### (4)避難所でのペット対応

課題・問題点	改善に向けた今後の取組	
訴題·   印超点	短期	中長期
<ul> <li>①ペット避難の際の避難所でのルールが不明確</li> <li>・ペットスペースを設けていない避難所があった。</li> <li>・ペットが屋内に入れないため、避難所には入らなかった避難者がいた。</li> <li>・ペット連れの避難者が複数いたが、ケージに入れている人りードのみの人がいた。</li> </ul>	<b>ペット避難のルールの</b> 明確化・周知 ・ 周知 ・ でを促進 ・ 同行避難と同伴避難 の違いを周知 ・ ペットスペースの別を 無知 ・ 無知	ルールの検討と飼い主 への訓練等の周知 ・同学を開始の同様では ・の同学ででは ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・

### (5)避難所外避難者の対応

課題・問題点	改善に向けた今後の取組	
	短期	中長期
①避難所外避難者の把握が困難		避難所外避難者の 把握方法の検討
②避難所外避難場所の利用方法の 周知不足 ・避難所でない津波避難ビルの避 難者から、施設管理者に毛布の 要望があった。	利用方法の周知 ・一時的に避難する場所 であることを周知	



# 検証項目 5 被害状況の調査

### ◆ 主な動きと対応状況

月日	主な動き	対応状況
1/1	道路施設災害時応援協力業者パトロール実施 直営パトロール実施	地震発生直後より災害時応援協定の協力業 者による主要幹線道路パトロールを実施 職員参集後、直営パトロールを実施
	下水道緊急点検(巡視調査)重要路線等	下水道において、直ちにあらかじめ指定された特に重要な路線の緊急巡視点検(目視調査)を業者が実施
1/5	下水道1次調査(マンホール蓋開閉目視調査) (1/5~1/11)	緊急点検及び新潟市災害時情報システム等 により被害が確認できた箇所と液状化の被 害が大きかった地域を中心にマンホール内 の目視調査を実施
1/6	建物被害認定調査拠点をふるまち庁舎に 設置し、調査開始	13 班体制で調査開始
1/7	チームにいがた合流、ローラー調査開始	チームにいがたが合流し調査班を 20 班体制 へ拡充。被害が集中する西区内の県道 17 号 線(寺尾線)沿線、黒埼地区、江南区天野地 区の一部においてローラー調査を開始
1/10	道路施設緊急点検(橋梁、トンネル) 実施 橋梁緊急点検 実施 法面緊急点検 実施 路面下空洞調査 実施	
	下水道 2 次調査(管渠内カメラ詳細調査) (1/10~2/6、2/26~3/2)	1 次調査で被害が確認された約 33 kmについてテレビカメラによる詳細調査を実施
1/11	建物被害認定調査拠点を移設 (旧新潟市環境事業公社へ)	最大 41 班体制へ拡充し、調査エリアを全市 に拡大。ローラー調査と申請調査を並行で実 施
1/19	建物被害認定調査拠点を移設 (新潟県立教育センターへ)	最大 70 班体制へ拡充
2/5	建物被害認定調査拠点を移設 (市役所本館講堂へ)	最大 43 班体制へ見直し
2/20	建物被害認定調査拠点を移設 (西総合スポーツセンターへ)	最大 32 班体制へ見直し、非木造調査チーム を立ち上げた。
3/6	建物被害認定調査の2次調査を開始	非木造 1 次調査が進捗したことから、2 次調 査を開始。最大 7 班体制
3/17	建物被害認定調査拠点を移設 (江南区役所大ホール)	最大 13 班体制へ見直し



## (1)被害状況の調査・報告

課題・問題点	改善に向けた今後の取組	
	短期	中長期
①情報収集不足 ・被害状況を把握するために 不可欠な資料 (写真) を作成 することができなかった。	情報収集体制の強化 ・SNSやスマホアプリ 等を活用し、職員や市 民から被害状況を直 接収集する仕組みの 検討	
②情報共有の不足 ・各区で調査し報告した内容 の庁内共有が不十分であり、 併せて区役所間での共有も 出来ていなかった。	各対策部での応急対策 マニュアルの再検証	
③システム入力に関する周知 不足 ・災害時情報システムに入力 すべき事案かどうか迷うこ とがあった。	職員研修の充実 ・災害時情報システム研 修の受講職員の拡大	国システムとの連携 ・総務省消防庁が管理す るシステムにも被害情 報を入力する必要があ るため、災害時情報シ ステムとの連携を検討

## (2) 住家被害認定調査

	改善に向けた今後の取組	
課題・問題点	短期	中長期
①住家被害認定調査に関す る準備不足	大規模災害時における調査 手法の再整理	継続した訓練の実施
・大規模災害に対応した調査 ・大規模災害に対応して ・方法・計画の決定及を ・方法の ・調査開始以降、3月末を ・調査開始以降、3月末復 ・調査開始以降、3月末復 ・調査構業務が増え、、 ・調査準備業務が増え、 ・調査時間勤務の ・物資の調達が定まって ・物資の調達が定まって ・物資の調達に時間を要した。	・班体制、指揮命令、調査準備を ・顕体制、指揮命令、調査準制 ・横業の応急対策マニュアの ・調査拠点適地の候補選定関 ・調変害所の事所利調整 ・大専門組織設置の検討 ・大専門組織設置の切り分は ・大規模調査に必要な ・大規に係る事前調整	被害想定に応じた対策の検討
②経験者の不足 ・調査経験(災害経験)のあ る職員が少なく、調査実施 及び被害判定に時間がか かった。	職員研修の充実 ・平時における一次調査の研修の実施 (資産税課、税新任研修等) 災害時の積極的な職員派遣 ・他都市の被災地支援への 積極的な職員派遣 (特に未経験者)	人材マネジメント 機能の強化 ・現場での迅速な意思 決定と的確な情報共 有を行える職員の育 成



# 検証項目6 受援体制

### ◆ 主な動きと対応状況

月日	主な動き	対応状況
1/2	【庁内の応援体制】 応急危険度判定に係る庁内応援要請 水道局 OB 職員への協力要請	建築部内から全庁体制へ段階的に拡充
1/4	罹災証明・被災届出証明受付窓口応援	西区における罹災証明・被災届出証明受付窓口 支援
1/5	避難所運営に係る応援体制	西区避難所に対する応援職員派遣
1/6	被害状況調査開始	30 名体制
1/9	災害対策チーム <西区方面隊> 発足 (土木部主体のチーム)	西区における道路被害状況把握及び災害査定 に係る作業支援
1/20	被害状況調査に係る応援体制拡充	60 名体制へ拡充
2/1	私道災害対策チーム発足	被害の大きい西区における私道災害復旧支援
1/2 1/3 1/5	【県との連携】 県から市災害対策本部へ DMAT 派遣 県に対し応急危険度判定に係る応援要請 チームにいがたの応援要請	リエゾン及び県本部による情報共有 給水状況、患者移送の必要性検討 1/7~1/31 各日 22 人
,	(住家被害認定調査)	
1/10	チームにいがたの追加応援要請 (住家被害認定調査)	1/15~1/31 各日 22 人
	応急対策派遣制度による職員の応援要請 (住家被害認定調査)	1/15~1/31 各日 20 人(山形県)
1/13	応急対策派遣制度による職員の応援要請 (住家被害認定調査)	1/19~1/31 各日 20 人(秋田県)
1/26	文化財ドクター調整	旧笹川家住宅等の現地調査
1/29	チームにいがたの追加応援要請 (住家被害認定調査)	1/31~2/4 各日 50 人
3/27	チームにいがたの追加応援要請 (住家被害認定調査)	4/4~5/3 各日 2 人
4/22	チームにいがたの追加応援要請 (住家被害認定調査)	5/7~5/31 各日2人



月日	主な動き	対応状況
1/1	【他都市からの受援体制】 県内事業体へ応援要請 (水道応急復旧、応急給水)	1/2~1/3 新発田市、加茂市、魚沼市 1/2~1/6 五泉市、村上市、阿賀野市 三条市、燕弥彦総合事務組合
1/2	県外事業体へ応援要請 (水道応急復旧、応急給水)	仙台市、さいたま市
2/1	災害時相互援助協定締結市町村長へ職員派 遣要請(罹災証明書交付業務)	2/7~3/2 各日 10~13 人(10 市町村)
1/1	【民間団体との災害時応援協定】 水道局コールセンター受託者 新潟市管工事業協同組合 (公財) 新潟水道サービス	オペレーター増員 水道管応急復旧、応急給水 漏水調査
1/2	敦井産業 (株)第一環境	水道管路の復旧用材料調達 応急給水、電話受付
1/4	新潟県弁護士会	法律相談窓口
	一般社団法人新潟市下水道管路管理業協会 一般社団法人新潟県下水道維持改築協会 公益社団法人日本下水道管路管理業協会 中部支部新潟県部会	─マンホール調査、災害査定資料の作成等
1/5	新潟県土地家屋調査士会	市民相談
	新潟県測量設計業協会 新潟市造園建設業協会 新潟県地質調査業協会 建設コンサルタンツ協会北陸支部 新潟市橋梁補修技術協会 全国特定法面保護協会北陸地方支部	被災状況調査、路面下空洞調査、 —道路施設緊急点検、橋梁緊急点検、 法面緊急点検
1/15	公益社団法人全国上下水道コンサルタント 協会中部支部	災害査定用調書等の作成
	新潟県建築士会	1/15~3/29 被災住宅相談窓口
1/26	新潟県地質調査業協会	液状化調査



### (1) 庁内の応援体制

課題・問題点	改善に向けた今後の取組	
	短期	中長期
①応援体制の不足 ・災害初期における各対策 ・災害の業務量を把握庁る ・災害の対なが、対し内で ・対し内で ・対し内ででのはなが、 ・庁員したが、 ・庁員したが、 ・庁増員でする。 ・方でのしたが、 ・方でのが ・方でのが ・方でのが ・方でのが、 ・方でのが ・方でのが ・方でのが ・方でのが ・方でのが ・方でのが ・方でのが ・方でのが ・方でのが ・方でのが ・方でのが ・方でのが ・方でのが ・方でのかで。	応援体制の見直し ・応急対策マニュアルの見 直し ・職員の災害対応経験を踏 まえた応援体制の確立 訓練の実施 ・全庁が実施する訓練とは 別に、技術職などの専門 的な訓練の実施	応援体制の見直し ・災害種別の ・災害種別の ・業務のの ・業が ・のの ・での ・変を ・のの ・のの ・のの ・のの ・のの ・のの ・のの ・のの ・のの ・の

### (2) 県・他都市からの受援体制

課題・問題点	改善に向けた今後の取組	
	短期	中長期
<ul><li>①応受援体制が脆弱</li><li>・災害初期におけるできずいできずいではいいではいいではいいではいいではいいではいいではいいではいいではいいでは</li></ul>	マニュアルの見直し ・各対策部、各区本部の応援要 請の判断基準の検討 ・各対策部における受援計画 の策定 (対応職員や業務の明確化) ・災害状況に応じた他都市へ の応援要請のスキーム整理	



### (3) 民間団体との災害時応援協定

課題・問題点	改善に向けた今後の取組	
	短期	中長期
①協定先との連携不足 ・協定事業所の担当者と連絡が取れなかった。また協定事業所の協定内容や特性を把握していなかった。 ・協定事業所と事前の取り決めが不十分であり、協定発動の迅速性に欠けた。	協定内容の充実・強化 ・特に体日夜間における ・特に体子所との連絡体 ・協定事業所との連絡体 ・各種相談会等が開設間 ・各種相談施設と民間 ・能なのリスト化 ・設援内容の明確化、 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	
②協定事業所等の不足 ・各種相談会の会場について、協定事業所の施設を使用いる。 協定事業ができたが、優先的できたが、優先のできなければ開催ないできなければ開催ないが、対象を要請したいが、業高を要請が少ないの応急を事業があった。(市有施設の応急を判定など被害状況調度であるが件数が膨大な道路の応急復旧など)	協定事業所数の拡大 ・市外、県外事業所との 協定について検討	協定先との連携強化 ・災害時の民間施設使用 に係る連携協定の締結、具体的な協力体制 の構築 ・協定事業所の連絡員が 本庁(関係部署) 集する体制の構築



# 検証項目7 被災者支援

### ◆ 主な動きと対応状況

月日	主な動き	対応状況
1/3	【災害ボランティアセンターの設置運営】 救助と災害ボランティア活動との調整をするため、西区社会福祉協議会が西区災害ボランティア センターを開設	活動人数:延べ 1,904 人 活動件数:315 件 主な内容:敷地内や側溝の土砂撤去、
1/6	災害ボランティア活動を開始	家財などの運び出し
3/31	西区災害ボランティアセンターを閉所 4 月以降の活動は通常のボランティアセンター・ 市民活動センター(社会福祉協議会)へ移行	その他:アクアパーク、老人憩の家の 入浴施設を活動ボランティア へ無料提供
1/4 1/8 1/10 1/12 1/15 1/16	【被災者支援制度】 緊急の修理(プルーシート配布等)の受付開始 市営住宅への入居相談(電話) 被災者住宅応急修理事業の相談対応開始 市営住宅への入居(1次募集開始) 被災住宅相談窓口を開設 介護保険料及び介護サービス利用料の減免実施	西区役所、黒埼出張所 窓口追加(曽野木連絡所)
1/17 1/21 1/22 1/24	を公表 賃貸型応急住宅借上げ事業の受付開始 障がい福祉サービス利用料等の減免実施を公表 国民健康保険料の減免実施を公表 被災者住宅応急修理事業の受付開始 液状化等被害住宅修繕支援事業の受付開始 被災者生活再建支援金、災害援護資金貸付の 受付開始	西区役所、黒埼出張所
1/31 2/13	又内囲知   緊急の修理(プルーシート配布等)の受付終了   災害被災者住宅復興資金貸付金利子補給事業の	
2/13	受告級炎者住宅後與真並真的並約了補給事業の 受付開始 液状化等被害住宅修繕支援事業	
3/8	(傾斜修繕加算の追加) 神災ブロック等数まて東ばい東端の乗け開始。	
3/21	被災ブロック等撤去工事補助事業の受付開始 液状化等被害住宅建替・購入支援事業、	
3/29	被災者転居費支援事業の受付開始 被災ブロック等撤去工事補助事業の受付終了	
1/24	【被災相談窓口】 西区役所、黒埼地区総合体育館、中央区役所、 曽野木地区公民館の4会場で被災相談窓口	
1/29 2/1	を開設 西総合スポーツセンターで被災相談窓口を開設 北・東・秋葉・南区役所、西蒲区西川出張所で	
2/29	被災相談窓口を開設 西区役所会場一時休止(確定申告会場で使用)	西区役所と西総合スポーツセンター間で
3/31	黒埼地区総合体育館会場閉鎖	シャトルバスの運行



### (1) 災害ボランティアセンターの運営支援

課題・問題点	改善に向けた今後の取組	
	短期	中長期
①情報共有の不足 ・本部事務局から災害ボラン ティアセンターが得られる 情報が限られていた。	情報共有体制の見直し ・情報共有方法の見直し	

### (2)被災者支援制度

課題・問題点	改善に向けた今後の取組	
	短期	中長期
①体制の未整備 ・今回の被害を踏まえた支援 制度の新設や既存制度の 充により、支援を開始した が、制度設計から運用開開口 でに時間を要した。(グリイン ・特定の時期に申請が集中し、 受付後の事務処理に時間を 要した。(生活再建支援金・ 応急修理・住宅修理・ブロック塀)	マニュアルの見直し ・発災後の迅速な対応 を図るために、既存支 援制度の研修や訓練 を行い、職員の理解度 を向上	応援体制の構築 ・被害情報の収集・情報共 有を踏まえた庁内応援 体制の再構築  継続的な情報収集 ・今後の発災時に創設さ れる他都市の支援制度 を定期的に情報収集



## (3)被災相談窓口

課題・問題点	改善に向けた今後の取組	
	短期	中長期
①マニュアル・計画が不十分 ・地域防署だけで対応で対応で対応ので対しまれた。 ・被災の会はですが、一人では、 ・被災の会がです。 ・を開設では、 ・を開設で対した。 ・を開設をはいる。 ・各に対して、 ・各に対して、 ・各に対して、 ・各に対して、 ・各にある情報がは、 ・のののが、 ・各にある情報が、 ・のののである。 ・各にある。 ・各にあるでは、 ・本のののでは、 ・本ののでは、 ・本ののでは、 ・本ののでは、 ・本ののでは、 ・本ののでは、 ・本ののでは、 ・本ののでは、 ・本ののでは、 ・本ののでは、 ・本ののでは、 ・本ののでは、 ・本ののでは、 ・本ののでは、 ・本ののでは、 ・本ののでは、 ・本のでは、 ・本ののでは、 ・本ののでは、 ・本のでは、 ・、 ・本のでは、 ・、 ・、 ・本のでは、 ・、 ・、 ・、 ・、 ・、 ・、 ・、 ・、 ・、 ・、 ・、 ・、 ・、	マニュアルの見直し・ おいか はい	災害時おける公共施設の 優先利用 ・災害時における公共施設を優先的に確保できる仕組みづくり
②応援体制が不十分 ・相談窓口の職員数不足に加 えて庁内から経験不足の派 遣職員が日替わりで従事し たことで、受付事務がスムー ズに進まなかった。	応援体制の構築 ・あらかじめに援先を ・あらなど実効性の ある応援体制構築 ・窓口開設に向けた ・窓口開設に検 ・窓口開設に ・窓口 ・窓口開設に ・窓口 ・窓口 ・窓口 ・窓口 ・窓口 ・窓口 ・窓口 ・窓口	外部人材の活用 ・支援制度を理解し、窓口 対応可能な人材を有す る団体等の活用を検討



# 検証項目8 インフラ関連

### ◆ 主な動きと対応状況

月日	主な動き	対応状況
1/1	地震発生 信濃川浄水場:配水圧力を制限(低下)	全浄水場の浄水機能に問題無し 信濃川浄水場:制御弁作動 内野配水場 :制御・遮断弁作動 順次漏水調査、管路修繕を開始
	第1回水道対策部会議 開催 応急復旧体制、集中電話受付体制を構築 青山浄水場:配水圧力を制限(低下)	配水池の保有水量が減少した為、広域的 な断水を回避するための措置
	第2回水道対策部会議 開催 応援要請 県内事業体	県内事業体へ応援を要請
	停電発生 ・北区内沼、浦木(約 20 戸) ・西区大野(約 50 戸) ・南区味方、吉江(約 200 戸) ・南区和泉(約 60 戸) ・西区善久、立仏、山田 など(約 600 戸)	停電復旧 ・北区内沼、浦木 ・南区味方、吉江、和泉
	西区内の複数カ所でガス臭の情報	北陸ガスが原因 (損傷カ所) の特定、修理 の対応
	パトロール開始(直営・協定業者) 道路・下水道応急復旧	発災直後より、道路の陥没や隆起、下水道 の排水不良などへの応急復旧工事を実施
1/1~1/4	緊急点検(下水道)重要路線等	災害協定に基づき、緊急巡視点検を業者 が実施
1/2	応急給水拠点の準備開始 信楽園病院 応急給水開始 応急給水拠点の運用開始(3施設)	給水車による給水活動を開始 ・西区役所、坂井輪中、山田小
	第3回水道対策部会議 開催 応援要請 県外事業体 (2都市) 信濃川浄水場 段階的に水圧上昇	基幹管路の漏水調査完了(漏水無) ・さいたま市、仙台市に応援を要請 止水対応の進展により配水量が安定徐々 に通常圧力へ復旧
	第4回水道対策部会議 開催 青山浄水場 配水量削減を目的に区域変更 応急給水拠点の増設(6施設)	青山浄水場の供給区域の一部を阿賀野川 浄水場の供給区域に編入 ・黒埼中、立仏小、五十嵐小、坂井輪小、 坂井輪コミュ、五十嵐コミュ
	停電発生 ・西区立仏、鳥原 など(約 100 戸) ・西区内野、内野潟橋端など(約 300 戸)	停電復旧 ・西区大野、善久、立仏、山田、鳥原など
	第5回水道対策部会議 開催	



日時	主な動き	対応状況
1/3	第6回水道対策部会議 開催 青山浄水場 段階的に水圧上昇 信楽園病院_応急給水終了 第7回水道対策部会議 開催	区域変更や止水対応の進展により、配水 が安定し徐々に復旧 受水槽復旧の為
	停電発生 ・江南区嘉木、鐘木 など(約50戸)	停電復旧 ・江南区嘉木、鐘木 など ・西区内野、内野潟端 など
1/4	第8回水道対策部会議 開催 応急給水拠点の閉鎖(5施設)	山田小、五十嵐小、五十嵐コミュ、坂井輪 コミュ、黒埼中を閉鎖 配水管の復旧工事が概ね終了
1/4~	液状化により発生した土砂の運搬撤去	液状化により発生した土砂について、住 民が撤去し土のう袋に入れたものを契約 業者による回収処分を実施
1/5 1/5~1/11	第9回水道対策部会議 開催 緊急被害状況パトロールの実施(公園) 被災状況調査:一次調査(道路・下水道)	被害の有無についてパトロール実施 国への被害報告の為、被災状況調査実施
1/6	停電発生 ・西区一部(約 20 戸) ・中央区近江、和合町(約 700 戸)	停電復旧 ・西区一部 ・中央区近江、和合町
1/7 1/9	第10回水道対策部会議 開催 第11回水道対策部会議 開催 応急復旧体制、集中電話受付体制を解除	
1/10~2/6 2/26~3/2	被災箇所調査:二次調査(下水道)	災害査定資料の作成を目的としたテレビ カメラによる詳細調査を実施
1/11	応急給水拠点の閉鎖(3施設) 増設(1施設) 国土交通省へ被害報告	坂井輪中、坂井輪小、立仏小を閉鎖 黒埼北部公民館に設置
1/12 1/15~	停電発生 ・西区上新栄町、寺尾、寺尾台、西小針台、 松海が丘など(約 5,000 戸) 被災箇所調査(道路・公園) 災害査定用測量設計	停電復旧 ・西区上新栄町、寺尾、寺尾台、西小針台、 松海が丘など 災害申請に向け、被害箇所調整を実施
1/25	国土交通省による災害緊急調査	国へ災害査定官の派遣を要請し、復旧方
1/30 1/31	1月臨時議会 復旧事業に係る補正予算 災害報告(1カ月訂正)	法等について協議
2/20	占用調整会議の開催(震災関連)	災害復旧工事に係る各種占用者(上下水 道、ガス、電力)と情報共有と工程調整を
3/11~5/10	国庫負担申請	実施 国土交通省へ国庫負担申請を行い、災害 復旧に係る査定を実施
	災害査定(道路・公園・下水道)	道路災 306 件、公園災 9 件、下水災のう ち管渠 35 件、施設 6 件が採択



## (1) 上水道の応急修繕

課題・問題点	改善に向けた今後の取組	
	短期	中長期
①水道管の耐震化 ・地震に弱い水道管が漏水した。		水道管の耐震化の加速 ・水道管の耐震化を加速 させる施策の検討
②工事業者の不足 ・水道施設の修理を行う工事 業者の確保に苦慮した。	<b>工事業者の確保</b> ・県内外の事業体との災 害協定の活用による工 事業者の確保	
③応急給水設備の運搬・設置 に苦慮 ・応急給水所の設置に伴う応 急給水設備の運搬・設置に 苦慮した。	応急給水設備の保管方法 の検討 ・避難所等にあらかじめ 応急給水設備を保管す ることの検討	災害時用水栓設置の検討 ・迅速かつ的確に応急給 水が行える体制を確立 するための設備の設置 検討
④職員の経験不足 ・給水車の差配、運転操作や 仮設水槽組立の経験があ る人員の確保に苦慮した。	訓練の継続 ・訓練を通した給水車の 運転操作や仮設水槽組 立方法の習得	



## (2) 道路の応急修繕

-m 85 88 85 b	改善に向けた今後の取組	
課題・問題点	短期	中長期
①被害情報の把握体制が不十分 ・区対策本部に速やかに報告を するよう協定に基かららの通報 に対応した結果、初動対応 に対応した結果、初動対応 遅れた。 ・津波警報の発表により沿ここ から当該地域の被災状況の把 握が遅れた。	協定事業者との協定内容 再確認 ・ (範囲では、 ・ でででででででででででででででででででででででででででででででででででで	協定事業者との連携強化 ・各協定締結業者間とで バックアップ体制を構 築し、管内隅々の市管理 道路全線のパトロール 結果の速やかな報告
②資機材の不足 道路の安全確保や応急対応な どに伴う通行規制等を行う場 合、保有している資機材が十 分ではなかった。	資機材の備蓄 ・災害時を想定した必要 な資機材の備蓄・調達 に向け、区対策本部(地 域総務課)との協議	<b>資機材の調達</b> ・各協定締結業者の保有 資機材情報を共有し、 必要に応じて融通する 仕組みの構築
③調査体制が不十分 被害の多かった3区(西、江 南、中央)へ少ない5区からの 応援体制の構築が無い中、国 が行う災害査定調査の準備や 調査を受けた。	<ul><li>災害対策体制の構築</li><li>・関係職員による体制を 構築し、一括して災害 対応及び復旧工事を実 施</li></ul>	被害情報収集体制の整備 ・災害時情報システムや GIS連動させ、位置 情報を持たせた被害状 況を把握する仕組みの 検討



## (3) 下水道の応急修繕

課題・問題点	改善に向けた	改善に向けた今後の取組	
	短期	中長期	
①被害状況の把握が困難 ・被害状況の早期の全容把握 が困難であった。	被害情報収集体制の整備 ・対応状況の可視化 ・SNSやスマホアプリ等 を活用し、職員や市民から被害状況を直接収集する仕組みの検討	被害情報収集体制の整備 ・災害時情報システムと GIS (位置情報) を連 動させ、被害状況をリ アルタイムに把握する 仕組みの検討	
②応急修繕工事体制の未整備 ・応急修繕工事体制が構築できていなかった。 ・応急対応できる資機材を確保できなかった。(水中ポンプ、ホース、安全備品)	連携体制の見直し ・道路では、 ・管理者には、 ・管理者には、 ・管理者には、 ・管理者には、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・で	資機材の調達と備蓄 ・応急対応できる資機材の調達と備蓄(水中ポンプ、ホース、安全備品)	



# 検証項目 9 その他(応急危険度判定)

### ◆ 主な動きと対応状況

月日	主な動き	対応状況
1/2	応急危険度判定を開始 (申込制、住宅相談として実施)	【体制及び件数】 1班2名体制で応急危険度判定を実施 1/2 3班 15件 (市6名)
1/3	応急危険度判定士の応援要請(市→県) 市ホームページにて応急危険度判定の実施 について周知 ・受付期間 ~1/7 ・実施期間 ~1/8(当初の予定)	1/3 6班 73件 (市 12名)
1/4	県の応援職員の派遣開始	1/4 15 班 173 件 (市 14 名 県 16 名) 1/5 15 班 171 件 (市 10 名 県 20 名) 1/6 30 班 283 件 (市 11 名 県 31 名 士会 18 名)
1/7	応急危険度判定の受付終了 実施期間の延長を周知	1/7 36 班 368 件 (市 9 名 県 32 名 士会 31 名) 1/8 12 班 122 件 (市 10 名 県 7 名 士会 7 名) 1/9 31 班 266 件 (市 10 名 県 30 名 士会 22 名)
1/10	県の応援職員の派遣終了	1/10 34 班 272 件 (市 13 名 県 29 名 士会 26 名) 1/11 1 班 3 件 (市 2 名)
1/12	応急危険度判定終了	1/12 1班 4件 (市2名)



## (1) 応急危険度判定

課題・問題点	改善に向けた今後の取組	
	短期	中長期
①運用マニュアルの活用が 不十分 ・判定本部としての実績がないため、円滑な運営ができなかった。	<b>運用マニュアルの見直し</b> ・運用マニュアルの精査 とブラッシュアップ	
②災害情報収集の不足 ・発災当初の民間建築物の被 災状況について情報が不足 しており、応急危険度判定の 実施可否の判断に苦慮した。	情報収集体制の強化 ・SNSやスマホアプリ 等を活用し、職員や市 民から被害状況を直接 収集する仕組みの検討	
③業務量の過多 ・判定対象の設定を申込制と したが、申請者への対応の負 担が大きかった。	配備人員の整備 ・災害対応時の人員体制 の整備 研修と訓練の実施 ・平常時の研修と訓練の 実施	
④情報発信の不足 ・応急危険度判定とり災判定を混同される市民が多く、対応に苦慮した。	情報発信のあり方の見直し	



# 検証項目 9 その他(災害廃棄物)

### ◆ 主な動きと対応状況

月日	主な動き	対応状況
1/3	【共通】環境省関東地方環境事務所 来庁	被害状況確認及び今後の対応について協議
	【自搬】災害ごみ自己搬入無料受付決定 期間:1/4~1/31 受入施設:各清掃センター 中継施設 赤塚埋立処分地	【自己搬入】 地震により被害を受け損壊した家財道具などを「災害ごみ」と位置づけ、自己搬入による手数料を無料とした。なお、新田清掃センター、赤塚埋立処分地は1月中、祝休日も受入れした。
1/11	【自搬】無料受付期間延長(1/31→2/29)	入れした。     受入れについては、HP 及び公式 SNS により
1/15	【ボラ】災害ボランティア対応災害ごみ 収集開始	広報を実施。
1/18	【公費】国説明会	受入れ状況に応じ順次受け入れ期間を延長。 (6月から罹災証明書を提示)
2/16	【自搬】無料受付期間延長(2/29→3/30)	災害廃棄物の仮置場は状況注視とし、設置は 保留した。
	【公費】関係要綱施行	本田した。     【公費解体】
2/26	【公費】公費解体窓口設置・申請受付開始	【公員府体】   災害による公費解体を実施したことがある     自治体情報を収集するとともに、国の取り扱
3/19	【自搬】無料受付期間延長(3/30→5/2)	日石体情報を収集するとともに、国の取り扱いなどを確認し、制度の検討を進めた。
4/23	【自搬】無料受付期間延長(5/2→9/30)	【ボランティア対応災害ごみ等】 災害ボランティアによる災害ごみの収集に あたり、清掃事務所の通常業務を一部停止 し、優先的に対応できるよう体制を整え対応
	< 凡例 > 【共通】: 災害ごみ全般 【自搬】: 自己搬入 【公費】: 公費解体 【ボラ】: ボランティア対応災害ごみ等	避難所の災害ごみ収集も実施



### (2)災害廃棄物

=====================================	改善に向けた今後の取組	
!    課題・問題点 !	短期	中長期
①受け入れ方法の検討が不十分	マニュアルの検討・作成	マニュアルの検討・作成
【・公費解体】・災害を強力を表している。 ・公費解体】・災害を発生量ののかった。のである。 ・災害を廃棄がなり、一点のでは、のの判断を関する。 「自己別のでは、のの判断を関する。」を対し、のの判断を関する。 「自己別のでは、のの判断を関する。」を対し、のの判断を関する。 「自己別のでは、のの判断を関する。 「自己別のでは、のの判断を関する。 「自己別のでは、のの判断を関する。 「自己別のでは、のの判断を関する。 「自己別のでは、のの判断を関する。 「自己別のでは、のの判断を関する。 「自己別のでは、のの判断を関する。 「一方のでは、のの判断を関する。 「一方のでは、のの判断を関する。 「一方のでは、のの判断を関する。 「一方のでは、のの判断を関する。 「一方のでは、のの判断を関する。 「一方のでは、のの判断を関する。 「一方のでは、のの判断を関する。 「一方のでは、のの判断を関する。 「一方のでは、のの判断を関する。 「一方のでは、のの判断を関する。 「一方のでは、のの判断を対象を、のの、のの、のの、のの、のの、のの、のの、のの、のの、のの、のの、のの、のの	【自然を表示のでは、	【・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・



# 検証項目9 その他(医療体制)

### ◆ 主な動きと対応状況

月日	主な動き	対応状況
1/1	【医療対策班】 市施設の被害状況の確認 ・急患診療センター ・西蒲原地区休日夜間急患センター ・口腔保健センター	市医師会、市歯科医師会に被害状況を聞き取り、大きな被害はなく、通常診療を継続していることを確認
	市内 42 病院の被害状況確認 ・EMIS 情報の確認 ・市内 42 病院へ電話聞き取り ・市消防局救急課へ聞き取り	新潟県(地域医療政策課)へ報告 ・津波警報が発出され、病院に避難した住民対 応のため、医療提供に支障が出た病院があっ た。
1/2	県が市災害対策本部へ DMAT を派遣 (西区内の病院の状況把握の為)	市本部リエゾン(市保健衛生部、水道局)と県 本部(DMAT)で情報共有し、西区内の病院の 給水状況確認
	県が DMAT を西区病院へ派遣	DMAT が病院に入り給水状況を確認、透析患 者移送の必要性を検討
1/3	西区病院の給水量不足解消 西区病院で給食準備に不安がある為、 非常食供給を依頼	県から患者の移動手段の確保準備を依頼されるも、給水問題が解決したため、移送不要となった。
1/4	西区病院へ非常食供給	市民生活対策部と調整し、おかゆを病院へ配送
1/4~1/9	薬局等の被害状況把握	市薬剤師会から被害があった薬局の報告あり
1/4~1/11	市内診療所の被災状況の把握 (医科、歯科)	市内診療所の被災状況について、市医師会、市 歯科医師会へ確認を依頼 ・西区内は全診療所の情報を収集



### (3) 医療体制

588年,888年上	改善に向けた今後の取組	
課題・問題点	短期	中長期
①情報収集体制が不十分 ・EMIS(広域災害救急医療システム)入力率が低く、市内42医療機関に電話で聞き取りをした。 ・診療所の情報収集に時間を要した。	情報収集体制の見直し ・EMISの入力基準、 入力方法の周知、徹底 (県と協力) ・医療機関情報の収集基 準と収集主体の再確認	
②避難方法の周知不足 ・津波避難ビルではない病院 に避難者が殺到し、医療提供 に支障が出た。	<b>指定避難場所等の周知</b> ・避難所、避難場所、津波 避難ビルの周知	避難所情報の伝達方法の 検討・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
③移送手段の未整備 ・断水で給水不能となった病院の透析患者の移送手段を確保する準備ができなかった。	移送手段の整備 ・透析患者等の移送が必 要になったときの具体 的な移送方法と手段の 確保	



# 検証項目9 その他

### (4) 自治会・町内会との連携

課題・問題点	改善に向けた今後の取組	
林趣・同趣点	短期	中長期
①避難所運営への理解不足 ・避難所運営に自発的に参加する住民が少なかった。	<b>住民参画の促進</b> ・避難所運営への住民参 画を促進	
②連携体制が不十分 ・区と自治会・町内会、コミュニティ協議会、自主防災組織との連携が不十分であった。 ・避難所指名(担当)職員が地域の防災訓練への参加率が低い為、連携が十分でないケースがあった。	連携体制の構築 ・区とコミ協や自治会・ 町内会との災害時連絡 体制構築 ・避難所指名(担当)職員 の訓練参加促進	
③被害情報の収集体制が不十分 ・職員による被害状況の確認や 把握が間に合わなかった。	被害情報収集体制の整備 ・SNSやスマホアプリ 等を活用し、コミ協や 自治会・町内会から被 害状況を直接収集する 仕組みの検討	
④土のう袋配布体制が未整備 ・土のう袋の配布が遅れた。	<b>土のう袋配布体制の構築</b> ・地震時の土のう袋配布 体制の構築	

### (5)防災士

課題・問題点	改善に向けた今後の取組	
	短期	中長期
①活用機会が不十分 ・地域にいる防災士の存在が住 民に認識されておらず、地域 の防災活動に十分活用されて いない。	防災士の育成 ・防災士の育成 ・防災士の連携強化 ・防災士のスキルアップの ための支援	
	活用方法の見直し ・防災士が地域の防災活動 に参加できる機会の拡 大	



## (6)仮設トイレ設置

課題・問題点	改善に向けた今後の取組	
	短期	中長期
①情報収集体制が不十分 ・仮設トイレ設置が必要な箇所 の情報取得に時間がかかった。	<b>運用ルールの見直し</b> ・設置基準・手続きの明確化、周知・対応状況の可視化、共有	<b>運用ルールの見直し</b> ・本部、各対策部、調達 業者との連携方法など を検討

### (7)義援金

課題・問題点	改善に向けた今後の取組	
	短期	中長期
①受付体制が不十分 ・義援金については、本市単独で の受付は今回の災害が初めて であり、発災から開始まで2週 間を要した。	受付体制の見直し ・ で は で は で は で は で の 大 の 大 の 大 の の 大 の 大 の 大 の れ の れ の れ の れ の れ の れ の れ の れ の れ の れ の れ の れ の れ の れ の れ の れ の れ の れ の の の 市 け は は の の の の の 市 け は も の の の の 市 け は の の の の 市 け あ が の の の の の の の の の の の の の	



### 第6章 総括

### 総括

令和6年1月1日の地震により、津波警報が発表され、津波浸水想定区域内外からの 避難が生じ、市内の指定避難所の避難者数は最大で1万4千人に上った。さらに、車で の避難が多かったため、交通渋滞が発生したほか、津波の危険性が低い地域であっても、 急いで車で避難するなどの行動が見受けられた。

避難所では玄関の鍵を壊して侵入した事例があったほか、開錠後に避難者がほかの人 を押しのけるように階段を駆け上がり入場するなどの混乱が生じた避難所もあった。

また、発災当初の被害状況の把握が進まず、被害の大きさが判明していくことに応じて人員不足等が生じ、災害対応の体制整備が十分に整わない事態が発生した。

市民に対する情報発信や避難所運営、行政内部における情報共有など、災害発生時の対応において多くの課題が明らかとなり、これまでの防災意識や防災対策のあり方の抜本的な見直しが必要となった。一方、行政による公助を待つだけでなく、NPO・ボランティアによる避難所運営支援など、自助・共助の大切さが改めて認識された。

これらのことから、今後は、防災についても避難所の開設基準や非常持ち出し品の準備など市民への防災意識の普及啓発や、避難所運営委員会の立ち上げ促進など、日頃から市民・地域等と連携した取組が必要となる。加えて、SNS やスマホアプリを活用し、職員や市民から被害状況を直接収集する仕組みを検討するなど DX 化を推進し、市民への迅速な情報発信・情報共有を行う体制を整備する必要がある。

また、地域防災計画の見直しと併せて、「避難所運営マニュアル」「応急対策マニュアル」等の見直しも進めていく。

日頃からの備えと災害時の行動について、市民・地域・行政のそれぞれの役割を明確 にし、災害時に一人一人が適切な行動をとれるよう、更なる地域防災力の向上に取り組 む「安心・安全で災害に強いまちづくり」の推進が必要となっている。



令和6年9月30日 危機対策課

### 地域広聴会における主な意見・要望について

- ■開催期間 令和6年7月31日(水)~8月30日(金)
- ■参加人数 321名(自治協委員:181名、コミ協会長等:119名、防災士:21名)
- ■意 見 数 196件(情報の受信 43/避 難 行 動 46/避難所運営 66/そ の 他 41)
- ■主な意見・要望
- (1) 情報の受信について

#### 【きめ細やかな情報発信】

・テレビではすぐに逃げてと言うばかりだったことから、避難指示の対象地域をわかりやすく示すな ど、きめ細かい情報発信が必要である。

#### 【各種情報の提供】

・津波の情報や市内の被害状況などを避難所に情報提供すべき。

#### 【無線による細やかな情報発信および無線の増設】

・防災行政無線できめ細かい情報を発信するとともに、設置箇所を拡大して欲しい。

#### 【多様な情報手段の確保】

・高齢者など、情報弱者も情報が受信できるよう、受け手に合わせた情報発信をして欲しい。

### (2) 避難行動について

#### 【ハザードマップの周知】

・避難の必要がない人が多く避難していた。ハザードマップをわかりやすく周知する必要がある。

#### 【徒歩による避難の徹底】

・自家用車での避難が多く、渋滞が生じていたため、徒歩での避難を徹底するとともに、車で避難して もいい場合を明確にすべき。

#### 【要配慮者の避難体制の構築】

・高齢者などの要配慮者の避難について、地域で体制ができていない。

#### 【避難所外における避難】

・多くの住民が病院などの避難所以外の場所に避難したが、一時避難のため、その後の流れの確立を。

#### (3)避難所運営について

#### 【避難所マニュアルの改正】

・避難所開設基準が複雑なため、わかりやすいマニュアルにして欲しい。

#### 【避難所職員と地域の関係性の構築】

- ・避難所指名職員との連絡が不十分だった。日頃から顔の見える関係を築きたい。
- ・災害に備え、防災訓練を実施することが有効であることから、市からも実施を呼びかけて欲しい。

#### 【備蓄物資の適切な配置】

・避難所の備蓄物資の種類や数量、置くスペースの問題について検討して欲しい。

#### 【津波避難ビルの新規指定】

・津波避難ビルが不足しているので、新規指定の推進を。また、備蓄品も必要である。

#### 【指定避難所の追加指定】

・現在の避難所では、全ての住民を収容できないことから、避難所の拡大が必要では。

#### (4)その他

#### 【学校の統廃合と避難所機能の維持】

・学校が統廃合されても、避難所機能は確保して欲しい。

令和6年9月30日 危機対策課

### 防災士の会女性部会における主な意見・要望について

- ■開催日 令和6年9月10日(火)
- ■参加人数 4名
- ■意 見 数 22件(情報の受信 4/避難 行動 4/避難所運営 13/そ の 他 4)
- ■主な意見・要望
- (1) 情報の受信について

### 【きめ細やかな情報発信】

- ・避難指示の対象地域をわかりやすく示してほしい。
- ・区による緊急性の違い等、細かい情報発信をしてほしい。

### (2) 避難行動について

#### 【ハザードマップの周知・防災啓発】

・ハザードマップの見方や避難所に持参する防災グッズ等を行政から地域のリーダーに伝えてほしい。そこから地域に広がっていく。

#### 【避難時の移動手段】

・避難は原則徒歩とわかっているが、高齢者等遠くまで歩いていけない場合車の避難も考えられるのでは。

#### (3)避難所運営について

#### 【避難所運営への女性参画】

・女性は高齢者、障がい者へ温かい、やわらかい接点を持てるので、避難所への女性参画を進めていくべき。

#### 【備蓄物資の適切な配置】

- ・女性用の生理用品がなかった。
- ・赤ちゃんのおしりふきはあるけどおむつはなかった。

#### 【避難所の安全確認】

・避難所の建物の安全確認前に避難者が殺到し、混乱することが心配である。

#### (4)その他

#### 【防災士の会の活性化】

・新潟市防災士の会を立て直し、活性化させてほしい。

令和6年9月30日 危機対策課

### 障がい者団体における主な意見・要望について

- ■開催期間 令和6年9月10日(火)~9月13日(金)
- ■参加人数 4団体延べ16名
- ■意 見 数 69件(情報の受信 21/避 難 行 動 24/避難所運営 25)
- ■主な意見・要望

#### (1) 情報の受信について

#### 【きめ細やかな情報発信】

- ・スマホに届く災害関連情報が少なかったと感じた。
- ・どの区域が避難指示のエリアなのかが分かるよう、細かい情報発信をしてほしい。

#### 【緊急情報の受信手段】

・防災メールやスマホアプリなど災害時の緊急的な情報などを入手する手段を教えてほしい。

#### (2) 避難行動について

#### 【ハザードマップの周知】

- ・手話通訳者を通して、ハザードマップなどの説明してほしい。
- ・ハザードマップを音声で読み上げるアプリがあると良い。

#### 【避難時の支援】

・障がい者が災害時に避難できるような援助があると良い。

#### 【避難行動要支援者制度の運用】

・避難行動要支援者制度に十何年前に登録したが、それ以来何の連絡もない。

#### (3)避難所運営について

#### 【プラカードの活用】

・「おにぎりや水があるので配ります」と声だけで言われても聞こえていない。「おにぎりを配ります」 のようなプラカードを持って避難所の中を周ってもらいたい。

#### 【パーソナルスペースの確保】

- ・人ごみ、刺激等に過敏でフラッシュバックが起きる。一人になるスペースがほしい。
- ・いろんな人がいるため避難所で安心して眠れるか心配。

#### 【福祉避難所の開設】

・早めに福祉避難所を開設してほしい。

#### (4)その他

#### 【地域の訓練への参加】

・町内の避難訓練に今まで参加していなかったが、見えない・聞こえないから参加しないでは有事の際に近所の協力を得られない。今後は訓練に参加するなど積極的に地域にかかわっていきたい。

# 能登半島地震に関する市民アンケート調査 調査結果報告書

令和6年8月 危機管理防災局危機対策課

### 目次

I	調査概要	1
	1. 調査の目的	2
	2. 調査の設計	2
	3. 集計・分析にあたって	2
	4. 回答者の特性	
	5. 回答者の特性(区別集計)	
Π		
ш		
	1. 令和6年1月1日の能登丰島地震(以降「地震」)発生削の状況	
	(1) 火害に備えて事前にとつていた対象(2) 災害に備えた備蓄	
	(3) 防災関連事業の参加状況	
	(4) 津波浸水想定状況の認知状況	18
	(5) 津波警報が発表された時にどこへ避難するか決めていたか	
	(6) 避難すると決めていた場所	
	2. 地震発生時の行動について	
	(1) 地震発生時にいた場所(2) 地震発災時にいた場所は、津波浸水想定区域であったか	
	(3) 津波警報を知った方法	
	(4) 地震発災時の避難状況	
	(5) 避難した場所	
	(6) 避難方法	
	(7) 一緒に避難した人	
	(8) 避難先までかかった時間	
	(10) 避難時に携行したもの	
	(11) 避難中に必要だった情報	
	(12) 避難中の情報入手方法	
	(13) インターネットでの情報入手方法	
	(14) 避難場所から帰宅する判断をした理由(15) 避難場所の滞在時間	
	(16) 避難しなかった理由	
	3. 地震発生後の状況 (変化) について	
	(1) 新たに行った対策	
	(2) 新たに備えた備蓄品	
	(3) 情報入手のために新たに用意したもの	
	(4) 新潟市総合ハザードマップの内容の確認状況	
	(5) 今後津波警報が出たときの行動について(6) 防災関連事業への参加について	
	しひ / P/J/X/送L坪-尹-未*`^V/-※/川パニ゙-フV * し	

# I 調査概要

#### 1. 調査の目的

地震発災時の市民の行動やその後の意識の変化についてアンケート調査を行う。

#### 2. 調査の設計

(1) 対象者: 市内に居住する満 18 歳以上の男女計 4,000 名

(2) 調査方法:配布は郵送方式、回答は郵送方式及びWEB方式

(3) 調査期間:令和6年7月16日~7月31日

(4) 配付数・回収数・回収率

配布数	回収数	回収率
4,000	2, 037	50.9%

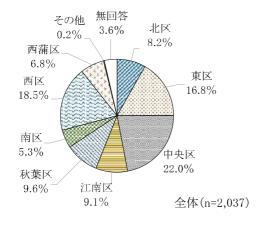
### 3. 集計・分析にあたって

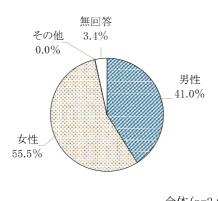
- (1) 図表中の「n」とは回答者総数(または該当者質問での該当者数)のことで、100%が何人の回答に相当するかを示す比率算出の基数である。
- (2) 結果は百分率(%)で表示し、小数点以下第2位を四捨五入して算出した結果、個々の 比率が合計100%にならないことがある。
- (3) 本文及び図表中、意味をそこなわない範囲で簡略化した選択肢がある。

#### 4. 回答者の特性



#### ◆性別

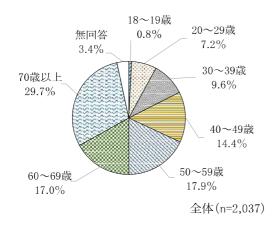


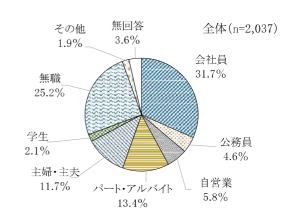


全体(n=2,037)

#### ◆年齢別

#### ◆職業別

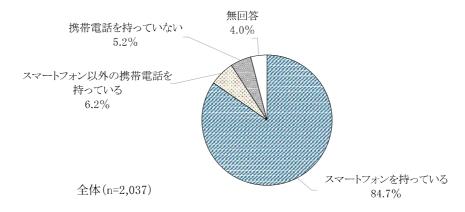




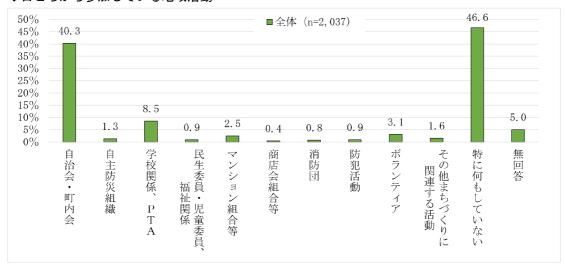
#### ◆同居家族



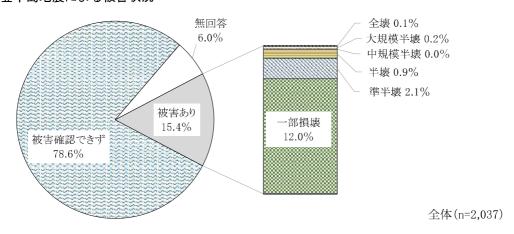
# ◆携帯電話の所有状況



# ◆日ごろから参加している地域活動

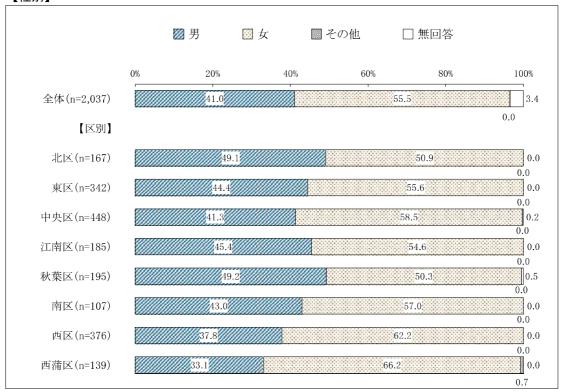


# ◆能登半島地震による被害状況

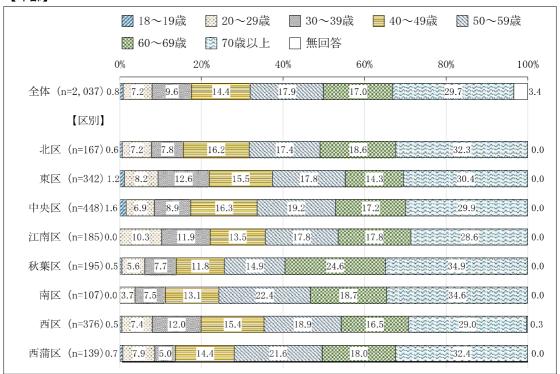


# 5. 回答者の特性(区別集計)

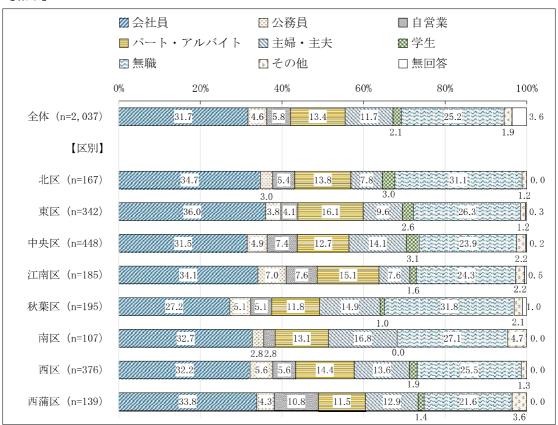
# 【性別】



#### 【年齢】



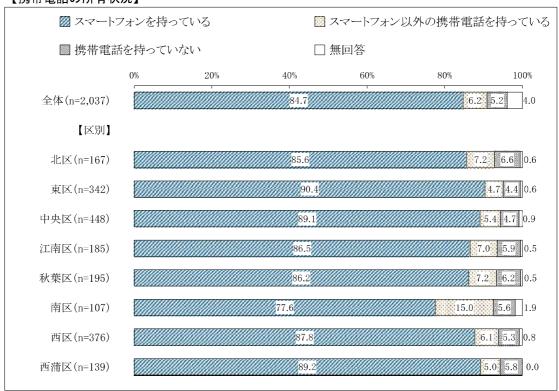
# 【職業】



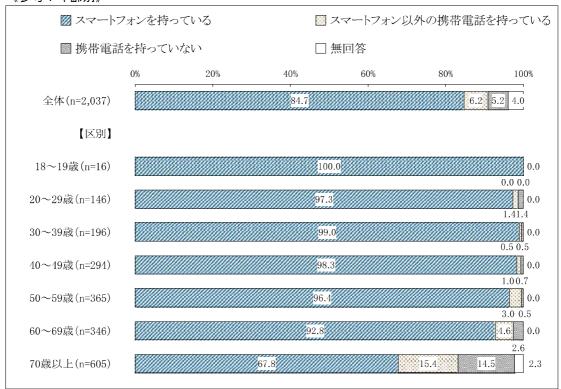
# 【同居家族】

【问冶多法】											
割合 (%)	配偶者	乳幼児	就学前児童	小 学 生	中学生	高校生	大学(院)・専門学校生	6 5 歳以上の高齢者	上記以外の方	いない	無回答
全体(n=2,037)	62. 4	3. 6	4.8	9.6	7.4	7. 4	5. 0	22.0	27.1	10. 7	3. 7
【区别】											,
北区 (n=167)	68. 9	2. 4	3. 6	7.8	8. 4	6. 0	5. 4	28. 1	32. 3	8. 4	0.0
東区(n=342)	63. 2	6. 7	7. 3	11.4	8. 2	9. 9	4. 4	20. 2	29.8	9. 4	0.9
中央区 (n=448)	58. 3	2. 5	3. 6	10.5	6. 5	7. 1	4. 5	15. 4	24. 3	19. 9	0.4
江南区 (n=185)	68. 1	6. 5	4. 3	10.8	7.6	6. 5	4. 3	23. 2	27.0	7. 6	0.5
秋葉区(n=195)	67.2	4. 1	4. 6	9.7	10.3	8. 2	5. 6	22. 6	28. 2	11.3	0.0
南区 (n=107)	71.0	2, 8	2, 8	7. 5	8. 4	5. 6	6. 5	19. 6	36, 4	6. 5	0.9
西区 (n=376)	65. 2	2. 9	5. 9	10.4	7.2	6. 6	6. 1	26. 9	24. 5	8. 0	0.3
西蒲区 (n=139)	69.8	1.4	6. 5	7. 9	6. 5	10.8	6. 5	35. 3	34. 5	5. 0	0.0

# 【携帯電話の所有状況】



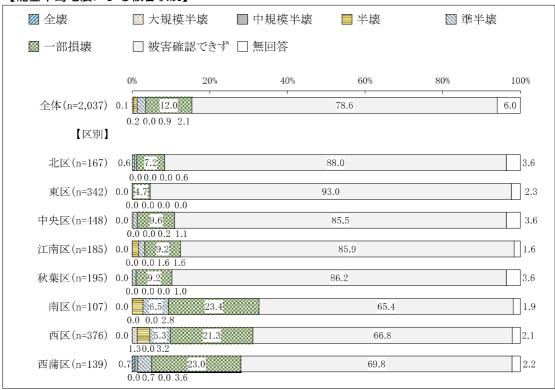
#### 《参考:年齡別》



# 【日ごろから参加している地域活動】

割合 (%)	自治会・町内会	自主防災組織	学校関係、PTA	社関係民生委員・児童委員、福	マンション組合等	商店会組合等	消防団	防犯活動	ボランティア	する活動	特に何もしていない	無回答
全体 (n=2,037)	40.3	1. 3	8. 5	0. 9	2. 5	0.4	0.8	0. 9	3. 1	1.6	46. 6	5.0
【区別】												
北区 (n=167)	55. 7	1. 2	7. 2	0. 6	0.0	0.0	1. 2	0.0	3. 6	2. 4	38. 9	1.2
東区 (n=342)	45. 6	1. 2	10. 5	1.2	0.9	0.3	0.6	1.5	2. 6	0.6	44. 2	2. 3
中央区 (n=448)	32.8	0.9	8. 9	0. 7	8. 9	0.4	0. 4	0.9	3. 3	0.9	53. 8	0.9
江南区 (n=185)	40.0	0.5	7. 0	1. 1	0.5	0.5	0. 5	0. 5	2. 7	2. 2	53. 5	1. 6
秋葉区(n=195)	42.1	1. 5	12.8	1. 5	1.5	0.0	1. 5	0. 5	4. 6	3. 1	42. 1	2. 1
南区 (n=107)	49. 5	3. 7	5. 6	0. 9	0.0	0.9	1. 9	0. 9	2. 8	2.8	44. 9	1. 9
西区 (n=376)	42.8	1. 6	7. 7	1. 1	1.1	0.3	0. 5	1. 3	3. 2	1. 3	50. 5	1. 9
西蒲区 (n=139)	38. 8	2. 2	9. 4	0. 0	0.0	1.4	1. 4	0.7	2. 9	2. 9	47. 5	2. 2

# 【能登半島地震による被害状況】

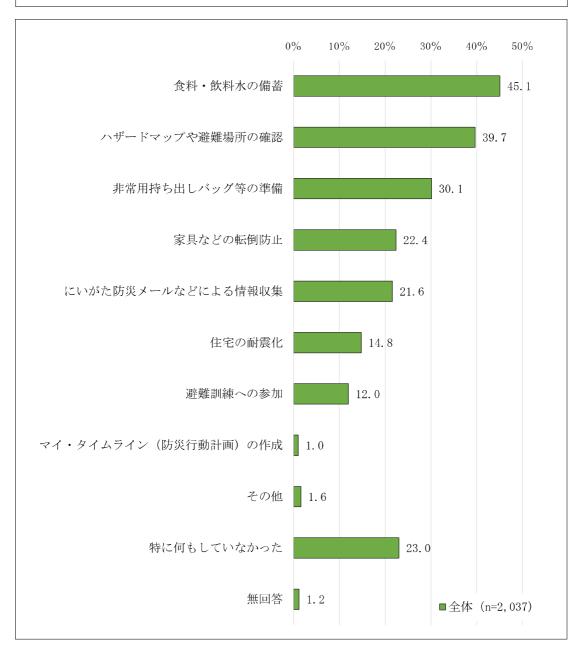


# Ⅱ 調査結果

# 1. 令和6年1月1日の能登半島地震(以降「地震」)発生前の状況

# (1) 災害に備えて事前にとっていた対策

問1 あなたは、災害に備え事前にどのような対策をとっていましたか。(あてはまるものすべて)



#### 【全体結果】

災害に備えて事前にとっていた対策は、「食料・飲料水の備蓄」(45.1%)が最も割合が高く、次いで「ハザードマップや避難場所の確認」(39.7%)、「非常用持ち出しバッグ等の準備」(30.1%)、「家具などの転倒防止」(22.4%)、「にいがた防災メールなどによる情報収集」(21.6%)の順で続く。

### 【属性別結果】(次ページ図1.1参照)

# ① 区别

「食料・飲料水の備蓄」と答えた割合は、西区 (50.3%) で最も高く、南区 (38.3%) で最も低い。「ハザードマップや避難場所の確認」と答えた割合は、北区(46.7%)で最も高く、西蒲区(29.5%)で最も低い。「非常用持ち出しバッグ等の準備」と答えた割合は、東区 (36.3%) で最も高く、南区 (24.3%) で最も低い。

南区と西蒲区は、他の区と比較して割合が低い項目が多い。

#### (2) 性别

「食料・飲料水の備蓄」(男性 42.0%、女性 47.4%)、「非常用持ち出しバッグ等の準備」(男性 26.7%、女性 33.6%)、「にいがた防災メールなどによる情報収集」(男性 19.4%、女性 23.5%)と答えた割合は、男性よりも女性で高く、「家具などの転倒防止」(男性 24.0%、女性 20.7%)と答えた割合は、女性よりも男性で高く、差がみられた。

#### ③ 年齢別

回答数が少ない  $18\sim19$  歳を除き、「食料・飲料水の備蓄」は  $60\sim69$  歳(47.4%)、「ハザードマップや避難場所の確認」は  $40\sim49$  歳(47.6%)、「非常用持ち出しバッグ等の準備」は  $30\sim39$  歳(35.2%)で答えた割合が最も高い。

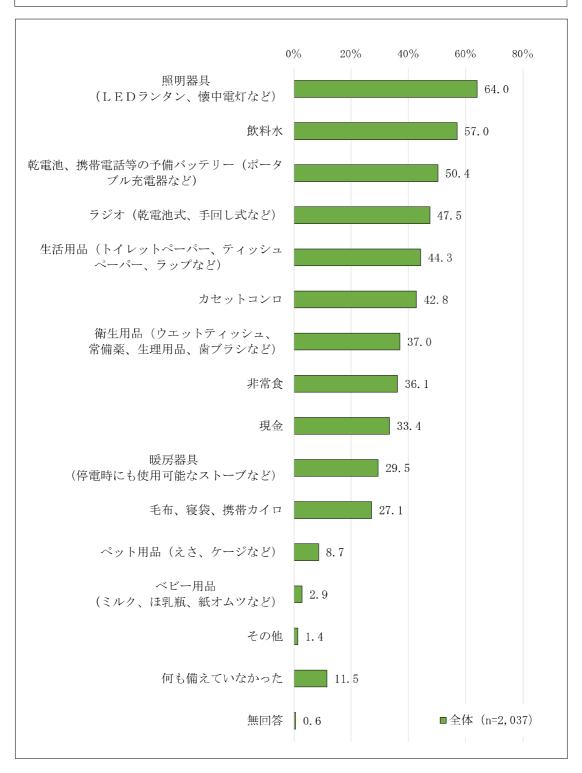
20~29歳で他の年齢と比較して、割合が低い項目が多い。

# 図 1.1 災害に備えて事前にとっていた対策

	(区別/ 注別/ 中駅											
割合 (%)	食料・飲料水の備蓄		避難場所の確認ハザードマップや	バッグ等の準備非常用持ち出し	家具などの転倒防止	などによる情報収集にいがた防災メール	住宅の耐震化	避難訓練への参加	(防災行動計画)の作成マイ・タイムライン	その他	特に何もしていなかった	無回答
全体 (n=2,037)	45.	1	39. 7	30. 1	22. 4	21.6	14. 8	12. 0	1.0	1.6	23. 0	1.2
【区别】		•								•		
北区 (n=167)	44.	9	46. 7	28. 1	19.8	22.8	16. 2	15. 0	0.6	1.8	19. 2	1.2
東区(n=342)	49.	1	43.0	36. 3	23. 1	21.9	15. 5	11.7	1.8	1.2	18.7	1.2
中央区 (n=448)	44.	4	43.8	32. 6	25. 2	21.4	13. 8	14. 1	0. 7	2. 2	22. 5	1.3
江南区 (n=185)	41.	3	31. 4	26. 5	21. 1	16.8	13. 5	3.8	1.6	3, 2	30.3	1. 1
秋葉区(n=195)	42.	1	39. 0	28. 2	17. 4	20.0	16. 4	14.9	1.0	0. 5	24.1	1.0
南区 (n=107)	38.	3	29. 9	24. 3	20.6	15. 9	14. 0	14. 0	0.0	0. 9	23. 4	2.8
西区 (n=376)	50.	3	40. 7	31. 1	22. 9	28. 5	13. 6	9. 0	1. 3	1. 3	23. 1	1.1
西蒲区 (n=139)	38.	3	29. 5	25. 9	19. 4	16. 5	15. 1	16. 5	0.0	1.4	26. 6	0.7
【性别】										-		
男性(n=836)	42.	0	39. 0	26. 7	24. 0	19. 4	14. 5	13. 5	1.0	2. 0	24.4	0.8
女性(n=1,130)	47.	4	40.3	33. 6	20. 7	23. 5	14. 7	10. 9	1. 1	1. 3	21.8	1.6
【年齡別】												
18~19歳 (n=16)	43.	3	50. 0	25. 0	37. 5	6. 3	18. 8	6. 3	0.0	0.0	25.0	0.0
20~29歳(n=146)	35.	6	30. 1	23. 3	17.8	17.8	10. 3	2. 7	0. 7	2. 1	34. 2	0.0
30~39歳(n=196)	42.	3	34. 2	35. 2	19. 4	23. 5	19. 4	2. 6	0.5	0.0	27.0	0.0
40~49歳(n=294)	46.	9	47. 6	32. 3	13. 9	22.8	13. 6	8.8	1.0	1. 7	22.8	0.3
50~59歳(n=365)	46.	3	38. 1	28. 2	23. 0	24. 9	13. 7	8.8	0. 5	1.4	19. 7	0.8
60~69歳 (n=346)	47.	4	38. 4	27. 7	20. 5	22.8	9.8	14. 2	0.9	1. 7	23. 7	0.6
70歳以上(n=605)	45.	5	41.3	33. 2	27.9	19. 5	17. 5	19. 7	1.7	2. 1	20.3	3. 1

#### (2) 災害に備えた備蓄

問2 あなたは、災害に備えご家庭でどのようなものを備蓄していましたか。(あてはまるもの すべて)



#### 【全体結果】

災害に備えた備蓄は、「照明器具(LEDランタン、懐中電灯など)」(64.0%)が最も割合が高く、次いで「飲料水」(57.0%)、「乾電池、携帯電話等の予備バッテリー(ポータブル充電器など)」(50.4%)が5割台で、「ラジオ(乾電池式、手回し式など)」(47.5%)、「生活用品(トイレットペーパー、ティッシュペーパー、ラップなど)」(44.3%)、「カセットコンロ」(42.8%)が4割台で続く。

# 【属性別結果】(次ページ図 1.2 参照)

# ① 区别

「照明器具(LEDランタン、懐中電灯など)」と答えた割合は、西区(68.1%)で最も高く、西蒲区(58.3%)で最も低い。「飲料水」と答えた割合は、西区と東区(いずれも61.7%)で最も高く、西蒲区(48.9%)で最も低い。「乾電池、携帯電話等の予備バッテリー(ポータブル充電器など)」と答えた割合は、東区(54.7%)で最も高く、西蒲区(42.4%)で最も低い。

西蒲区は、他の区と比較して割合が低い項目が多い。

#### ② 性別

「飲料水」(男性 54.5%、女性 59.2%)、「生活用品 (トイレットペーパー、ティッシュペーパー、ラップなど)」(男性 37.0%、女性 49.7%)、「カセットコンロ」(男性 40.6%、女性 44.0%)「衛生用品 (ウエットティッシュ、常備薬、生理用品、歯ブラシなど)(男性 29.7%、女性 43.2%)」と答えた割合は、男性よりも女性で高く、「乾電池、携帯電話等の予備バッテリー(ポータブル充電器など)」(男性 52.8%、女性 48.3%)と答えた割合は、女性よりも男性で高く、差がみられた。

#### ③ 年齢別

回答数が少ない  $18\sim19$  歳を除き、「照明器具(LEDランタン、懐中電灯など)」は 70 歳以上 (71.2%) で答えた割合が最も高く、年齢が高いほど割合が高くなる傾向がみられた。「飲料水」は  $40\sim49$  歳(58.8%)、「乾電池、携帯電話等の予備バッテリー(ポータブル充電器など)」は  $60\sim69$  歳(52.0%)で答えた割合が最も高い。

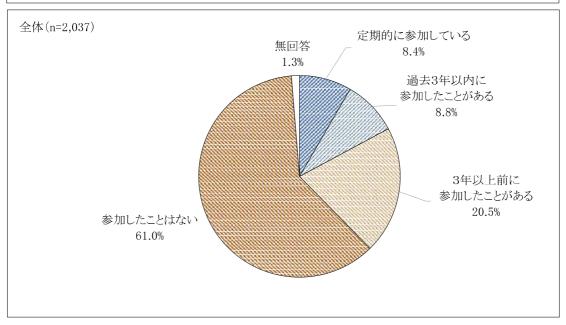
20~29歳で他の年齢と比較して、割合が低い項目が多い。

# 図1.2 災害に備えた備蓄

			1													
割合 (%)	(LEDランタン、懐中電灯など)照明器具	飲料水	(ポータブル充電器など) 乾電池、携帯電話等の予備バッテリー	ラジオ(乾電池式、手回し式など)	ティッシュペーパー、 ラップなど)生活用品(トイレットペーパー、	カセットコンロ	常備薬、生理用品、歯ブラシなど)衛生用品(ウエットティッシュ、	非常食	現金	ど) (停電時にも使用可能なストーブな暖房器具	毛布、寝袋、携帯カイロ	ペット用品(えさ、ケージなど)	(ミルク、ほ乳瓶、紙オムツなど)ベビー用品	その他	何も備えていなかった	無回答
全体 (n=2,037)	64.0	57. 0	50. 4	47. 5	44. 3	42.8	37. 0	36. 1	33. 4	29. 5	27. 1	8.7	2. 9	1. 4	11. 5	0.6
【区别】																
北区 (n=167)	61.7	57. 5	47. 9	44. 9	40. 1	41. 9	33. 5	33. 5	29. 9	31. 1	24.6	8.4	3. 6	0.0	10.8	0.0
東区 (n=342)	64. 9	61.7	54. 7	48. 5	46. 2	43. 3	38. 9	43. 9	36. 5	29. 5	28. 4	8.8	3. 5	0.9	11. 4	0.6
中央区 (n=448)	61.4	58. 9	51. 1	48. 4	44. 2	42. 6	38. 4	37. 5	32. 4	22. 5	29.9	9. 2	2. 7	2.5	13. 4	0.7
江南区 (n=185)	66. 5	51. 9	45. 9	47. 0	44. 3	42. 7	34. 1	31. 9	31. 4	30. 3	25. 4	6. 5	4. 3	0.0	11. 9	1. 1
秋葉区(n=195)	62.1	52. 8	50. 3	52. 8	45. 1	41.0	35. 9	28. 7	33. 3	33.8	27. 2	7.7	2.6	0.5	9. 7	0.0
南区 (n=107)	63.6	49. 5	45. 8	40. 2	38. 3	39. 3	35. 5	31.8	32. 7	33. 6	26. 2	9.3	0.9	1. 9	10.3	1. 9
西区 (n=376)	68. 1	61. 7	52. 4	48. 7	47. 9	46. 5	43. 9	38. 3	35. 1	31. 1	27.7	9.8	2. 9	2. 1	10. 9	0.3
西蒲区 (n=139)	58.3	48. 9	42. 4	36. 0	39. 6	36.0	27. 3	32. 4	30. 9	34. 5	23.0	7.2	1.4	0.7	13. 7	0.7
【性别】																
男性 (n=836)	62.7	54. 5	52.8	48. 4	37. 0	40.6	29. 7	34. 0	31.0	27.8	22.8	6.7	2.8	1. 1	13. 2	0.6
女性 (n=1,130)	64.3	59. 2	48. 3	46. 1	49. 7	44. 0	43. 2	38. 1	34. 9	30. 4	30. 5	9.9	3. 1	1. 5	10. 7	0.6
【年齡別】																
18~19歳(n=16)	75. 0	68.8	50. 0	50. 0	43. 8	37. 5	43. 8	43. 8	62. 5	18.8	31. 3	18.8	12. 5	0.0	12. 5	0.0
20~29歳(n=146)	43. 2	48. 6	44. 5	26. 0	29. 5	22. 6	34. 9	30. 8	32. 9	9.6	22.6	4. 1	2. 1	2. 1	17.8	0.0
30~39歳(n=196)	54. 1	58. 7	50. 5	27. 6	34. 2	34. 7	42. 9	35. 2	32. 1	13. 3	26. 5	7.1	16.8	0.0	15.8	0.0
40~49歳(n-294)	60.2	58.8	48. 6	40.8	41. 2	44. 6	44. 2	39. 8	25. 5	21.8	29. 3	9.5	3. 4	2.0	10.9	0.3
50~59歳(n=365)	63. 3	57. 3	50. 1	46. 0	45. 8	41. 4	37. 3	37. 8	26. 6	26.6	30. 1	9.6	1.1	1.4	13. 7	0.5
60~69歳(n=346)	67.3	58. 1	52.0	47. 7	48. 0	51.4	33. 8	37. 6	33. 2	37. 9	25. 7	11.6	0.9	1.4	9. 5	0.3
70歳以上(n=605)	71.2	57. 4	51. 4	62.0	49. 9	44. 6	35. 0	34. 5	40. 8	40. 2	26.6	7.1	0. 5	1.2	9. 4	1.3

### (3) 防災関連事業の参加状況

問3 あなたは、自治会・町内会やマンションの管理組合、新潟市等が実施する防災訓練や講演会などの防災関連事業に参加したことがありますか。(どれか1つ)



# 【全体結果】

防災関連事業に、「定期的に参加している」が 8.4%、「過去 3 年以内に参加したことがある」が 8.8%、「3 年以上前に参加したことがある」が 20.5%、「参加したことはない」が 61.0%となった。

# 【属性別結果】(次ページ図 1.3 参照)

# ① 区别

「参加したことはない」と答えた割合は、江南区 (74.6%) で最も高く、南区 (42.1%) で最も 低い。

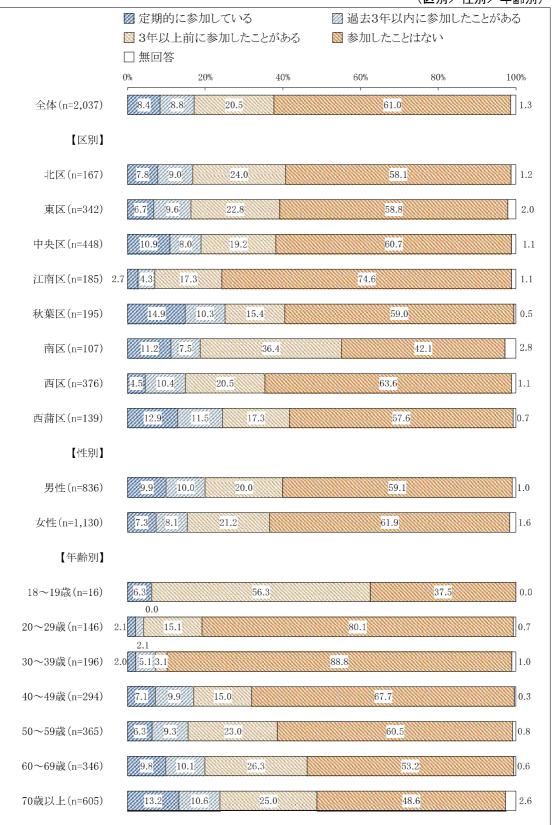
# 2 性別

「参加したことはない」と答えた割合は、男性(59.1%)より女性(61.9%)で高い。

# ③ 年齢別

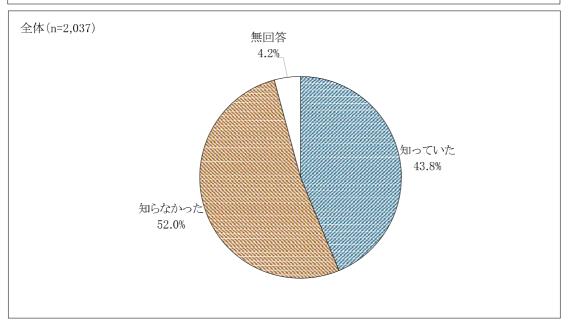
回答数が少ない  $18\sim19$  歳を除き、「参加したことはない」と答えた割合は、 $30\sim39$  歳 (88.8%) で最も高く、75 歳以上 (48.6%) で最も低い。

# 図 1.3 防災関連事業の参加状況



### (4) 津波浸水想定状況の認知状況

問4 あなたは、「新潟市津波ハザードマップ」でご自宅やお勤め先の津波浸水想定状況(津波 の高さや到達時間)を知っていましたか。



# 【全体結果】

津波浸水想定状況を、「知っていた」が43.8%、「知らなかった」が52.0%となった。

# 【属性別結果】(次ページ図 1.4 参照)

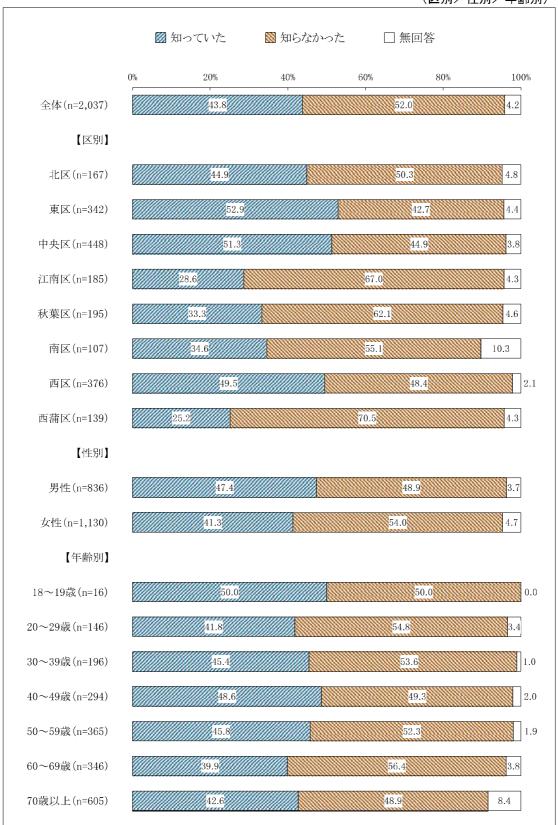
- ① 区別
  - 「知らなかった」と答えた割合は、西蒲区 (70.5%) で最も高く、東区 (42.7%) で最も低い。
- ② 性別

「知らなかった」と答えた割合は、男性(48.9%)より女性(54.0%)で高い。

# ③ 年齢別

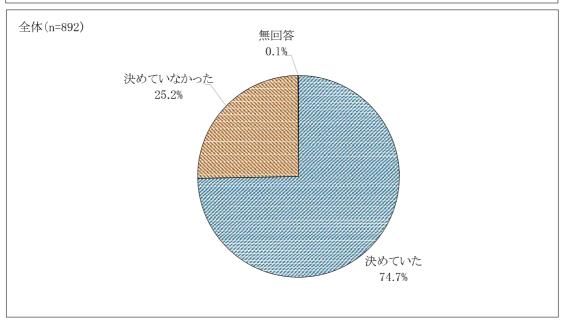
回答数が少ない 18~19 歳を除き、「知らなかった」と答えた割合は、60~69 歳(56.4%)で最も高い。

# 図1.4 津波浸水想定状況の認知状況



### (5) 津波警報が発表された時にどこへ避難するか決めていたか

問5 あなたは、津波警報が発表された時にどこへ避難するか決めていましたか。



# 【全体結果】

津波警報が発表された時にどこへ避難するか「決めていた」と答えた割合が74.7%、「決めていなかった」と答えた割合が25.2%となった。

# 【属性別結果】(次ページ図 1.5 参照)

#### ① 区別

「決めていなかった」と答えた割合は、江南区 (35.8%) で最も高く、東区 (17.7%) で最も低い。

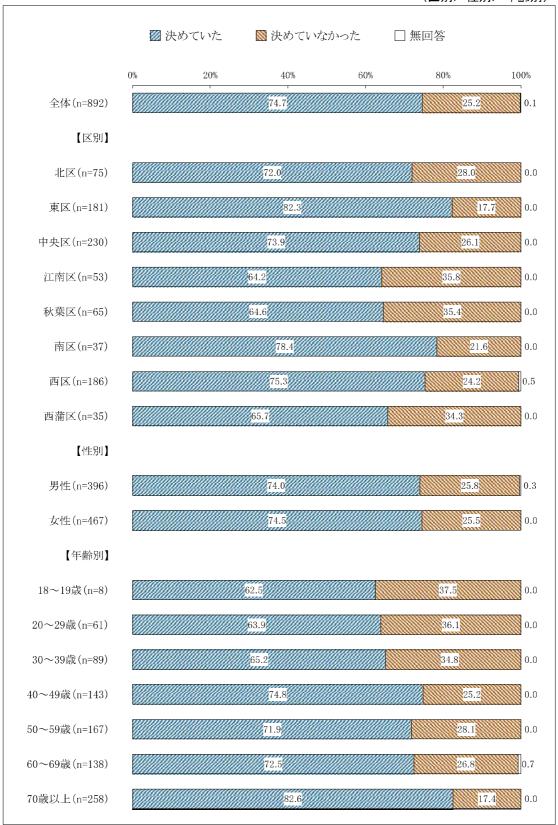
#### ② 性別

「決めていなかった」と答えた割合は、男女での大きな差はみられなかった。

# ③ 年齢別

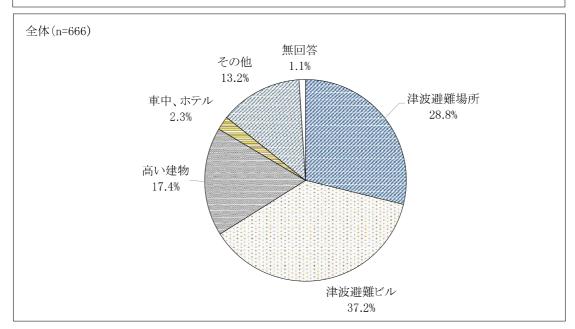
回答数が少ない  $18\sim19$  歳を除き、「決めていなかった」と答えた割合は、 $20\sim29$  歳 (36.1%) で最も高く、年齢が高いほど割合が低くなる傾向がみられる。

# 図 1.5 津波警報が発表された時にどこへ避難するか決めていたか



#### (6) 避難すると決めていた場所

問6 どこへ避難するか決めていましたか。(どれか1つ)



# 【全体結果】

避難すると決めていた場所は、「津波避難ビル」(37.2%)の割合が最も高く、次いで「津波避難場所」(28.8%)、「高い建物」(17.4%)の順に続いた。「その他」は「自宅(マンション)」等の意見がみられた。

# 【属性別結果】(次ページ図 1.6 参照)

# ① 区别

該当者数が少ないため、グラフのみの掲載とする。

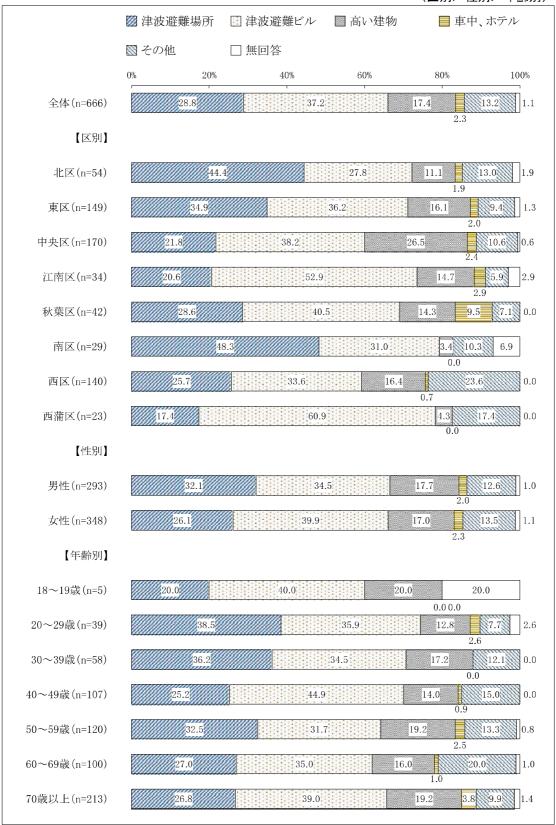
# 2 性別

「津波避難場所」と答えた割合は、女性(26.1%)より男性(32.1%)で高く、「津波避難ビル」と答えた割合は、男性(34.5%)より女性(39.9%)で高く、差がみられた。

#### ③ 年齡別

該当者数が少ないため、グラフのみの掲載とする。

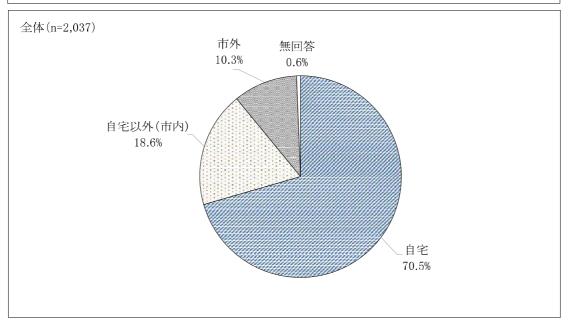
#### 図 1.6 避難すると決めていた場所



# 2. 地震発生時の行動について

# (1) 地震発生時にいた場所

問7 あなたは、地震発生(津波警報発表)時どこにいましたか。(どれか1つ)



# 【全体結果】

地震発生時にいた場所は、「自宅」(70.5%)の割合が最も高く、次いで「自宅以外(市内)」(18.6%)、「市外」(10.3%)の順に続いた。

# 【属性別結果】(次ページ図 2.1 参照)

# ① 区别

「自宅」と答えた割合は、南区 (80.4%) で最も高く、中央区 (65.2%) で最も低かった。

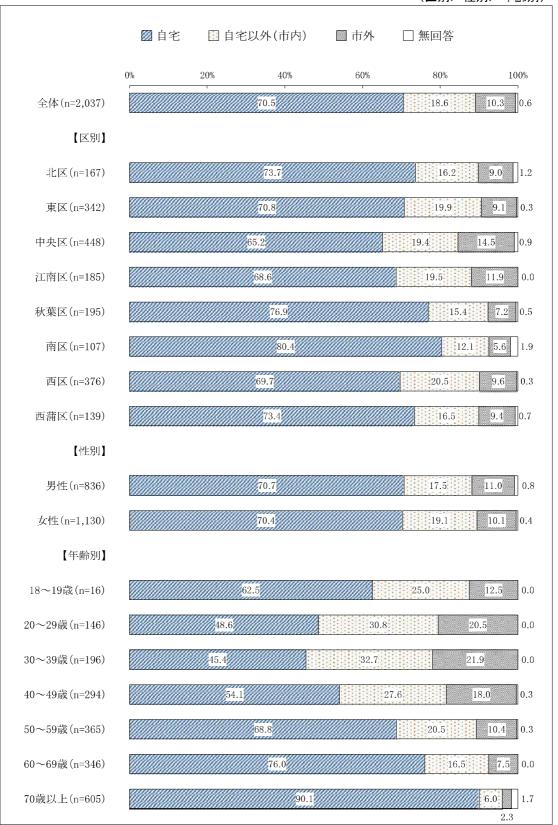
# ② 性別

男女での大きな差はみられなかった。

# ③ 年齢別

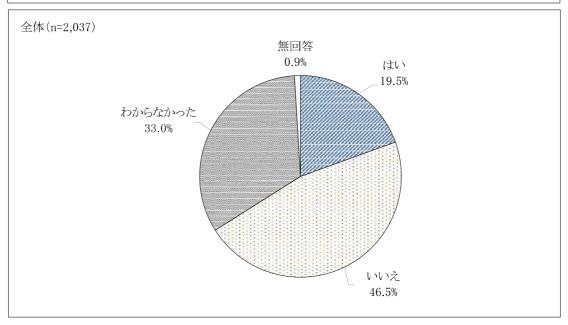
回答数が少ない 18~19 歳を除き、「自宅」と答えた割合は、70 歳以上 (90.1%) で最も高く、年齢が高いほど割合が高くなる傾向がみられる。

# 図 2.1 地震発生時にいた場所



#### (2) 地震発災時にいた場所は、津波浸水想定区域であったか

問8 地震発災時にいた場所は、津波浸水想定区域でしたか。(どれか一つ)



# 【全体結果】

地震発災時にいた場所は津波浸水想定区域であったかという問いに対し、「はい」と答えた割合が19.5%、「いいえ」が46.5%、「わからなかった」が33.0%となった。

# 【属性別結果】(次ページ図 2.2 参照)

# ① 区别

「はい」と答えた割合は、東区 (29.8%) で最も高く、次いで中央区 (29.5%)、北区 (24.6%)、 西区 (18.6%) の順に続いた。

### ② 性別

男女での大きな差はみられなかった。

#### ③ 年齢別

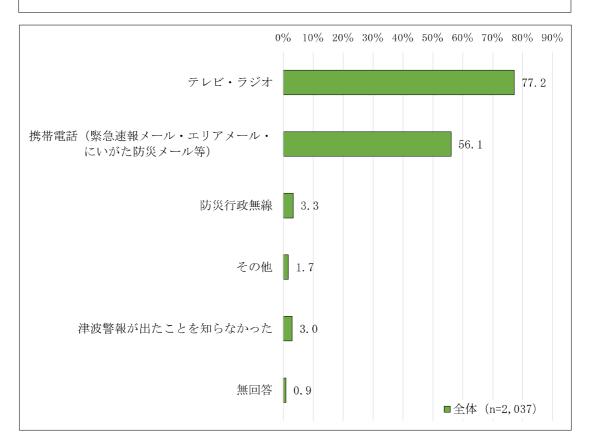
回答数が少ない  $18\sim19$  歳を除き、「わからなかった」と答えた割合は、 $30\sim39$  歳(38.8%)で最も高く、次いで  $20\sim29$  歳(37.0%)、 $60\sim69$  歳(35.3%)の順に続いた。

# 図 2.2 地震発災時にいた場所は、津波浸水想定区域であったか



### (3) 津波警報を知った方法

# 問9 津波警報は何で知りましたか。(あてはまるものすべて)



# 【全体結果】

津波警報を知った方法は、「テレビ・ラジオ」(77.2%)、「携帯電話(緊急速報メール・エリアメール・にいがた防災メール等)」(56.1%)と答えた割合が高く、他は低い。

# 【属性別結果】(次ページ図 2.3 参照)

# ① 区别

「防災行政無線」と答えた割合は、西蒲区 (8.6%) で最も高く、「津波警報が出たことを知らなかった」も西蒲区 (6.5%) で最も高かった。

#### ② 性別

男女での大きな差はみられなかった。

# ③ 年齢別

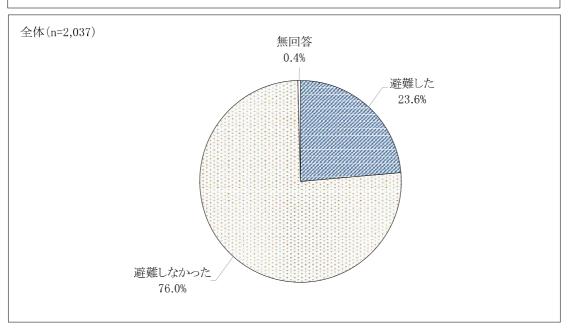
回答数が少ない  $18\sim19$  歳を除き、「テレビ・ラジオ」は年齢が高くなるほど、「携帯電話(緊急速報メール・エリアメール・にいがた防災メール等)」は年齢が低くなるほど、答えた人の割合が高くなる傾向がみられた。

# 図 2.3 津波警報を知った方法

割合 (%)	テレビ・ラジオ	にいがた防災メール等) (緊急速報メール・(緊急速報メール・	防災行政無線	その他	知らなかった津波警報が出たことを	無回答
全体 (n=2,037)	77. 2	56. 1	3. 3	1. 7	3. 0	0.9
【区別】						,
北区 (n=167)	76. 6	64. 1	3. 6	0.6	2. 4	0.0
東区 (n=342)	75. 4	63. 7	2. 6	1.8	0.3	1.2
中央区 (n=448)	77. 0	53. 3	3. 6	3. 6	2. 9	0.7
江南区 (n=185)	77. 3	51.4	1. 1	1. 6	5. 9	0.5
秋葉区 (n=195)	83. 6	50.8	1. 5	0.0	1.0	2. 1
南区 (n=107)	83. 2	45.8	5. 6	0.0	5. 6	2.8
西区 (n=376)	75. 8	57. 7	2. 9	1.6	2. 9	0.3
西蒲区 (n=139)	79. 9	51.8	8. 6	0.0	6. 5	0.7
【性別】						
男性(n=836)	76. 3	57.3	3. 5	1.4	2. 4	1.1
女性 (n=1,130)	78. 6	54.8	3. 3	2. 0	3.3	0.8
【年齢別】						
18~19歳(n=16)	75. 0	62. 5	0.0	6. 3	0.0	0.0
20~29歳(n=146)	67. 1	64. 4	3. 4	4.8	1. 4	0.0
30~39歳(n=196)	68. 9	68. 4	3. 1	2. 0	1.0	0.0
40~49歳(n=294)	78. 6	59. 5	3. 1	1.4	2. 4	0.0
50~59歳(n=365)	80. 0	57.3	3. 6	2. 2	2. 2	0.3
60~69歳(n=346)	78.0	56. 4	4. 0	1.4	3. 2	0.6
70歳以上(n=605)	81. 2	46.6	3. 1	1.0	4. 5	2. 5

#### (4) 地震発災時の避難状況

問10 地震発生時に避難しましたか。



# 【全体結果】

地震発災時に「避難した」と答えた人の割合は23.6%、「避難しなかった」は76.0%となった。

#### 【属性別結果】(次ページ図 2.4 参照)

#### ① 区别

「避難した」と答えた割合は、西区(34.0%)で最も高く、次いで東区(33.9%)、中央区(27.9%)、 北区(25.7%)の順に続いた。

# ② 性別

「避難した」と答えた割合は、男性(22.4%)より女性(25.4%)で高い。

# ③ 年齢別

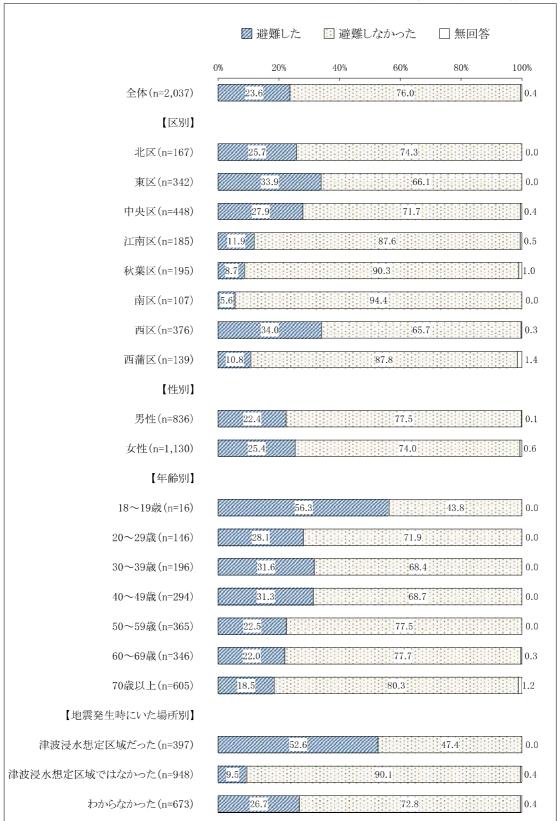
回答数が少ない  $18\sim19$  歳を除き、「避難した」と答えた割合は、 $30\sim39$  歳(31.6%)で最も高く、70 歳以上(18.5%)で最も低い。30 歳以上では年齢が高いほど、割合が低くなる傾向がみられた。

# ④ 地震発生時にいた場所別

「避難した」と答えた割合は、地震発生時にいた場所が、津波浸水想定区域だった (52.6%) で高く、津波浸水想定区域ではなかった (9.5%) と大きな差がみられた。また、わからなかったは、26.7%であった。

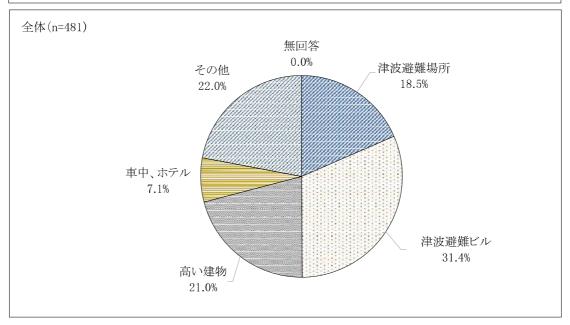
#### 図 2.4 地震発災時の避難状況

#### (区別/性別/年齢別/地震発生時にいた場所別)



#### (5) 避難した場所

問 11 問  $11\sim22$  は避難した方 (問 10 で「1」を選んだ方) のみお答えください。 どこに避難しましたか。(どれか 1 つ)



# 【全体結果】

避難した場所は、「津波避難ビル」(31.4%)の割合がもっと高く、次いで「高い建物」(21.0%)、「津波避難場所」(18.5%)の順に続いた。

# 【属性別結果】(次ページ図 2.5 参照)

#### ① 区別

該当者数が多い東区、中央区、西区では、いずれも「津波避難ビル」の割合が最も高かった。

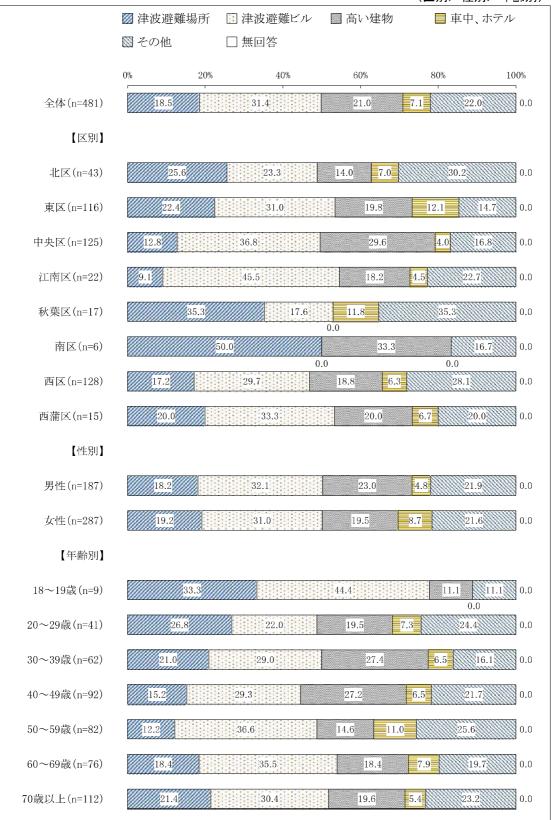
# ② 性別

「高い建物」と答えた割合は、女性(19.5%)より男性(23.0%)で高く、「車中、ホテル」と答えた割合は、男性(4.8%)より女性(8.7%)で高く、差がみられた。

# ③ 年齢別

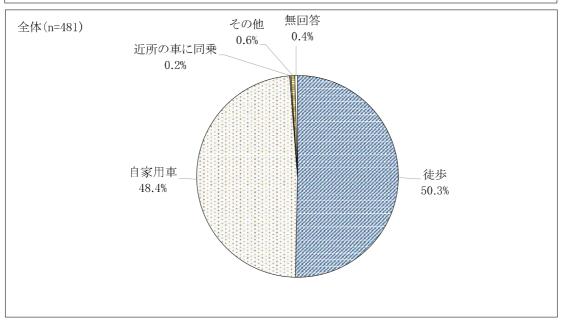
回答数が少ない 18~19 歳を除き、「津波避難ビル」と答えた割合は、50~59 歳 (36.6%) で、「高い建物」と答えた割合は、30~39 歳 (27.4%) で、「津波避難場所」と答えた割合は、20~29 歳 (26.8%) で最も高い。

# 図2.5 避難した場所



#### (6) 避難方法

# 問12 どうやって避難しましたか。(どれか1つ)



# 【全体結果】

避難した方法は、「徒歩」(50.3%)と「自家用車」(48.4%)が概ね半数ずつの割合となった。 他の割合は低い。

# 【属性別結果】(次ページ図 2.6 参照)

# ① 区别

該当者数が多い東区、中央区、西区では、「徒歩」の割合は中央区(60.0%)で最も高く、東区(50.9%)で最も低く差はみられるが、いずれも「徒歩」の割合が「自家用車」の割合を上回っている。

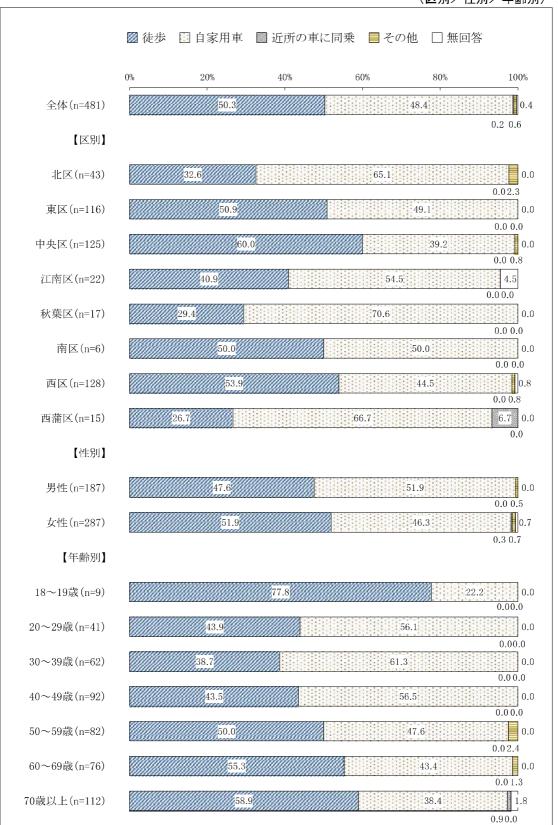
# 2 性別

「徒歩」と答えた割合は、男性(47.6%)より女性(51.9%)で高い。

# ③ 年齢別

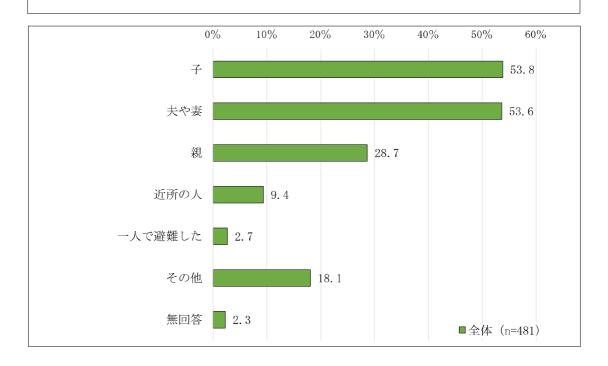
回答数が少ない  $18\sim19$  歳を除き、「徒歩」と答えた割合は、70 歳以上(58.9%)で最も高く、 $30\sim39$  歳(38.7%)で最も低い。30 歳以上では年齢が高くなるほど、割合が高くなる傾向がみられる。

# 図 2.6 避難方法



#### (7) 一緒に避難した人

問13 誰と避難しましたか。(あてはまるものすべて)



# 【全体結果】

一緒に避難した人は、「子」(53.8%) と「夫や妻」(53.6%) が5割を超し割合が高くなっている。次いで「親」(28.7%)、「近所の人」(9.4%) の順に続いた。

#### 【属性別結果】(次ページ図 2.7 参照)

#### ① 区别

該当者数が多い東区、中央区、西区では、「子」の割合は東区(59.5%)で最も高く、「夫や妻」の割合は西区(60.2%)で最も高い。

# ② 性別

「夫や妻」と答えた割合は、女性(48.8%)より男性(60.4%)で高く、「親」と答えた割合は、 男性(24.6%)より女性(31.7%)で高く、差がみられた。

# ③ 年齢別

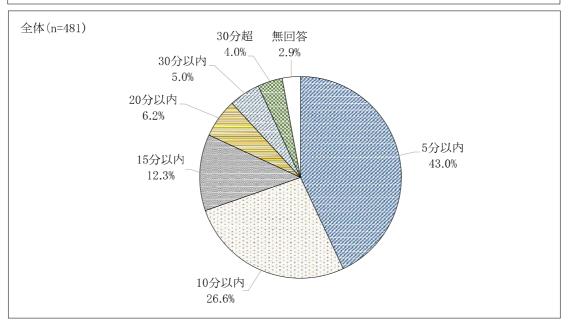
回答数が少ない  $18\sim19$  歳を除き、「子」と答えた割合は、 $40\sim49$  歳(68.5%)で最も高く、「夫や妻」と答えた割合は  $60\sim65$  歳(65.8%)で最も高い。「親」と答えた人の割合は、年齢が高くなるほど低くなるが、 $60\sim65$  歳(22.4%)でも 2 割を超えている。

# 図 2.7 一緒に避難した人

割合 (%)	子	夫や妻	親	近所の人	一人で避難した	そ の 他	無回答
全体(n=481)	53. 8	53. 6	28.7	9. 4	2. 7	18. 1	2.3
【区別】							
北区 (n=43)	53. 5	60. 5	18.6	4.7	2. 3	16.3	4. 7
東区 (n=116)	59. 5	50. 9	24. 1	8. 6	1. 7	13.8	1. 7
中央区 (n=125)	48. 8	45. 6	25. 6	9. 6	4.8	18. 4	0.8
江南区 (n=22)	63. 6	63. 6	31.8	4. 5	4. 5	31.8	4. 5
秋葉区(n=17)	52. 9	47. 1	41.2	5. 9	5. 9	23. 5	0.0
南区 (n=6)	16. 7	66. 7	0.0	16. 7	16. 7	16. 7	0.0
西区 (n=128)	54. 7	60. 2	33.6	11.7	0.8	17. 2	3. 9
西蒲区 (n=15)	46. 7	46. 7	66. 7	13. 3	0.0	26. 7	0.0
【性別】							
男性(n=187)	52. 4	60. 4	24.6	8. 0	4.8	13. 9	2. 7
女性(n=287)	54. 4	48.8	31.7	10. 1	1. 4	20.6	2. 1
【年齢別】							
18~19歳 (n=9)	0.0	0.0	88. 9	11.1	11.1	33. 3	0.0
20~29歳(n=41)	19. 5	22.0	61.0	2. 4	4. 9	24. 4	2. 4
30~39歳 (n=62)	53. 2	54. 8	40.3	6. 5	3. 2	27.4	1. 6
40~49歳 (n=92)	68. 5	58. 7	34.8	8. 7	3. 3	20.7	3. 3
50~59歳 (n=82)	57. 3	57. 3	32.9	7. 3	6. 1	9.8	0.0
60~69歳 (n=76)	63. 2	<b>6</b> 5. 8	22.4	10. 5	0.0	13. 2	1.3
70歳以上(n=112)	49. 1	52. 7	2.7	14. 3	0.0	16. 1	4. 5

#### (8) 避難先までかかった時間

問14 避難先までどれくらいの時間がかかりましたか。



# 【全体結果】

避難先までかかった時間は、「5分以内」(43.0%)の割合が最も高く、次いで「10分以内」(26.6%)、「15分以内」(12.3%)、「20分以内」(6.2%)の順に続く。

# 【属性別結果】(次ページ図 2.8 参照)

# ① 区别

該当者数が多い東区、中央区、西区では、いずれも「5分以内」と答えた割合が最も高く、「5分以内」と「10分以内」の合計で、7割前後を占めている。

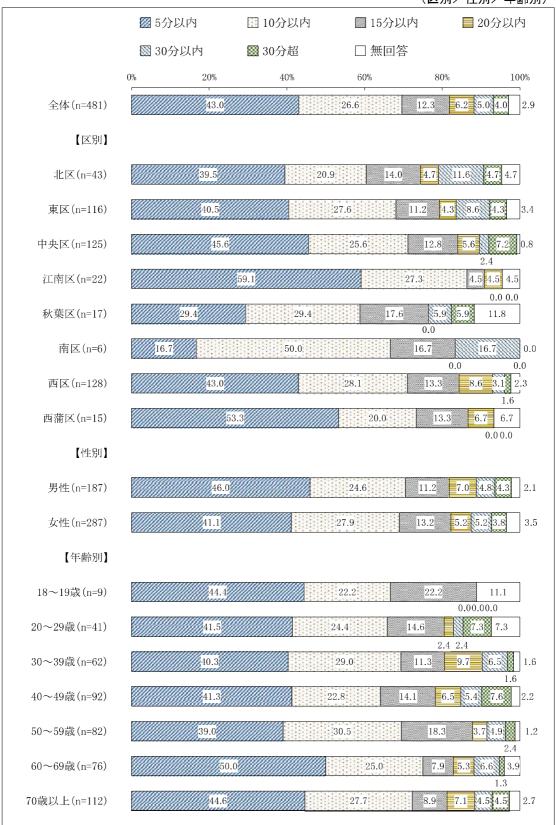
#### ② 性別

「5分以内」と答えた割合は、女性(41.1%)より男性(46.0%)で高く、差がみられた。

#### ③ 年齢別

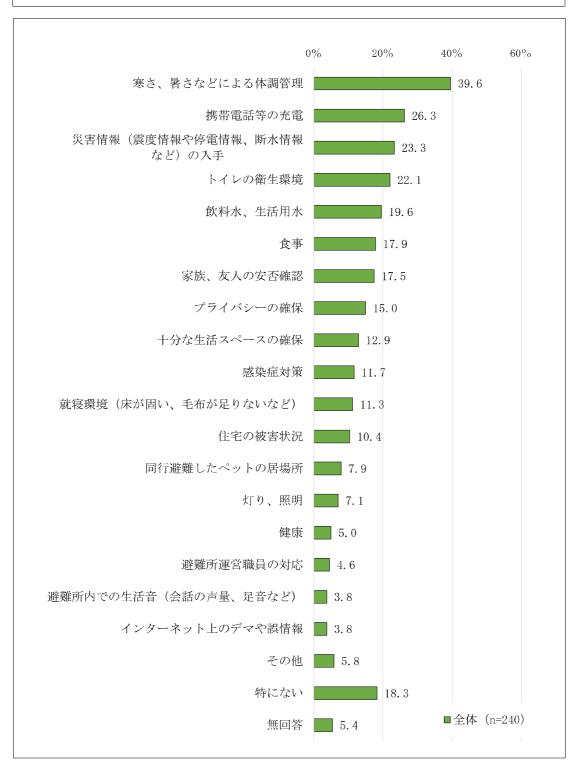
回答数が少ない  $18\sim19$  歳を除き、「5 分以内」と答えた割合は、 $60\sim69$  歳(50.0%)で最も高い。「15 分以内」と答えた割合は、 $50\sim59$  歳(18.3%)で最も高い。

# 図 2.8 避難先までかかった時間



#### (9) 津波避難場所又は津波避難ビルに滞在中に困ったこと、不安に感じたこと

問 16 津波避難場所又は津波避難ビルに避難した方(問 11 で「1または2」を選んだ方)の みお答えください。避難場所滞在中に困ったこと、不安に感じたことは何ですか。(あ てはまるものすべて)



津波避難場所又は津波避難ビルに滞在中に困ったこと、不安に感じたことは、「寒さ、暑さなどによる体調管理」(39.6%)が最も割合が高く、次いで「携帯電話等の充電」(26.3%)、「災害情報(震度情報や停電情報、断水情報など)の入手」(23.3%)、「トイレの衛生環境」(22.1%)の順で続く。

# 【属性別結果】(次ページ図 2.9 参照)

- ① 区别
  - 該当者数が少ないため、グラフのみの掲載とする。
- 2 性別

該当者数が少ないため、グラフのみの掲載とする。

③ 年齢別

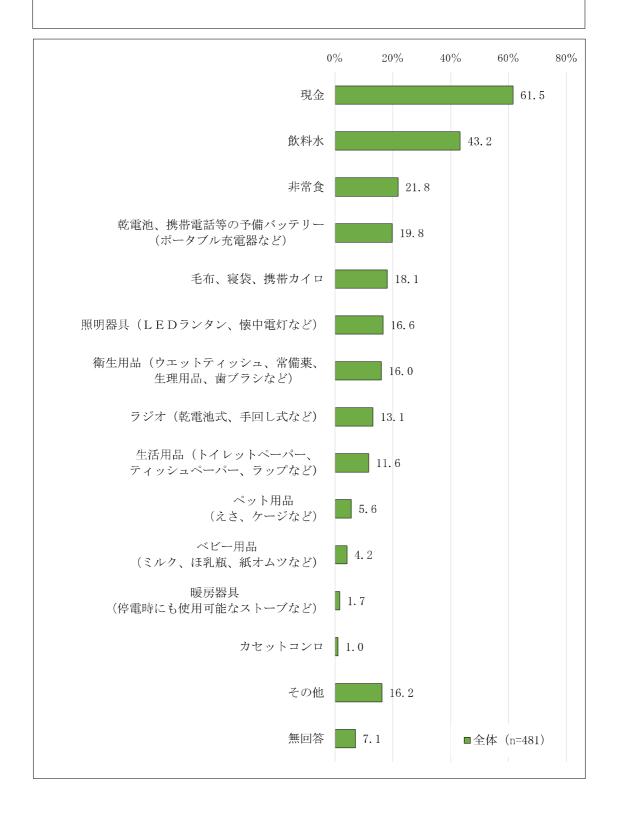
該当者数が少ないため、グラフのみの掲載とする。

図 2.9 津波避難場所又は津波避難ビルに滞在中に困ったこと、不安に感じたこと (区別/性別/年齢別)

							. 1														
割合 (%)	寒さ、暑さなどによる体調管理	携帯電話等の充電	断水情報など)の入手災害情報(震度情報や停電情報、	トイレの衛生環境	飲料水、生活用水	食事	家族、友人の安否確認	プライバシーの確保	十分な生活スペースの確保	感染症対策	(床が固い、毛布が足りないなど)就寝環境	住宅の被害状況	同行避難したペットの居場所	灯り、照明	健康	避難所運営職員の対応	(会話の声量、足音など)避難所内での生活音	インターネット上のデマや誤情報	その他	特にない	無回答
全体(n=240)	39.6	26. 3	23. 3	22. 1	19. 6	17. 9	17. 5	15.0	12. 9	11. 7	11. 3	10. 4	7.9	7. 1	5. 0	4.6	3. 8	3.8	5.8	18. 3	5. 4
【区别】																					
北区 (n=21)	23.8	28. 6	4.8	9. 5	14. 3	14. 3	19. 0	4.8	14. 3	4.8	4.8	9. 5	9. 5	9. 5	0.0	0.0	4.8	4.8	14. 3	23. 8	9. 5
東区 (n=62)	35. 5	22. 6	24. 2	17. 7	14. 5	11. 3	27. 4	16.1	12. 9	16. 1	14. 5	8. 1	6.5	6.5	4.8	4.8	1.6	1.6	9.7	21.0	1.6
中央区 (n-62)	51.6	25. 8	25. 8	24. 2	24. 2	22. 6	16. 1	19. 4	12. 9	11. 3	12. 9	11. 3	4.8	3. 2	6. 5	4.8	4.8	4.8	0.0	17. 7	6. 5
江南区 (n=12)	41.7	33. 3	16.7	33. 3	16. 7	16. 7	0.0	16. 7	0.0	16. 7	0.0	0.0	8. 3	8.3	0.0	0.0	8. 3	8. 3	0.0	33. 3	0.0
秋葉区 (n=9)	22. 2	0.0	11. 1	22. 2	11. 1	22. 2	11.1	33. 3	11. 1	22. 2	11. 1	11. 1	33. 3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	11. 1	0.0
南区 (n=3)	0.0	0.0	0.0	0.0	33. 3	33. 3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	33. 3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	33. 3
西区 (n=60)	38. 3	33. 3	26. 7	28. 3	20.0	18. 3	13. 3	8.3	15.0	8. 3	10.0	13. 3	6. 7	11. 7	6. 7	5.0	5. 0	5.0	5.0	13. 3	8. 3
西蒲区 (n=8)	50.0	37. 5	50.0	25. 0	37. 5	25. 0	12. 5	25. 0	25. 0	12. 5	12. 5	25. 0	12. 5	12. 5	12. 5	25. 0	0.0	0.0	25. 0	25. 0	0.0
【性別】																					
男性(n=94)	35. 1	25. 5	25. 5	21.3	17. 0	18. 1	11.7	12.8	12.8	7.4	10.6	5.3	5.3	7. 4	2. 1	2.1	1.1	4.3	6.4	22. 3	4. 3
女性(n=144)	42. 4	27. 1	22. 2	22. 9	21. 5	18. 1	20.8	16.0	13. 2	14. 6	11. 1	13. 9	9. 7	6. 9	6. 9	6.3	5. 6	3. 5	5.6	16. 0	6. 3
【年齢別】																					
18~19歳 (n=7)	42. 9	42. 9	57.1	0.0	14. 3	28. 6	14. 3	57. 1	0.0	14. 3	42. 9	28. 6	28.6	0.0	0.0	0.0	0.0	14. 3	0.0	14. 3	0.0
20~29歳(n=20)	45.0	35. 0	20.0	30. 0	35. 0	25. 0	25. 0	20.0	30. 0	10.0	5.0	10. 0	10.0	15. 0	5. 0	0.0	0.0	10.0	5.0	15. 0	0.0
30~39歳 (n-31)	41.9	38. 7	19. 4	29.0	32. 3	29. 0	19. 4	22. 6	25. 8	19. 4	22. 6	12. 9	6.5	9. 7	0.0	6.5	3. 2	3. 2	3. 2	16. 1	3. 2
40~49歳 (n=41)	58. 5	39. 0	19. 5	24. 4	26. 8	29. 3	17. 1	22.0	12. 2	19. 5	12. 2	14. 6	12.2	4. 9	7. 3	2.4	4. 9	7.3	4. 9	4. 9	4. 9
50~59歳 (n=40)	55.0	35. 0	30. 0	27. 5	17. 5	15.0	20. 0	17.5	17. 5	17. 5	17. 5	15. 0	10.0	5.0	7. 5	10.0	10.0	2.5	2.5	15. 0	0.0
60~69歳 (n=41)	31. 7	24. 4	24. 4	22.0	19. 5	9.8	14. 6	4. 9	4. 9	2.4	7. 3	4. 9	2.4	12. 2	2. 4	2.4	2. 4	2. 4	14. 6	19. 5	7. 3
70歳以上(n=58)	17.2	1. 7	20.7	13.8	5. 2	8. 6	13. 8	3.4	5. 2	5.2	0.0	5. 2	5. 2	3. 4	6. 9	5.2	1.7	0.0	5. 2	32. 8	12. 1

#### (10) 避難時に携行したもの

# 問17 避難するときに何を携行しましたか。(あてはまるものすべて)



避難時に携行したものは、「現金」(61.5%)が最も割合が高く、次いで「飲料水」(43.2%)、「非常食」(21.8%)、「乾電池、携帯電話等の予備バッテリー(ポータブル充電器など)」(19.8%)の順で続く。

# 【属性別結果】(次ページ図 2.10 参照)

## ① 区别

該当者数が多い東区、中央区、西区では、いずれも「現金」の割合が最も高く、次に「飲料水」の割合が高い。

# 2 性別

「現金」、「飲料水」と答えた割合は、男性(各 58.3%、38.0%)より女性(各 64.5%、47.4%)で高く、差がみられた。

# ③ 年齢別

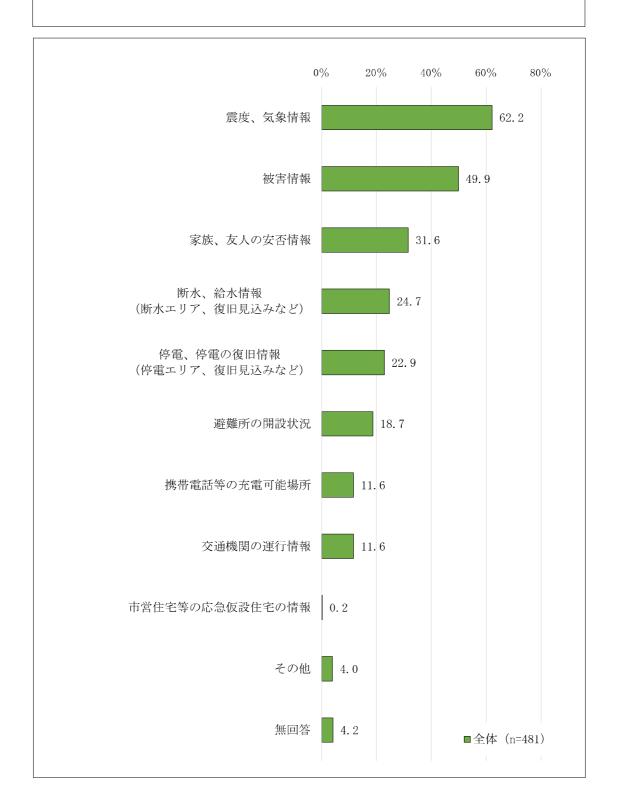
回答数が少ない  $18\sim19$  歳を除き、「現金」と答えた割合は、 $50\sim59$  歳(68.3%)で最も高く、 $60\sim69$  歳(52.6%)、70 歳以上(57.1%)の高齢層で低くなっている。高齢層は、他の項目でも割合が低くなっている項目が多い。

# 図 2.10 避難時に携行したもの

割合 (%)	現金	飲料水	非常食	(ポータブル充電器など) 乾電池、携帯電話等の予備バッテリー	毛布、寝袋、携帯カイロ	(LEDランタン、懐中電灯など)照明器具	薬、生理用品、歯ブラシなど) 衛生用品(ウエットティッシュ、常備	ラジオ(乾電池式、手回し式など)	ティッシュペーパー、ラップなど)生活用品(トイレットペーパー、	ペット用品(えさ、ケージなど)	(ミルク、ほ乳瓶、紙オムツなど)ベビー用品	(停電時にも使用可能なストーブなど)暖房器具	カセットコンロ	その他	無回答
全体 (n=481)	61.5	43. 2	21.8	19.8	18. 1	16.6	16.0	13. 1	11.6	5. 6	4. 2	1. 7	1.0	16. 2	7. 1
【区別】															
北区 (n=43)	58. 1	39. 5	20. 9	18.6	18. 6	9.3	7. 0	11.6	11.6	4. 7	0.0	0.0	7.0	9. 3	14.0
東区 (n=116)	63.8	48. 3	26. 7	25.0	13. 8	18. 1	19. 8	17. 2	12. 9	6. 9	6. 9	2. 6	0. 9	12. 1	4. 3
中央区 (n=125)	63. 2	37. 6	17. 6	17.6	20. 8	14.4	13. 6	12. 8	11.2	3. 2	1.6	0.8	0.0	20.8	8.0
江南区 (n=22)	63. 6	63.6	22. 7	31.8	9. 1	22.7	9. 1	4.5	4. 5	9. 1	27. 3	4. 5	0.0	22. 7	0.0
秋葉区 (n=17)	47. 1	41.2	35. 3	11.8	11.8	23.5	11.8	5.9	11.8	5. 9	0.0	0.0	0.0	11.8	0.0
南区 (n=6)	66. 7	50. 0	33. 3	16.7	33. 3	16.7	0.0	33. 3	16.7	16. 7	0.0	0.0	16.7	0.0	16. 7
西区 (n=128)	64.8	41.4	17. 2	18.0	21. 1	18.0	19. 5	10. 9	10.9	5. 5	2. 3	2. 3	0.0	15. 6	6. 3
西蒲区 (n=15)	40.0	53. 3	46. 7	13.3	20.0	13.3	20.0	13. 3	20.0	6. 7	6. 7	0.0	0.0	40. 0	6. 7
【性別】															
男性(n=187)	58. 3	38. 0	23.0	20.3	9. 6	17.6	9. 1	17. 1	8.0	3. 7	4. 3	1.6	2. 1	15. 5	5. 9
女性 (n=287)	64. 5	47. 4	21. 3	19.5	24. 0	15.7	20. 6	10. 1	13.9	6. 6	4. 2	1.7	0.3	17. 1	7.0
【年齢別】															
18~19歳 (n=9)	77.8	55. 6	44. 4	22.2	22. 2	22.2	0.0	11. 1	22. 2	11. 1	0.0	11.1	0.0	33. 3	0.0
20~29歳(n=41)	61.0	41.5	24. 4	14.6	19. 5	4.9	12. 2	7.3	14.6	2. 4	9.8	2. 4	0.0	12. 2	9.8
30~39歳 (n=62)	67.7	58.1	30.6	30.6	21.0	17.7	25. 8	8.1	17.7	8. 1	12. 9	1.6	3. 2	9. 7	1.6
40~49歳 (n=92)	65. 2	50.0	31. 5	27.2	26. 1	18.5	16. 3	8. 7	14.1	6. 5	5. 4	3. 3	0.0	19.6	4. 3
50~59歳 (n=82)	68. 3	41.5	18. 3	23.2	15. 9	13, 4	19. 5	12. 2	8. 5	8. 5	2. 4	1.2	2.4	15.9	7. 3
60~69歳 (n=76)	52. 6	40.8	15. 8	10.5	18. 4	14. 5	11.8	11.8	5. 3	2. 6	1.3	0.0	0.0	13. 2	9. 2
70歳以上 (n=112)	57. 1	33. 9	13. 4	13. 4	11.6	21.4	13. 4	22. 3	10.7	3. 6	0.0	0.9	0.9	20. 5	8.0

## (11) 避難中に必要だった情報

問18 避難中、あなたは特にどのような情報が必要でしたか。(3つまで)



避難中に必要だった情報は、「震度、気象情報」(62.2%)が最も割合が高く、次いで「被害情報」(49.9%)、「家族、友人の安否情報」(31.6%)、「断水、給水情報(断水エリア、復旧見込みなど)」(24.7%)、「停電、停電の復旧情報(停電エリア、復旧見込みなど)」(22.9%)の順で続く。

# 【属性別結果】(次ページ図 2.11 参照)

#### ① 区别

該当者数が多い東区、中央区、西区では、いずれも「震度、気象情報」の割合が最も高く、次に「被害情報」の割合が高い。「断水、給水情報(断水エリア、復旧見込みなど)」と「停電、停電の復旧情報(停電エリア、復旧見込みなど)」は、西区(各37.5%、30.5%)で割合が高かった。

# ② 性別

「震度、気象情報」と答えた割合は、女性(57.8%)より男性(68.4%)で、「家族、友人の安 否情報」と答えた割合は、男性(25.1%)より女性(34.8%)で高く、差がみられた。

#### ③ 年齢別

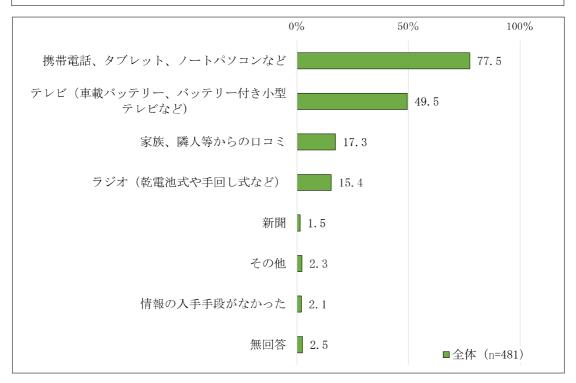
回答数が少ない  $18\sim19$  歳を除き、「震度、気象情報」と答えた割合は、 $30\sim39$  歳 (69.4%) で最も高く、「被害情報」と答えた割合は、 $50\sim59$  歳 (65.9%) で最も高い。60 歳以上の高齢層は、他の年代と比べ、割合が低い項目が多い。

# 図 2.11 避難中に必要だった情報

割合 (%)	震度、気象情報	被害情報	家族、友人の安否情報	(断水エリア、復旧見込みなど)断水、給水情報	(停電エリア、復旧見込みなど)停電、停電の復旧情報	避難所の開設状況	携帯電話等の充電可能場所	交通機関の運行情報	市営住宅等の応急仮設住宅の情報	その他	無回答
全体(n=481)	62. 2	49. 9	31.6	24. 7	22. 9	18. 7	11.6	11.6	0.2	4.0	4. 2
【区別】											
北区 (n=43)	60. 5	62.8	34. 9	7. 0	14. 0	18. 6	14. 0	18. 6	0.0	2. 3	2. 3
東区 (n=116)	66. 4	50. 9	40. 5	17. 2	15. 5	19.8	12. 1	12. 1	0.0	3.4	4. 3
中央区 (n=125)	62. 4	48. 0	28. 8	28. 0	24.0	19. 2	9. 6	10. 4	0.0	4.8	5.6
江南区 (n=22)	77. 3	40.9	18. 2	27. 3	22. 7	27. 3	22. 7	4. 5	0.0	0.0	4. 5
秋葉区(n=17)	70.6	47. 1	23. 5	17. 6	29. 4	17. 6	0. 0	17. 6	0.0	5. 9	0.0
南区 (n=6)	66. 7	50.0	33. 3	16. 7	33. 3	50. 0	33. 3	33. 3	16. 7	0.0	0.0
西区 (n=128)	56. 3	47.7	26. 6	37. 5	30. 5	14. 8	11.7	9. 4	0.0	4.7	3. 1
西蒲区 (n=15)	40.0	53. 3	26. 7	6. 7	20.0	20.0	13. 3	13. 3	0.0	6. 7	6. 7
【性別】											
男性(n=187)	68. 4	51. 3	25. 1	24. 6	24. 6	17. 1	10. 7	12. 3	0.0	4.3	3. 7
女性(n=287)	57.8	49. 1	34. 8	24. 7	21.6	19. 9	12. 5	11. 1	0.3	3.8	4. 2
【年齢別】											
18~19歳 (n=9)	55. 6	33. 3	55. 6	44. 4	22. 2	22. 2	33. 3	33. 3	0.0	0.0	0.0
20~29歳(n=41)	68. 3	41.5	46. 3	29. 3	31. 7	19. 5	17. 1	9.8	0.0	0.0	2. 4
30~39歳(n=62)	69. 4	37. 1	25. 8	37. 1	32. 3	21.0	16. 1	8. 1	0.0	4.8	3. 2
40~49歳(n=92)	63. 0	54. 3	32. 6	22. 8	26. 1	26. 1	13. 0	14. 1	0.0	2. 2	0.0
50~59歳(n=82)	62. 2	65. 9	30. 5	28.0	23. 2	19. 5	9.8	8. 5	0.0	1.2	0.0
60~69歳 (n=76)	56. 6	51. 3	28. 9	19. 7	14. 5	10. 5	9. 2	18. 4	0.0	5.3	7. 9
70歳以上(n=112)	58. 9	45. 5	26. 8	17. 0	17. 0	16. 1	8. 0	8. 0	0. 9	8.0	8.9

#### (12) 避難中の情報入手方法

問19 避難中、あなたはどのような手段で情報を入手しましたか。(あてはまるものすべて))



#### 【全体結果】

避難中の情報入手方法は、「携帯電話、タブレット、ノートパソコンなど」(77.5%)が最も割合が高く、次いで「テレビ(車載バッテリー、バッテリー付き小型テレビなど)」(49.5%)、「家族、隣人等からの口コミ」(17.3%)、「ラジオ(乾電池式や手回し式など)」(15.4%)の順で続く。

## 【属性別結果】(次ページ図 2.12 参照)

### ① 区别

該当者数が多い東区、中央区、西区では、いずれも「携帯電話、タブレット、ノートパソコンなど」の割合が最も高く、次に「テレビ(車載バッテリー、バッテリー付き小型テレビなど)」の割合が高い。

#### ② 性別

「携帯電話、タブレット、ノートパソコンなど」、「テレビ(車載バッテリー、バッテリー付き小型テレビなど)」、「ラジオ(乾電池式や手回し式など)」と答えた割合は、女性(各 76.3%、47.0%、12.5%)より男性(各 79.7%、52.9%、19.8%)で、「家族、隣人等からの口コミ」と答えた割合は、男性(13.9%)より女性(19.5%)で高く、差がみられた。

### ③ 年齢別

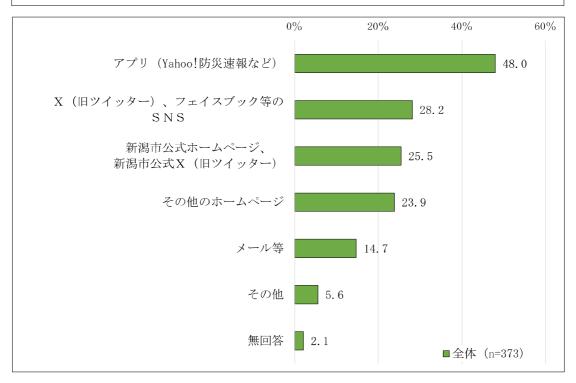
回答数が少ない  $18\sim19$  歳を除き、「携帯電話、タブレット、ノートパソコンなど」と答えた割合は、 $30\sim39$  歳(96.8%)で、「テレビ(車載バッテリー、バッテリー付き小型テレビなど)」と答えた割合は、 $20\sim29$  歳(61.0%)で最も高い。「家族、隣人等からの口コミ」と答えた割合は、70 歳以上(22.3%)で最も高く、年齢が高くなるほど割合が高くなる傾向がみられる。

# 図 2.12 避難中の情報入手方法

割合 (%)	ノートパソコンなど 携帯電話、タブレット、	バッテリー付き小型テレビなど)「テレビ(車載バッテリー、	家族、隣人等からの口コミ	(乾電池式や手回し式など)ラジオ	新聞	その他	情報の入手手段がなかった	無 回 答
全体(n=481)	77. 5	49. 5	17.3	15. 4	1. 5	2. 3	2. 1	2, 5
【区别】							Γ	
比区 (n=43)	83.7	67. 4	11.6	18. 6	2. 3	4. 7	0.0	2. 3
東区 (n=116)	81. 9	49. 1	19.0	15. 5	0.0	1.7	2. 6	0.0
中央区 (n=125)	77. 6	46. 4	13.6	16. 0	0.0	1.6	1.6	4. 0
江南区 (n=22)	86. 4	59. 1	13. 6	13. 6	9. 1	0.0	0.0	4. 5
秋葉区 (n=17)	70. 6	76. 5	5. 9	17. 6	5. 9	0.0	5.9	0.0
南区 (n=6)	66. 7	66. 7	33. 3	33. 3	16. 7	0.0	0.0	0.0
西区 (n=128)	76. 6	39. 1	22. 7	12. 5	1.6	3. 1	3. 1	2. 3
西蒲区 (n=15)	33. 3	60.0	13. 3	20.0	0.0	6. 7	0.0	6. 7
【性別】			•		•			
男性 (n=187)	79. 7	52. 9	13. 9	19.8	1. 1	1.1	2.7	1. 1
女性 (n=287)	76. 3	47.0	19. 5	12. 5	1. 7	3. 1	1.7	3. 1
【年齢別】	•	-			•			,
18~19歳 (n=9)	100, 0	22. 2	22. 2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
20~29歳(n=41)	95. 1	61.0	9.8	17. 1	0.0	0.0	0.0	2. 4
30~39歳 (n=62)	96. 8	54.8	16. 1	9. 7	0.0	0.0	0.0	1. 6
40~49歳 (n=92)	81.5	53. 3	17. 4	18. 5	0.0	2. 2	1.1	0.0
50~59歳(n=82)	81. 7	50.0	12.2	11. 0	0.0	1.2	2. 4	1. 2
60~69歳 (n=76)	67. 1	35. 5	19. 7	19. 7	0.0	5. 3	2.6	5. 3
70歳以上(n=112)	59. 8	50.0	22.3	17. 0	6.3	3.6	4.5	3. 6

#### (13) 携帯電話、タブレット、ノートパソコンなどでの情報入手方法

問 20 問 19 で「3」を選んだ方のみお答えください。 具体的に、どこから情報を入手しましたか。(あてはまるものすべて)



#### 【全体結果】

携帯電話、タブレット、ノートパソコンなどでの情報入手方法は、「アプリ (Yahoo!防災速報など)」(48.0%)が最も割合が高く、次いで「X (旧ツイッター)、フェイスブック等のSNS」(28.2%)、「新潟市公式ホームページ、新潟市公式X (旧ツイッター)」(25.5%)、「その他のホームページ」(23.9%)の順で続く。

# 【属性別結果】(次ページ図 2.13 参照)

# ① 区别

該当者数が多い東区、中央区、西区では、いずれも「アプリ (Yahoo!防災速報など)」の割合が最も高い。次に割合が高いのは、中央区と西区では「X (旧ツイッター)、フェイスブック等のSNS」、東区では「新潟市公式ホームページ、新潟市公式X (旧ツイッター)」となった。

#### ② 性別

「アプリ (Yahoo!防災速報など)」、「新潟市公式ホームページ、新潟市公式X (旧ツイッター)」、「メール等」と答えた割合は、男性 (各 46.3%、22.8%、12.1%) より女性 (各 49.8%、27.4%、16.4%) で、「その他のホームページ」と答えた割合は、女性 (17.8%) より男性 (32.2%) で高く、差がみられた。

### ③ 年齢別

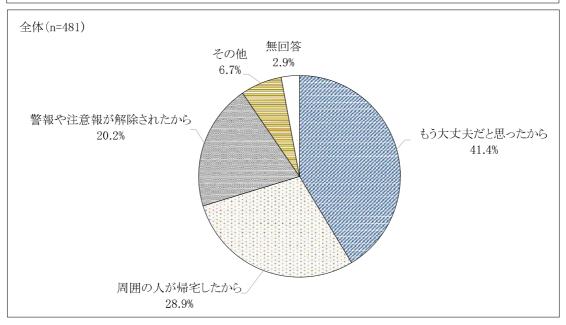
回答数が少ない  $18\sim19$  歳を除き、「アプリ (Yahoo! 防災速報など)」は年齢が高いほど割合が高く、「X (旧ツイッター)、フェイスブック等のSNS」は、年齢が低いほど割合が高い傾向がみられた。

図 2.13 携帯電話、タブレット、ノートパソコンなどでの情報入手方法

割合 (%)	(Yahoo!防災速報など)アプリ	フェイスブック等のSNS	新潟市公式X(旧ツイツター)新潟市公式ホームページ、	その他のホームページ	メール等	その他	無回答
全体 (n=373)	48.0	28. 2	25. 5	23.9	14. 7	5. 6	2. 1
【区别】							
北区 (n=36)	50.0	19. 4	22. 2	30.6	13. 9	8.3	2.8
東区 (n=95)	46. 3	22. 1	29. 5	23.2	12. 6	4.2	3. 2
中央区 (n=97)	42. 3	29. 9	25. 8	21.6	16. 5	9. 3	2. 1
江南区 (n=19)	52. 6	36.8	36. 8	26.3	15. 8	5. 3	0.0
秋葉区 (n=12)	58. 3	16.7	16. 7	25.0	8.3	8.3	8.3
南区 (n=4)	75. 0	25. 0	25. 0	0.0	25. 0	25. 0	0.0
西区 (n=98)	53. 1	33. 7	20. 4	23.5	16. 3	2. 0	1.0
西蒲区 (n=5)	40.0	60.0	40.0	20.0	0.0	0.0	0.0
【性別】							
男性(n=149)	46. 3	29. 5	22. 8	32. 2	12. 1	5. 4	0.0
女性 (n=219)	49. 8	27.9	27. 4	17.8	16. 4	5. 9	3. 7
【年齢別】							
18~19歳 (n=9)	22. 2	55. 6	33. 3	0.0	22. 2	0.0	11.1
20~29歳 (n=39)	38. 5	56. 4	20. 5	17.9	12.8	5. 1	0.0
30~39歳(n=60)	41.7	46. 7	21. 7	25.0	5. 0	8.3	0.0
40~49歳(n=75)	53. 3	29. 3	28. 0	36.0	5. 3	4.0	0.0
50~59歳(n=67)	50. 7	28. 4	34. 3	22.4	16. 4	7. 5	0.0
60~69歳(n=51)	58. 8	9.8	19. 6	25. 5	17. 6	5. 9	2.0
70歳以上(n=67)	47.8	6.0	23. 9	14.9	29. 9	4. 5	9.0

#### (14) 避難場所から帰宅する判断をした理由

問21 避難場所から帰宅する判断をした理由は何ですか。



## 【全体結果】

避難場所から帰宅する判断をした理由は、「もう大丈夫だと思ったから」(41.4%)が最も割合が高く、次いで「周囲の人が帰宅したから」(28.9%)、「警報や注意報が解除されたから」(20.2%)の順で続く。

### 【属性別結果】(次ページ図 2.14 参照)

# ① 区别

該当者数が多い東区、中央区、西区では、いずれも「もう大丈夫だと思ったから」の割合が最も高く、次に「周囲の人が帰宅したから」の割合が高い。

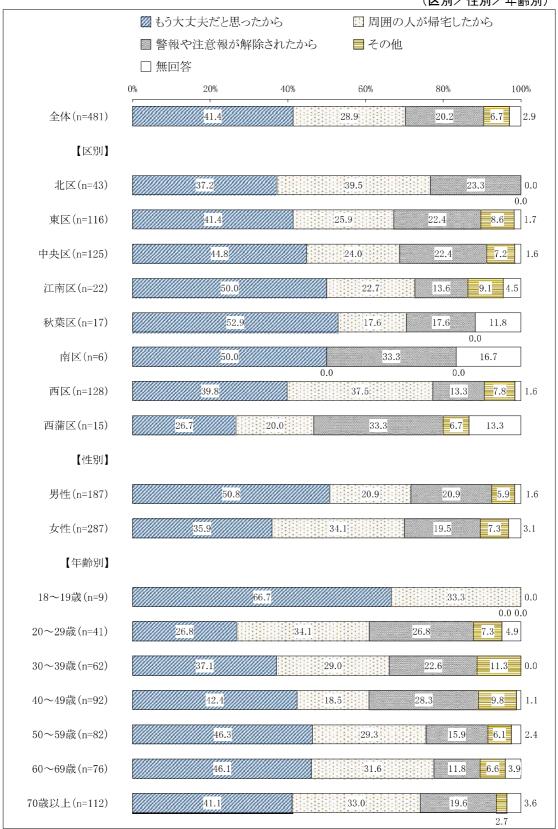
## ② 性別

「もう大丈夫だと思ったから」と答えた割合は、女性(35.9%)より男性(50.8%)で、「周囲の人が帰宅したから」と答えた割合は、男性(20.9%)より女性(34.1%)で高く、差がみられた。

# ③ 年齢別

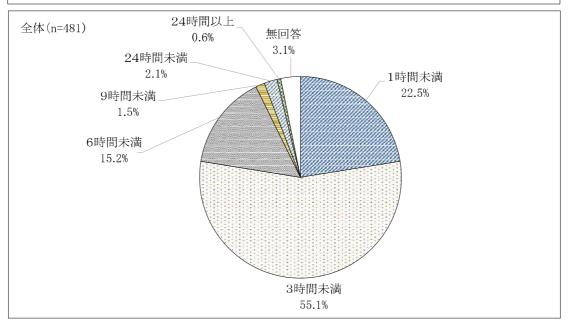
回答数が少ない  $18\sim19$  歳を除き、 $20\sim29$  歳以外は「もう大丈夫だと思ったから」の割合が最も高い。 $20\sim29$  歳は、「周囲の人が帰宅したから」(34.1%) の割合が最も高い。

#### 図 2.14 避難場所から帰宅する判断をした理由



#### (15) 避難場所の滞在時間

問22 避難場所の滞在時間はどれくらいでしたか。



## 【全体結果】

避難場所から帰宅する判断をした理由は、「3時間未満」(55.1%)が最も割合が高く、次いで「1時間未満」(22.5%)、「6時間未満」(15.2%)の順で続く。『3時間未満の合計』で77.5%、『6時間未満の合計』で92.7%を占めた。

# 【属性別結果】(次ページ図 2.15 参照)

# ① 区别

該当者数が多い東区、中央区、西区では、いずれも『6時間未満の合計』が9割以上を占めた。 「6時間未満」の割合は、西区(20.3%)、中央区(18.4%)、東区(8.6%)の順に高い。

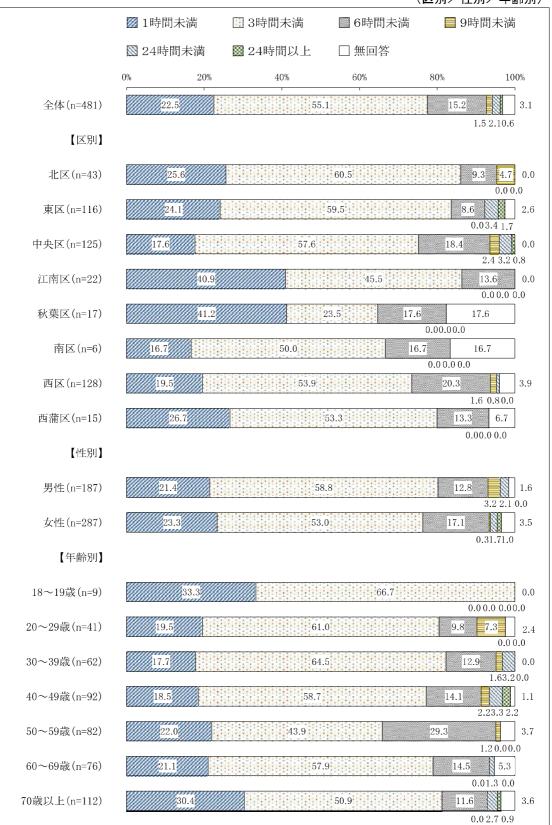
#### ② 性別

「3時間未満」と答えた割合は、女性(53.0%)より男性(58.8%)で、「6時間未満」と答えた割合は、男性(12.8%)より女性(17.1%)で高く、差がみられた。

#### ③ 年齢別

回答数が少ない 18~19 歳を除き、「1 時間未満」と答えた割合は 70 歳以上 (30.4%) で最も高い。

#### 図 2.15 避難場所の滞在時間



## (16) 避難しなかった理由

問 23 避難しなかった方(問 10 で「2」を選んだ方)のみお答えください。 避難しなかった理由を教えてください。(あてはまるものすべて)



避難しなかった理由は、「安全な場所にいると思ったから」(61.3%)が最も割合が高く、次いで「浸水しない区域にいると思ったから」(36.4%)、「津波が来ないと思ったから」(35.9%)、「これまで被害にあったことがなかったから」(24.5%)の順で続く。

## 【属性別結果】(次ページ図 2.16 参照)

#### ① 区别

すべての区で「安全な場所にいると思ったから」の割合が最も高い。「これまで被害にあったことがなかったから」の割合は、他の区と比較して、東区 (19.9%)、中央区 (20.2%)、西区 (22.3%)で低い。

## ② 性別

「安全な場所にいると思ったから」「これまで被害にあったことがなかったから」と答えた割合は、女性(各 59.9%、22.5%)より男性(64.0%、27.9%)で、「家族や近所の人が避難しなかったから」「避難すべきかどうかわからなかったから」「どうしたらいいかわからなかったから」と答えた割合は、男性(各 16.0%、15.3%、4.5%)より女性(23.1%、18.5%、9.1%)で高く、差がみられた。

#### ③ 年齢別

回答数が少ない18~19歳を除き、「安全な場所にいると思ったから」「浸水しない区域にいると思ったから」「浸水しない区域にいると思ったから」「これまで被害にあったことがなかったから」「家族や近所の人が避難しなかったから」の割合は、概ね年齢が高いほど割合が高くなる傾向がみられる。

## ④ 地震発生時にいた場所別

地震発生時にいた場所が、津波浸水想定区域だった人が避難しなかった理由は、「安全な場所にいると思ったから」(47.9%)が最も割合が高く、次いで「津波が来ないと思ったから」(29.8%)、「家族や近所の人が避難しなかったから」(21.8%)の順で続く。「その他」の意見として、津波浸水想定区域であっても、「マンションの高層階に住んでいる」等の意見が散見された。

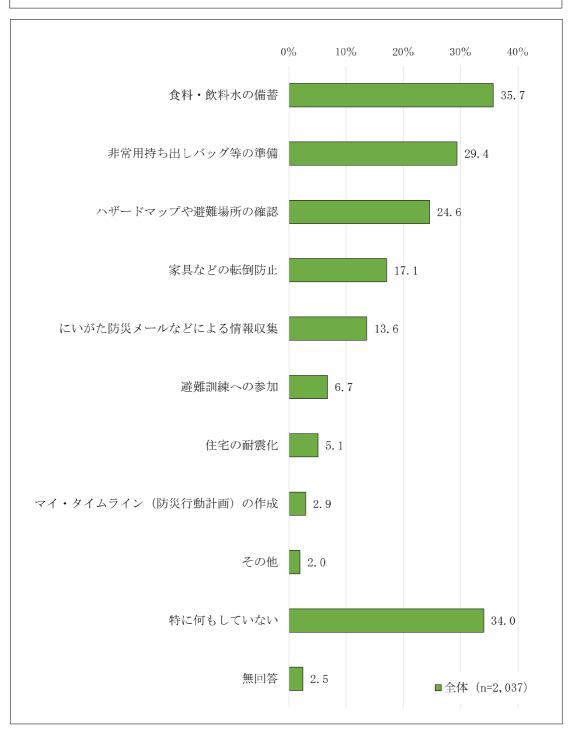
# 図 2.16 避難しなかった理由

												リ/ <del>+</del> M	
割合 (%)	思ったから安全な場所にいると	思ったから浸水しない区域にいると	津波が来ないと思ったから	ことがなかったからこれまで被害にあった	避難しなかったから家族や近所の人が	わからなかったから避難すべきかどうか	ペットがいたから	わからなかったからどうしたらいいか	わからなかったからどこに逃げれば安全か	嫌だったから避難所での生活が	知らなかったから津波警報が出たことを	その他	無回答
全体 (n=1548)	61.3	36. 4	35. 9	24. 5	19.8	17.2	8. 2	7. 1	7.0	3. 2	2. 1	12.8	1.6
【区別】		•	•	•			-	•	-	•	•		
北区 (n=124)	64.5	30. 6	39. 5	29. 8	21.0	16. 1	10.5	5.6	5. 6	4.8	0.8	12.1	1.6
東区 (n=226)	55. 3	33. 6	34. 5	19. 9	20.8	17.7	6.6	3. 5	3. 5	3. 1	0.9	17.7	2. 2
中央区 (n=321)	65. 1	29. 6	28. 0	20. 2	18. 1	15.3	8.4	4. 7	6.5	5. 0	1. 2	13.4	1.6
江南区 (n=162)	59.3	38. 3	38. 3	29. 0	24. 7	21.6	5. 6	11.7	11.7	1. 9	3. 7	13.6	1.2
秋葉区(n=176)	67.0	42. 6	35. 2	31.3	14. 2	13. 1	8.5	5.1	2.3	0.6	1. 7	5. 7	2.8
南区 (n=101)	55. 4	36. 6	45. 5	32. 7	24. 8	18.8	11.9	8.9	11.9	5.0	3. 0	9. 9	0.0
西区 (n=247)	61.5	40. 1	36. 4	22. 3	21.5	18.6	7. 7	9. 7	9. 7	3. 2	3. 6	15.8	1.6
西蒲区(n=122)	64.8	42. 6	44. 3	26. 2	18. 9	18.0	7.4	11.5	5. 7	0.0	3. 3	7.4	0.8
【性別】													
男性(n=648)	64.0	36. 0	36. 4	27. 9	16.0	15.3	6.0	4.5	5. 9	1.9	1. 7	11.6	2.3
女性 (n=836)	59. 9	36. 2	35. 2	22. 5	23. 1	18.5	9. 4	9. 1	7. 7	4. 1	2. 5	14.0	1. 1
【年齢別】													
18~19歳(n=7)	71.4	28. 6	28. 6	0.0	14. 3	14.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	28.6	0.0
20~29歳(n=105)	55. 2	31. 4	23. 8	13. 3	21.0	19.0	2. 9	7. 6	3. 8	4.8	2. 9	21.0	1. 0
30~39歳(n=134)	59. 0	25. 4	26. 9	13. 4	16. 4	20. 1	6.7	13. 4	10.4	0.7	2. 2	17.9	0.7
40~49歳(n=202)	58. 4	35. 1	32. 2	15. 3	16. 3	15.8	11.4	4.0	5. 9	2. 0	2. 5	17.8	1.0
50~59歳(n=283)	61.5	36. 0	31.8	17. 7	17. 0	19. 4	8.8	7. 1	5. 3	3. 5	0. 7	12.7	1. 1
60~69歳(n=269)	66. 9	39. 8	42. 0	26. 4	21. 2	17.5	11.5	7.8	10.8	3. 7	1. 9	9. 3	1.5
70歳以上(n=486)	62.3	38. 5	41. 4	38. 1	23. 5	14.8	5, 8	6. 2	5.8	3. 3	2. 9	9. 7	2.7
【地震発生時にいた場所	近別】												
津波浸水想定区域だっ た (n=188)	47. 9	14. 4	29. 8	18. 1	21.8	13.8	8.5	4. 3	6.4	5. 3	2. 1	20.7	2. 1
津波浸水想定区域では なかった (n=854)	69.8	47. 4	37. 6	25.3	16. 9	11.5	7. 6	4.6	3. 7	2. 2	1. 5	10.1	1.9
わからなかった (n=490)	52. 2	26. 1	35. 9	25. 3	24. 1	28.8	9.0	12.9	12.9	4. 3	3, 3	14.5	1.0

# 3. 地震発生後の状況(変化)について

## (1) 新たに行った対策

問 24 あなたは、ご家庭で「新たに」どのような対策を行いましたか。(今後取り組む予定の項目を含む。あてはまるものすべて)



地震発生後、新たに行った対策は、「食料・飲料水の備蓄」(35.7%)が最も割合が高く、次いで「非常用持ち出しバッグ等の準備」(29.4%)、「ハザードマップや避難場所の確認」(24.6%)、「家具などの転倒防止」(17.1%)の順で続く。

#### 【属性別結果】(次ページ図3.1参照)

### ① 区别

すべての区で、「食料・飲料水の備蓄」が最も割合が高く、次に「非常用持ち出しバッグ等の準備」の割合が高い。「特に何もしていない」と答えた割合は、秋葉区(42.6%)と西蒲区(41.0%)で高い。

## ② 性別

「食料・飲料水の備蓄」「非常用持ち出しバッグ等の準備」「ハザードマップや避難場所の確認」 「にいがた防災メールなどによる情報収集」と答えた割合は、男性(各30.3%、25.0%、21.7%、 11.7%)より女性(40.3%、32.9%、27.0%、15.4%)で高く、「特に何もしていない」と答えた 割合は、女性(30.4%)より男性(39.0%)で高く、差がみられた。

#### ③ 年齢別

回答数が少ない 18~19 歳を除き、いずれの年代も「食料・飲料水の備蓄」「非常用持ち出しバッグ等の準備」「ハザードマップや避難場所の確認」の順に割合が高い。「特に何もしていない」と答えた割合は、30~39 歳 (39.8%) で割合が最も高い。

#### ④ 被害状況別

「食料・飲料水の備蓄」「非常用持ち出しバッグ等の準備」「ハザードマップや避難場所の確認」「家具などの転倒防止」「にいがた防災メールなどによる情報収集」「住宅の耐震化」の割合は、被害状況が大きいほど割合が高い。

# 図 3.1 新たに行った対策

# (区別/性別/年齢別)

割合 (%)	食料・飲料水の備蓄	準備非常用持ち出しバッグ等の	の確認の確認がサードマップや避難場所	家具などの転倒防止	よる情報収集にいがた防災メールなどに	避難訓練への参加	住宅の耐震化	(防災行動計画)の作成マイ・タイムライン	その他	特に何もしていない	無 回 答
全体 (n=2,037)	35. 7	29. 4	24. 6	17. 1	13. 6	6. 7	5. 1	2. 9	2. 0	34.0	2. 5
【区別】											
北区 (n=167)	35. 9	27. 5	28. 1	21.0	15. 6	9. 0	4. 2	3. 0	0.6	32. 9	3.0
東区(n=342)	33. 0	31.0	27.8	11.7	12.0	7. 0	4.7	4. 1	2. 3	35. 1	2. 6
中央区 (n=448)	37. 3	29. 9	23. 7	15. 2	11. 2	7. 1	3. 3	3. 6	2. 2	32. 6	2. 5
江南区 (n=185)	34. 6	25. 9	22. 7	15. 7	15. 7	3. 8	3.8	2. 7	4. 3	36.8	2. 2
秋葉区(n=195)	30.8	24.6	21.5	18. 5	13. 3	6. 7	7. 2	0. 5	0. 5	42.6	2. 6
南区 (n=107)	34. 6	30.8	20. 6	27. 1	13. 1	10. 3	8. 4	3. 7	0. 9	27.1	2.8
西区 (n=376)	42.8	34.0	25. 8	20. 5	18. 1	6. 1	5. 9	1.9	2. 1	28. 5	1.6
西蒲区 (n=139)	33. 1	27.3	23. 7	17. 3	12. 2	5. 8	7. 2	2. 9	0.0	41.0	2. 9
【性別】											
男性(n=836)	30. 3	25.0	21.7	17. 3	11. 7	7.8	5. 3	2.8	1.4	39.0	2.0
女性(n=1,130)	40.3	32. 9	27.0	17. 1	15. 4	6. 0	4. 9	2. 9	2. 3	30. 4	2. 7
【年齢別】											
18~19歳 (n=16)	25. 0	18.8	12. 5	25. 0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	37.5	6.3
20~29歳 (n=146)	37. 0	30.8	24. 7	17.8	13.0	2. 1	6. 2	5. 5	2. 1	30.8	1. 4
30~39歳 (n=196)	35. 2	29. 1	25. 5	16.8	11. 2	4. 1	5. 6	3. 1	3. 1	39.8	0.0
40~49歳(n=294)	40. 1	29. 9	23.8	13. 9	11. 6	3. 7	2. 4	3. 1	1. 7	36. 1	2.0
50~59歳(n=365)	32. 3	26.6	23. 0	14. 2	12. 6	3. 3	4. 1	2.5	2. 2	38. 1	0.8
60~69歳 (n=346)	36. 4	29. 2	24. 9	17. 1	15. 3	5. 2	4.0	1.4	1.4	37.0	0.9
70歳以上(n=605)	36. 4	31. 7	26. 3	20. 2	16. 0	13. 4	7. 3	3. 1	1.8	27.8	5.3
【被害状況別】											
準半壊以上(n=70)	44. 3	35. 7	25. 7	34.3	18.6	8. 6	22.9	4.3	4. 3	17. 1	1.4
一部損壊(n=244)	41.8	32.8	24. 6	25. 4	16.8	9.8	8. 6	0.8	3. 3	25.0	2. 5
被害確認できず (n=1601)	34. 7	29.0	24. 7	15. 1	13. 4	6. 2	3. 7	3. 2	1. 6	36. 2	2. 2

)

#### (2) 新たに備えた備蓄品

問 25 あなたは、備蓄品として「新たに」どのようなものを備えましたか。(今後取り組む予定の項目を含む。あてはまるものすべて)



地震発生後、新たに備えた備蓄品は、「飲料水」(33.0%)が最も割合が高く、次いで「非常食」(28.3%)、「乾電池、携帯電話等の予備バッテリー(ポータブル充電器など)」(18.7%)、「衛生用品(ウエットティッシュ、常備薬、生理用品、歯ブラシなど)」(16.2%)、「生活用品(トイレットペーパー、ティッシュペーパー、ラップなど)」(15.7%)の順で続く。

## 【属性別結果】(次ページ図3.2参照)

# ① 区别

西蒲区では「非常食」(25.2%)の割合が最も高いが、他の区はすべて、「飲料水」の割合が最も高い。

# ② 性別

ほとんどの項目で、男性より女性で割合が高く、「何も備えていない」「すでに十分な備蓄をしていたため新たな備蓄は不要だった」と答えた割合は、女性(各 20.2%、10.7%)より男性(各 27.2%、14.6%)で高い。

### ③ 年齢別

回答数が少ない 18~19 歳を除き、いずれの年代も「飲料水」の割合が最も高い。「何も備えていない」答えた割合は、概ね年齢が低いほど割合が高くなる傾向がみられる。

#### ④ 被害状況別

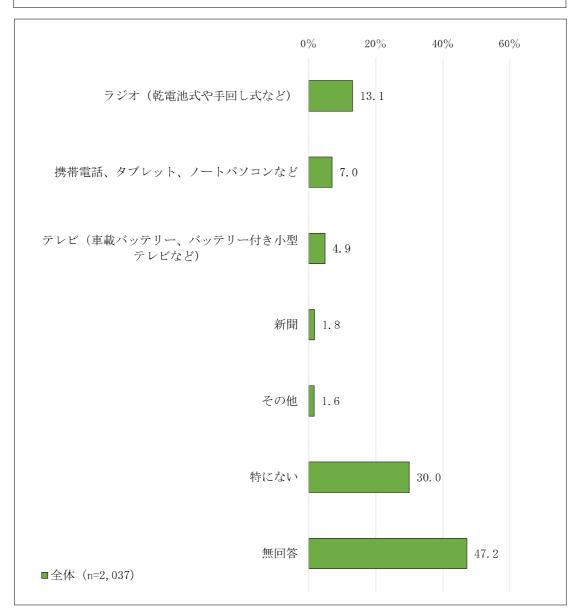
ほぼすべての備蓄品で、被害状況が大きいほど割合が高い。

# 図3.2 新たに備えた備蓄品

													( <u>P-</u> ).		こハリン	<u> </u>	
割合 (%)	飲料水	非常食	(ポータブル充電器など) 乾電池、携帯電話等の予備バッテリー	生理用品、歯ブラシなど) 衛生用品(ウエットティッシュ、常備薬、	シュペーパー、ラップなど) 生活用品(トイレットペーパー、ティッ	現金	(LEDランタン、懐中電灯など)照明器具	ラジオ(乾電池式、手回し式など)	毛布、寝袋、携帯カイロ	カセットコンロ	(停電時にも使用可能なストーブなど)暖房器具	ペット用品(えさ、ケージなど)	(ミルク、ほ乳瓶、紙オムツなど)ベビー用品	その他	何も備えていない	新たな備蓄は不要だったすでに十分な備蓄をしていたため	無回答
全体 (n=2,037)	33.0	28, 3	18. 7	16. 2	15. 7	14. 9	13. 7	12. 7	12.6	9. 2	8. 1	4.5	1.2	3. 4	23. 2	12. 3	4.3
【区別】																	
北区 (n=167)	36. 5	32. 9	21.0	16.8	19. 2	13.8	18.0	9.6	9. 6	10.8	10. 2	6.0	1.2	1. 2	24.0	11.4	6.0
東区 (n=342)	31.3	24. 6	16. 1	15. 2	13. 7	13. 2	12. 3	14.0	13. 2	7.0	7. 6	4. 1	1.5	2. 9	23. 4	12. 9	5.0
中央区 (n=448)	32.8	27. 5	21. 2	17. 0	15. 6	14. 7	12. 9	12. 7	13. 6	9.8	7.4	4. 2	0.9	2.0	23. 7	14. 3	4.0
江南区 (n-185)	37.3	34. 6	17.8	16. 2	16. 2	22. 2	16.8	15. 1	11.9	11.9	11. 9	3.8	2. 2	4. 3	27. 6	8. 6	2. 2
秋葉区 (n=195)	31.3	30.3	15. 9	14. 4	16. 4	13, 3	12.8	10.8	12.8	8.7	7. 7	5.1	0.0	3.6	26. 7	14. 4	2.6
南区 (n=107)	36. 4	33. 6	20.6	17.8	15. 9	15. 9	15.0	18.7	10.3	13. 1	11. 2	6.5	1.9	1. 9	14.0	13. 1	4.7
西区 (n=376)	36. 2	28. 2	21.5	18. 4	17. 0	14. 1	15. 4	11.2	12. 2	8.2	6. 4	4. 0	1.6	5. 9	18.6	11.7	4.5
西蒲区 (n=139)	24.5	25. 2	15. 1	15.8	12. 9	13. 7	10.8	12. 9	13. 7	10.1	10. 1	4. 3	0.7	4. 3	27.3	10. 1	2. 9
【性別】																	
男性 (n=836)	29.5	26. 1	17. 3	10. 9	11.7	13. 0	12.6	12. 2	9. 2	9. 1	7. 3	2.0	0.7	2.0	27. 2	14.6	3. 6
女性 (n=1,130)	36. 0	30. 4	20. 2	20.8	18.8	16.0	15.0	13. 1	14. 9	9.6	9. 0	6.3	1.6	4. 5	20. 2	10.7	4.5
【年齢別】																	
18~19歳 (n=16)	12.5	25. 0	12. 5	25. 0	6. 3	0.0	0.0	12. 5	18.8	6.3	0.0	6.3	0.0	0.0	25. 0	0.0	6.3
20~29歳(n=146)	32. 2	26. 7	18. 5	21. 2	13. 7	15. 1	15. 1	7. 5	13. 7	6.8	5. 5	2. 1	2.7	2. 1	32. 2	7. 5	0.7
30~39歳 (n=196)	31.6	28. 6	19. 9	22. 4	18. 9	15.8	13.8	8. 7	16. 3	6.6	7. 1	7. 7	5. 6	3. 6	28. 6	14.8	1.5
40~49歳 (n=294)	31.0	26. 9	19. 7	17. 7	16. 7	12. 9	12. 2	9. 2	9. 5	7.5	5. 4	4. 4	1.0	3. 7	24. 5	13. 3	2. 7
50~59歳(n=365)	32.6	28. 8	15. 6	15. 1	15. 1	10. 4	12.6	11. 2	10. 7	9. 3	5. 5	3. 6	0.3	4. 9	26.3	12. 1	2. 5
60~69歳 (n=346)	33.5	29. 8	20. 5	14. 2	14. 5	11.8	15.0	14. 2	11.6	11.0	10. 1	6.4	0.6	3. 5	23. 7	11.3	2.6
70歳以上 (n=605)	36.0	29. 1	19. 7	15.0	16. 4	20.0	15.4	17.0	13.9	10.9	11.4	3.5	0.5	2.8	16. 4	13.4	8. 3
【被害状況別】																	
準半壊以上 (n=70)	44. 3	44. 3	30. 0	24. 3	22. 9	28. 6	20.0	24. 3	20.0	11. 4	8. 6	7. 1	1.4	7. 1	8. 6	10.0	4.3
一部損壊 (n=244)	37.7	32. 4	23. 4	21. 3	18. 4	19. 7	16. 4	11.1	16.8	11.5	10. 2	5.3	1.6	4. 9	18.9	12.3	4.1
被害確認できず (n=1601)	32.0	27. 2	18. 0	15. 6	15. 1	13. 2	13. 5	12.3	11.6	9.0	7. 9	4. 2	1. 1	3. 1	24. 7	12. 6	3. 6

## (3) 情報入手のために新たに用意したもの

問 26 あなたは、災害時における情報入手のため、「新たに」用意したものはありますか。(今後用意する予定の項目を含む。あてはまるものすべて)



地震発生後、情報入手のために新たに用意したものは、「ラジオ(乾電池式や手回し式など)」 (13.1%)が最も割合が高く、次いで「携帯電話、タブレット、ノートパソコンなど」(7.0%)、 「テレビ(車載バッテリー、バッテリー付き小型テレビなど)」(4.9%)の順で続く。

調査票には選択肢に「特にない」が設定されていなかったため、その他の回答欄に『ない』『特にない』と記載があったもの等を「特にない」として集計している。「無回答」の割合が高いが、何も用意していない人が何も選択(回答)しなかったと考えると、8割近くの人は何も用意していないこととなる。

## 【属性別結果】(次ページ図3.3参照)

## ① 区别

用意したものは、すべての区で、「ラジオ(乾電池式や手回し式など)」「携帯電話、タブレット、 ノートパソコンなど」「テレビ(車載バッテリー、バッテリー付き小型テレビなど)」の順に割合 が高い。

# ② 性別

用意したものとして、「携帯電話、タブレット、ノートパソコンなど」と答えた割合は、女性(5.6%) より男性(8.9%)で高く、差がみられた。

#### ③ 年齢別

回答数が少ない 18~19 歳を除き、いずれの年代も用意したものは「ラジオ(乾電池式や手回し式など)」の割合が最も高い。

#### ④ 被害状況別

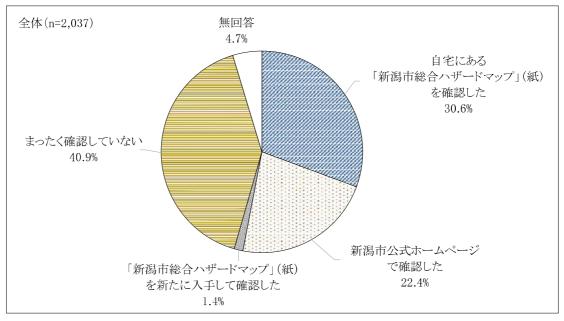
ほぼすべてのもので、被害状況が大きいほど割合が高い。

# 図3.3 情報入手のために新たに用意したもの

制合 (%)	(乾電池式や手回し式など)ラジオ	ノートパソコンなど 携帯電話、タブレット、	小型テレビなど) (車載バッテリー付き (車・ビアリー、	新聞	その他	特にない	無回答
全体 (n=2,037)	13. 1	7. 0	4. 9	1.8	1. 6	30.0	47. 2
【区別】							
北区 (n=167)	13. 2	10.8	3. 0	1.8	1. 2	28. 7	47.3
東区 (n=342)	14. 0	6. 4	4. 7	2.0	2. 9	26. 9	47.7
中央区 (n=448)	10.5	5. 1	4. 7	2.0	0.7	35. 3	46. 4
江南区(n=185)	11.9	9. 7	7. 0	1.1	1. 1	31. 4	45.4
秋葉区(n=195)	16.9	7.2	5. 6	2. 6	1.0	27. 7	46. 7
南区 (n=107)	15.0	10.3	8. 4	3. 7	0.9	27. 1	47.7
西区 (n=376)	13.8	5.9	3. 7	1.3	2. 1	32. 4	45.7
西蒲区 (n=139)	14.4	5. 8	5. 0	0.7	2.2	29. 5	44. 6
【性別】	•			•	•	•	•
男性(n=836)	11.7	8.9	5. 6	1.9	1. 1	36. 1	40.9
女性 (n=1,130)	14.4	5. 6	4. 2	1.8	1.9	26. 8	50. 5
【年齡別】							
18~19歳 (n=16)	0.0	0.0	18.8	0.0	6.3	43. 8	31.3
20~29歳(n=146)	13.7	11.6	4.8	2. 7	1. 4	49. 3	24. 7
30~39歳 (n=196)	13.8	10.2	4. 6	1.0	2.6	42. 3	32. 1
40~49歳(n=294)	11.9	5.8	5. 4	1.0	1. 4	51.7	28.6
50~59歳 (n=365)	11.8	4.7	4. 4	1.1	1.4	38. 6	41.6
60~69歳(n=346)	15.9	5.8	4.0	1.4	2.6	22.8	51.4
70歳以上(n=605)	13.4	7.8	5. 1	3.0	0.8	11.7	65.3
【被害状況別】							
準半壊以上(n=70)	25. 7	8. 6	8.6	5.7	1.4	27. 1	35. 7
一部損壊 (n=244)	13. 1	7.8	6. 1	1.6	2. 9	25. 8	50.0
被害確認できず (n=1601)	12.7	6. 7	4. 5	1. 7	1.4	32. 5	45. 5

## (4) 新潟市総合ハザードマップの内容の確認状況

問27 あなたは、区役所や市役所、新潟市公式ホームページなどで「新潟市総合ハザードマップ」の内容を確認しましたか。(どれか1つ)



### 【全体結果】

「新潟市総合ハザードマップ」の内容確認について、「自宅にある「新潟市総合ハザードマップ」 (紙)を確認した」が30.6%、「新潟市公式ホームページで確認した」が22.4%、「「新潟市総合ハザードマップ」(紙)を新たに入手して確認した」が1.4%、「まったく確認していない」が40.9%となった。

#### 【属性別結果】(次ページ図3.4参照)

### ① 区别

いずれの区でも、確認方法としては「自宅にある「新潟市総合ハザードマップ」(紙)を確認した」と「新潟市公式ホームページで確認した」の割合が高い。「まったく確認していない」の割合は、西蒲区 (56.8%) と江南区 (53.0%) で高く5割を超えた。

# ② 性別

男女での大きな差はみられない。

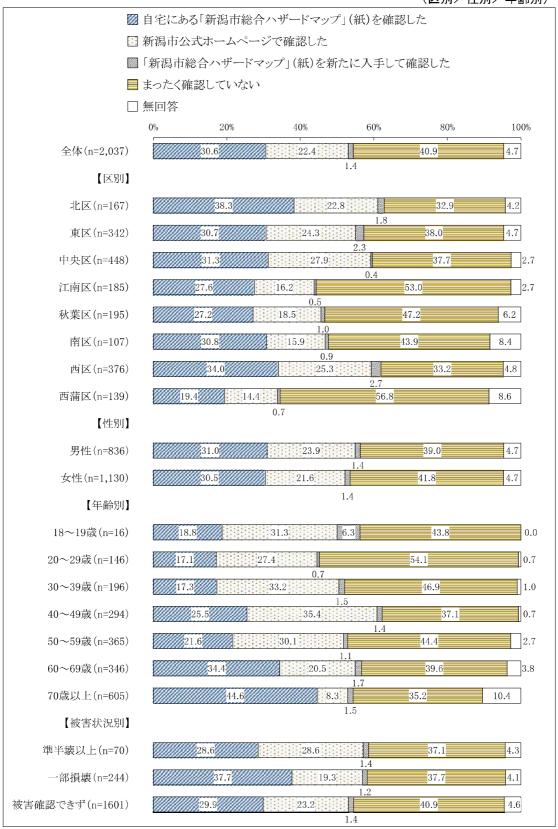
# ③ 年齢別

回答数が少ない  $18\sim19$  歳を除き、「自宅にある「新潟市総合ハザードマップ」(紙)を確認した」は、年齢が高いほど割合が高くなる傾向がみられる。逆に「新潟市公式ホームページで確認した」の割合は、年齢が低いほど割合が高くなる傾向がみられる。「まったく確認していない」の割合は、 $20\sim29$  歳(54.1%)で最も高い。

#### ④ 被害状況別

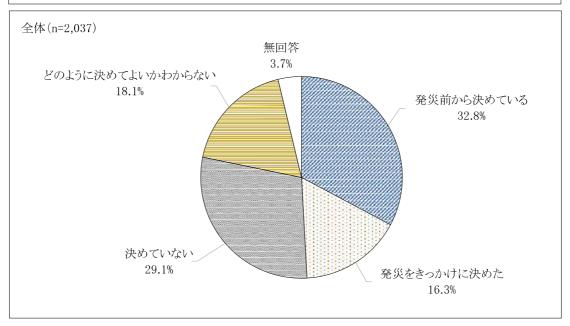
「まったく確認していない」の割合は、準半壊以上で37.1%、一部損壊で37.7%、被害確認できずで40.9%と、被害状況での差は大きくなかった。

#### 図3.4 新潟市総合ハザードマップの内容の確認状況



### (5) 今後津波警報が出たときの行動について

問 28 あなたは、今後津波警報が出たときにどのように行動するか決めましたか。(どれか1つ)



#### 【全体結果】

今後津波警報が出たときの行動について、「発災前から決めている」が32.8%、「発災をきっかけに決めた」が16.3%、合計で49.1%が行動を決めている。「決めていない」は29.1%、「どのように決めてよいかわからない」は18.1%、合計で47.2%が行動を決めていない。

# 【属性別結果】(次ページ図3.5参照)

# ① 区别

「発災前から決めている」と「発災をきっかけに決めた」を合わせた割合は、「中央区」(60.0%)、 東区 (58.2%)、西区 (56.1%) で高い。北区 (44.9%) で4割台だが、他の区はいずれも4割未 満と低い。

#### (2) 性別

「決めていない」と答えた割合は、女性 (23.5%) より男性 (36.2%) で、「どのように決めてよいかわからない」と答えた割合は、男性 (12.2%) より女性 (22.2%) で高く、差がみられた。

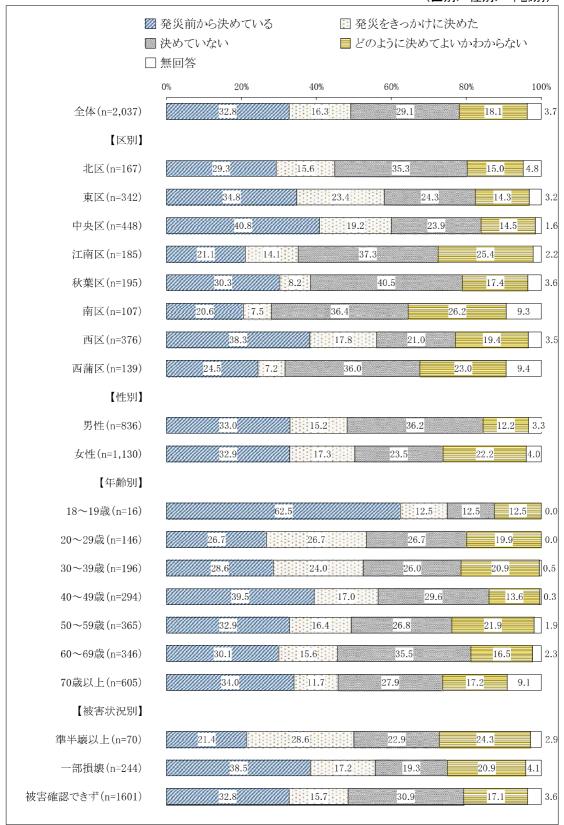
# ③ 年齢別

回答数が少ない 18~19 歳を除き、「発災をきっかけに決めた」の割合は、20~29 歳 (26.7%) で最も高く、年齢が低いほど割合が高くなる傾向がみられる。「発災前から決めている」と「発災をきっかけに決めた」を合わせた割合も、年齢が低いほど割合が高くなる傾向がみられる。

#### ④ 被害状況別

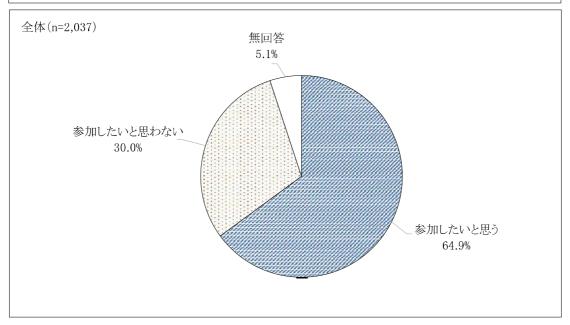
「発災をきっかけに決めた」の割合は被害状況が大きいほど高い。また、「どのように決めてよいかわからない」の割合も被害状況が大きいほど高い。

#### 図3.5 今後津波警報が出たときの行動について



### (6) 防災関連事業への参加について

問 29 あなたは、町内会やマンションの管理組合、新潟市等が実施する防災訓練や講演会など の防災関連事業に参加したいと思いますか。



## 【全体結果】

防災関連事業への参加について、「参加したいと思う」は64.9%、「参加したいと思わない」は30.0%となった。

# 【属性別結果】(次ページ図3.6参照)

#### ① 区別

「参加したいと思う」の割合は、「秋葉区」(71.3%)、北区(67.7%)、中央区(67.0%)の順に高い。最も低かったのは、西蒲区(61.9%)となった。

### ② 性別

男女での大きな差はみられない。

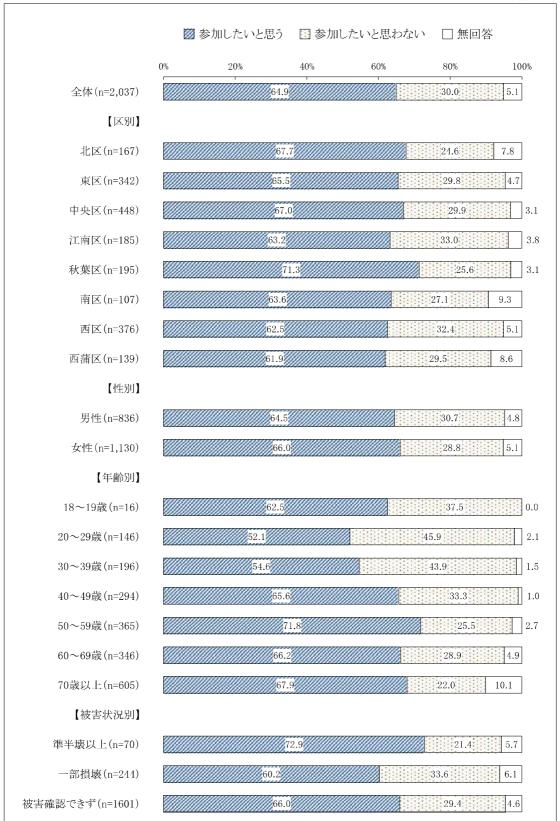
## ③ 年齢別

回答数が少ない  $18\sim19$  歳を除き、「参加したいと思う」の割合は、 $50\sim59$  歳(71.8%)で最も高く、 $20\sim29$  歳(52.1%)で最も低い。

## ④ 被害状況別

「参加したいと思う」の割合は、準半壊以上 (72.9%) で最も高いが、被害確認できず (66.0%) と、一部損壊 (60.2%) よりも高い。

#### 図3.6 防災関連事業への参加について



資料:調査票

# 新潟市

\_折\_線\_\_\_\_

# ◆能登半島地震に関する市民アンケート調査◆ ご協力のお願い

この度の、能登半島地震により被災された皆さまに心よりお見舞い申し上げます。

本市では、一日でも早い復旧・復興を目指すとともに、今後の防災対策の見直しに向け取組んでいるところです。

そこで、この度の地震による経験を今後の防災対策に活かすため、市民の皆さま 4,000 人を対象にアンケート調査を実施することといたしました。

突然のお願いで恐縮ではございますが、趣旨をご理解いただき、ご回答くださいますようお願いいたします。

\_\_\_\_折\_線\_\_

#### ● 4,000 人の選び方

18歳以上の市民の皆さまの中から、無作為抽出法(くじ引きのような方法)で選ばせていただきました。

● プライバシーの保護について この調査は、皆さまから無記名でご回答いただくものであり、個人のお名前が公 表されることは、決してございません。

また、調査をお願いした方の名簿は、この調査以外には使用いたしません。

#### 〔ご回答にあたって〕

ご回答は、あてはまる番号に〇印をつけるか、あるいは具体的な内容をご記入ください。記入されました市民アンケート調査票は、お手数ですが、折りたたんで同封の返信用封筒に入れ、無記名のまま切手を貼らずに令和6年7月31日(水)までに、郵便ポストへ投函いただくか、下記のインターネットからご回答ください。

# 本アンケートは、インターネットでもご回答いただけます。

次のアドレスまたは、右の二次元コードからアンケート画面へお入りください。 アドレス https://form.qooker.jp/Q/ja/bousai/ngt/



最初に表示される入力欄に以下の I Dとパスワードを入力してお答えください。

※この ID とパスワードは、重複回答を防ぐための ものでランダムに設定されています。個人を特定す るものではありません。

※インターネットからご回答いただく場合、本調査票の返信は不要です。

ご不明な点やお問い合わせは

新潟市危機管理防災局危機対策課 ☎ 025-226-1146 まで

※受付時間 8:30~17:15(平日)

## <ここから質問です。令和6年1月1日の能登半島地震についてお答えください。>

# 1 地震発生前の状況について

10 特に何もしていなかった

問1 あなたは、災害に備え事前にどのような対策をとっていましたか。(あてはまるものすべて)

- 住宅の耐震化
   食料・飲料水の備蓄
   非常用持ち出しバッグ等の準備
   ハザードマップや避難場所の確認
   マイ・タイムライン(防災行動計画)の作成
   家具などの転倒防止
   避難訓練への参加
   にいがた防災メールなどによる情報収集
   その他( )
- **問2** あなたは、災害に備えご家庭でどのようなものを備蓄していましたか。(あてはまるものすべて)
  - 1 非常食 2 飲料水 3 ラジオ(乾電池式、手回し式など) 4 乾電池、携帯電話等の予備バッテリー(ポータブル充電器など) 5 照明器具(LEDランタン、懐中電灯など) 6 暖房器具(停電時にも使用可能なストーブなど) 7 カセットコンロ 8 ベビー用品(ミルク、ほ乳瓶、紙オムツなど) 9 衛生用品(ウエットティッシュ、常備薬、生理用品、歯ブラシなど) 10 現金 11 毛布、寝袋、携帯カイロ 12 生活用品(トイレットペーパー、ティッシュペーパー、ラップなど) 13 ペット用品(えさ、ケージなど) 14 その他( ) 15 何も備えていなかった
- 問3 あなたは、自治会・町内会やマンションの管理組合、新潟市等が実施する防災訓練や講演会などの防災関連事業に参加したことがありますか。(どれか1つ)
  - 1 定期的に参加している 2 過去3年以内に参加したことがある
  - 3 3年以上前に参加したことがある 4 参加したことはない

問4	あなたは、「新潟市津波ハザードマップ」でご自宅やお勤め先の津波浸水想定状況(津波のデ さや到達時間)を知っていましたか。
	1 知らなかった ⇒ 問7 へ
	2 知っていた ⇒ 問5 ヘ
ţ	
問5	あなたは、津波警報が発表された時にどこへ避難するか決めていましたか。
	1 決めていなかった ⇒ 問7 へ
	2 決めていた ⇒ 問6 ヘ
問6	どこへ避難するか決めていましたか。(どれか1つ)
	1 津波避難場所 ※津波避難場所・・・市の指定した公園や駐車場
	2 津波避難ビル ※津波避難ビル・・・市の指定した公共または民間施設
	3 高い建物(具体的に ) ※津波避難ビル以外
	4 車中、ホテル
	5 その他( )
2	地震発生時の行動について
_	
<b>占</b> 問7	あなたは、地震発生(津波警報発表)時どこにいましたか。(どれか1つ)
	あなたは、地震発生(津波警報発表)時どこにいましたか。(どれか1つ)
	あなたは、地震発生(津波警報発表)時どこにいましたか。(どれか1つ) 1 自宅
	あなたは、地震発生(津波警報発表)時どこにいましたか。(どれか1つ)
	あなたは、地震発生(津波警報発表)時どこにいましたか。(どれか1つ) 1 自宅 2 自宅以外 (市内)
	あなたは、地震発生(津波警報発表)時どこにいましたか。(どれか1つ) 1 自宅 2 自宅以外 (市内)
問7	あなたは、地震発生(津波警報発表)時どこにいましたか。(どれか1つ) 1 自宅 2 自宅以外 (市内) 3 市外
問7	あなたは、地震発生(津波警報発表)時どこにいましたか。(どれか1つ)  1 自宅 2 自宅以外(市内) 3 市外  地震発災時にいた場所は、津波浸水想定区域でしたか。(どれか一つ)
問7	あなたは、地震発生 (津波警報発表) 時どこにいましたか。(どれか1つ)  1 自宅 2 自宅以外 (市内) 3 市外  地震発災時にいた場所は、津波浸水想定区域でしたか。(どれか一つ)  1 はい
問7	あなたは、地震発生 (津波警報発表) 時どこにいましたか。(どれか1つ)  1 自宅 2 自宅以外 (市内) 3 市外  地震発災時にいた場所は、津波浸水想定区域でしたか。(どれか一つ)  1 はい 2 いいえ
問7	あなたは、地震発生 (津波警報発表) 時どこにいましたか。(どれか1つ)  1 自宅 2 自宅以外 (市内) 3 市外  地震発災時にいた場所は、津波浸水想定区域でしたか。(どれか一つ)  1 はい 2 いいえ
問8	あなたは、地震発生 (津波警報発表) 時どこにいましたか。(どれか1つ)  1 自宅 2 自宅以外 (市内) 3 市外  地震発災時にいた場所は、津波浸水想定区域でしたか。(どれか一つ)  1 はい 2 いいえ 3 わからなかった
問8	あなたは、地震発生(津波警報発表)時どこにいましたか。(どれか1つ)  1 自宅 2 自宅以外(市内) 3 市外  地震発災時にいた場所は、津波浸水想定区域でしたか。(どれか一つ)  1 はい 2 いいえ 3 わからなかった  津波警報は何で知りましたか。(あてはまるものすべて)
問8	あなたは、地震発生(津波警報発表)時どこにいましたか。(どれか1つ)  1 自宅 2 自宅以外(市内) 3 市外  地震発災時にいた場所は、津波浸水想定区域でしたか。(どれか一つ)  1 はい 2 いいえ 3 わからなかった  津波警報は何で知りましたか。(あてはまるものすべて)
問8	あなたは、地震発生(津波警報発表)時どこにいましたか。(どれか1つ)  1 自宅 2 自宅以外(市内) 3 市外  地震発災時にいた場所は、津波浸水想定区域でしたか。(どれか一つ)  1 はい 2 いいえ 3 わからなかった  津波警報は何で知りましたか。(あてはまるものすべて)  1 テレビ・ラジオ 2 携帯電話(緊急速報メール・エリアメール・にいがた防災メール等)
問8	あなたは、地震発生(津波警報発表)時どこにいましたか。(どれか1つ)  1 自宅 2 自宅以外(市内) 3 市外  地震発災時にいた場所は、津波浸水想定区域でしたか。(どれか一つ)  1 はい 2 いいえ 3 わからなかった  津波警報は何で知りましたか。(あてはまるものすべて)  1 テレビ・ラジオ 2 携帯電話(緊急速報メール・エリアメール・にいがた防災メール等) 3 防災行政無線

	1	避難した ⇒ 問11~22 ヘ	
3	2	避難しなかった ⇒ 問 23(8ページ)へ	
問1	1 問	11~22 は避難した方( <mark>問 10</mark> で「1」を選んだ方)のみお答えください。	
	ع	こに避難しましたか。(どれか1つ)	
	1	津波避難場所 ※津波避難場所・・・市の指定した公園や駐車場	
	2	津波避難ビル ※津波避難ビル・・・市の指定した公共または民間施設	
	3	高い建物(具体的に )※津波避難ビル以外	
	4	車中、ホテル	
	5	その他(	)
問1	2 ك	`うやって避難しましたか。(どれか1つ)	
	1		
		自家用車	
		近所の車に同乗	
	4	その他(	)
\			
問 1	ર ≣#	と避難しましたか。(あてはまるものすべて)	
[ C41	<u> </u>		
	1	177	
		子	
		夫や妻	
		近所の人	,
L.	5	その他(	)
問1	4 超	難先までどれくらいの時間がかかりましたか。	
	Γ		
L.			
88 1	E '04	┍╅╫╗╅╶╱╵╬╈╫╶ <del>┼╶╶╸</del> ╱┈╸╱┇╅╲╶╏╸╅┷╇╏╸ <del>╽</del> ╸╸╏╸╱┍┪╍╬═╲	
問1	<u>5</u> 通	<b>難時(避難する場所まで行く時)に苦労したこと(自由記載)</b>	

問 10 地震発生時に避難しましたか。

問 16 津波避難場所又は津波避難ビルに避難した方(問 11)で「1または2」を選んだ方)のみお答えください。

避難場所滞在中に困ったこと、不安に感じたことは何ですか。(あてはまるものすべて)

1	食事		
2	灯り、照明		
3	飲料水、生活用水		
4	トイレの衛生環境		
5	十分な生活スペースの確保		
6	就寝環境(床が固い、毛布が足りないなど)		
7	プライバシーの確保		
8	寒さ、暑さなどによる体調管理		
9	災害情報(震度情報や停電情報、断水情報など)の入手		
10	携帯電話等の充電		
11	同行避難したペットの居場所		
12	家族、友人の安否確認		
13	避難所内での生活音(会話の声量、足音など)		
14	インターネット上のデマや誤情報		
15	避難所運営職員の対応(具体的に:		)
16	感染症対策		
17	住宅の被害状況		
18	健康		
19	その他(	)	
20	特にない		

## 問17 避難するときに何を携行しましたか。(あてはまるものすべて)

- 1 非常食
- 2 飲料水
- 3 ラジオ(乾電池式、手回し式など)
- 4 乾電池、携帯電話等の予備バッテリー (ポータブル充電器など)
- 5 照明器具(LEDランタン、懐中電灯など)
- 6 暖房器具(停電時にも使用可能なストーブなど)
- 7 カセットコンロ
- 8 ベビー用品(ミルク、ほ乳瓶、紙オムツなど)
- 9 衛生用品(ウエットティッシュ、常備薬、生理用品、歯ブラシなど)
- 10 現金
- 11 毛布、寝袋、携帯カイロ
- 12 生活用品(トイレットペーパー、ティッシュペーパー、ラップなど)
- 13 ペット用品(えさ、ケージなど)
- 14 その他 ( )

## 問 18 避難中、あなたは特にどのような情報が必要でしたか。(3つまで)

- 1 震度、気象情報
- 2 停電、停電の復旧情報(停電エリア、復旧見込みなど)
- 3 断水、給水情報(断水エリア、復旧見込みなど)
- 4 避難所の開設状況
- 5 携帯電話等の充電可能場所
- 6 被害情報
- 7 交通機関の運行情報
- 8 家族、友人の安否情報
- 9 市営住宅等の応急仮設住宅の情報
- 10 その他 ( )

1	テレビ(車載バッテリー、バッテリー付き小型テレビなど)	
2	ラジオ(乾電池式や手回し式など)	
3	携帯電話、タブレット、ノートパソコンなど	
4	新聞	
5	家族、隣人等からの口コミ	
6	その他(	)
7	情報の入手手段がなかった	

# 問 20 問 19 で「3」を選んだ方のみお答えください。具体的に、どこから情報を入手しましたか。 (あてはまるものすべて)

- 1 新潟市公式ホームページ、新潟市公式X(旧ツイッター)
- 2 X (旧ツイッター)、フェイスブック等のSNS
- 3 その他のホームページ
- 4 アプリ (Yahoo!防災速報など)
- 5 メール等
- 6 その他 ( )

## 問 21 避難場所から帰宅する判断をした理由は何ですか。

- 1 警報や注意報が解除されたから
- 2 周囲の人が帰宅したから
- 3 もう大丈夫だと思ったから
- 4 その他(

# 問22 避難場所の滞在時間はどれくらいでしたか。

- 1 1時間未満
- 2 3時間未満
- 3 6時間未満
- 4 9時間未満
- 5 24時間未満
- 6 24時間以上

# 問23 避難しなかった方(問10で「2」を選んだ方)のみお答えください。

避難しなかった理由を教えてください。(あてはまるものすべて)

)

- 1 安全な場所にいると思ったから
- 2 これまで被害にあったことがなかったから
- 3 ペットがいたから
- 4 家族や近所の人が避難しなかったから
- 5 避難すべきかどうかわからなかったから
- 6 避難所での生活が嫌だったから
- 7 どこに逃げれば安全かわからなかったから
- 8 どうしたらいいかわからなかったから
- 9 津波が来ないと思ったから
- 10 浸水しない区域にいると思ったから
- 11 津波警報が出たことを知らなかったから
- 12 その他(

# 3 地震発生後の状況(変化)について

<u>問24</u> あなたは、ご家庭で<u>「新たに」</u>どのような対策を行いましたか。(今後取り組む予定の項目を 含む。あてはまるものすべて)

- 1 住宅の耐震化
   2 食料・飲料水の備蓄
- 3 非常用持ち出しバッグ等の準備
- 4 ハザードマップや避難場所の確認
- 5 マイ・タイムライン(防災行動計画)の作成
- 6 家具などの転倒防止
- 7 避難訓練への参加
- 8 にいがた防災メールなどによる情報収集
- 9 その他(
- 10 特に何もしていない

<u>問 25</u> あなたは、備蓄品として<u>「新たに」</u>どのようなものを備えましたか。(今後取り組む予定の項目を含む。あてはまるものすべて)

)

)

- 1 非常食
- 2 飲料水
- 3 ラジオ(乾電池式、手回し式など)
- 4 乾電池、携帯電話等の予備バッテリー(ポータブル充電器など)
- 5 照明器具(LEDランタン、懐中電灯など)
- 6 暖房器具(停電時にも使用可能なストーブなど)
- 7 カセットコンロ
- 8 ベビー用品(ミルク、ほ乳瓶、紙オムツなど)
- 9 衛生用品(ウエットティッシュ、常備薬、生理用品、歯ブラシなど)
- 10 現金
- 11 毛布、寝袋、携帯カイロ
- 12 生活用品(トイレットペーパー、ティッシュペーパー、ラップなど)
- 13 ペット用品(えさ、ケージなど)
- 14 その他(

15 何も備えていない

16 すでに十分な備蓄をしていたため新たな備蓄は不要だった

予定の項目を含む。あてはまるものすべて) 
テレビ(車載バッテリー、バッテリー付き小型テレビなど)
ラジオ(乾電池式や手回し式など)
携帯電話、タブレット、ノートパソコンなど
新聞
その他(
なたは、区役所や市役所、新潟市公式ホームページなどで「新潟市総合ハザードマップ」の を確認しましたか。(どれか1つ)
自宅にある「新潟市総合ハザードマップ」(紙)を確認した
新潟市公式ホームページで確認した
「新潟市総合ハザードマップ」(紙)を新たに入手して確認した
まったく確認していない
なたは、今後津波警報が出たときにどのように行動するか決めましたか。(どれか1つ)
発災前から決めている
発災をきっかけに決めた
決めていない
どのように決めてよいかわからない
なたは、町内会やマンションの管理組合、新潟市等が実施する防災訓練や講演会などの防
連事業に参加したいと思いますか。

# 4 その他について

問30 今回の地震対応において、新潟市(行政)の対応として良	かった点及び改善すべき点は何です
か。(自由記載)	
良かった点	
(	)
改善すべき点	
(	)
問31 事前の備えを含め、ご自身(ご家族)の対応として良かって (自由記載)	た点及び改善すべき点は何ですか。
良かった点	
(	)
改善すべき点	
(	)
<del>問 32</del> あなたは、避難所にどのような備蓄物資があると良いと思	思いますか。(自由記載)
<u>問33</u> その他、今回の地震を受けて感じたことなどがあればご自	自由に記載してください。

# 最後に、あなたご自身のことについておたずねします。 すべて<u>地震発生時(令和6年1月1日)の状況で</u>、あてはまるものに○をつけてください。

······································			
F 1 あなたの性別は			
1 男性 2 女性 3 その他			
F2 あなたの年齢は			
1 18~19 歳 2 20~29 歳 3 30~39 歳 4 40~49 歳 5 50~59 歳 6 60~69 歳 7 70 歳以上			
F3 あなたのお住まいは			
6 南区 7 西区 8 西蒲区 9 その他			
F 4 あなたのご職業は(もっとも近いもの <u>1つに</u> ○をつけてください。)			
1 会社員 2 公務員 3 自営業 4 パート・アルバイト			
5 主婦・主夫 6 学生 7 無職 8 その他( )			
F 5 あなたの同居しているご家族は(あてはまるものにいくつでも○をつけてください。)			
3 就学前児童(3~5歳程度) 4 小学生(6~12歳程度)			
5 中学生(13~15歳程度) 6 高校生(16~18歳程度) 7 大学(院)・専門学校生 8 65 歳以上の高齢者			
9 上記「1」~「8」以外の方 10 いない			
F6 携帯電話の所有状況は			
3 携帯電話を持っていない			
F7 日ごろから参加している地域活動は			
 (あてはまるものに <u>いくつでも</u> ○をつけてください。)			
1 自治会・町内会 2 自主防災組織 3 学校関係、PTA			
4 民生委員・児童委員、福祉関係 5 マンション組合等 6 商店会組合等			
7 消防団 8 防犯活動 9 ボランティア			
10 その他まちづくりに関連する活動 11 特に何もしていない			
F8 今回の地震でご自宅に被害はありましたか			
1 全壊 2 大規模半壊 3 中規模半壊 4 半壊			
5 準半壊 6 一部損壊 7 被害確認できず			

アンケートは以上で終了です。長時間にわたり、ご協力ありがとうございました。

## 避難所指名職員に関するアンケート集計結果

■目 的:令和6年能登半島地震発生当初における避難所での課題等を把握し、平時からの取組みを改善することで、本市の災害対応の強化を図り、次の災害に備えていく。

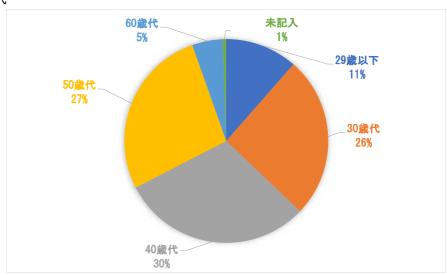
■対 象: 令和6年能登半島地震発生(令和6年1月1日)時点の避難所指名職員

■実施方法:電子申請 (e-NIIGATA) または紙による回答

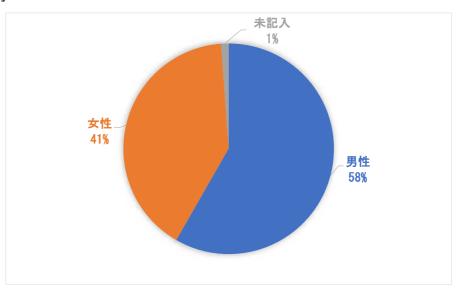
■回 答 率:57.5% (回答数 350/アンケート対象職員数 609)

# 【基礎項目】

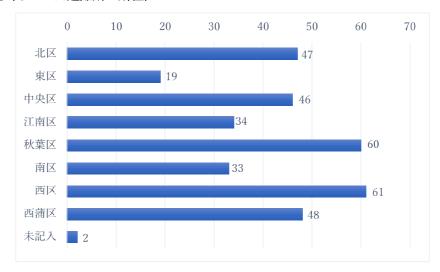
# 1. 年代



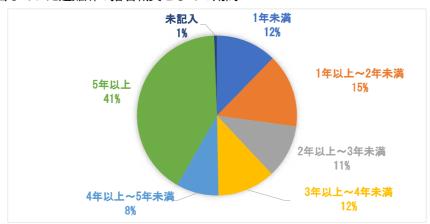
# 2. 性別



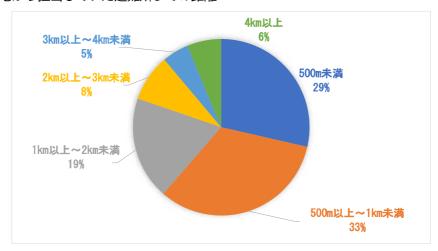
## 3. 担当していた避難所の所在区



# 4. 担当していた避難所の指名職員としての期間

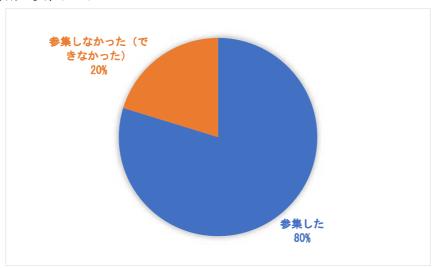


# 5. 自宅から担当していた避難所までの距離

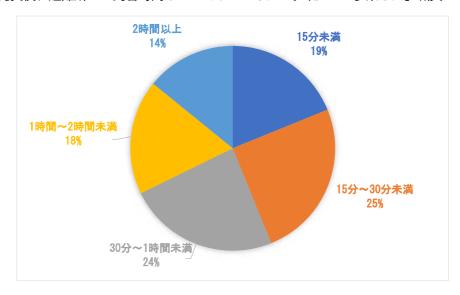


# 【調査項目】

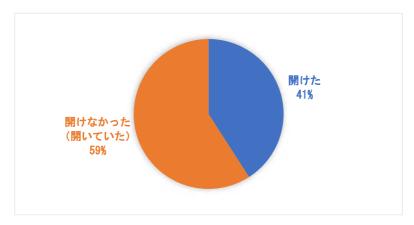
- 1. 令和6年能登半島地震での対応について
- Q1 避難所へ参集しましたか



Q2 発災後、避難所への到着時間はどのくらいでしたか。(Q1で「参集した」職員のみ)



#### Q3 参集後、鍵を開けましたか。(Q1で「参集した」職員のみ)



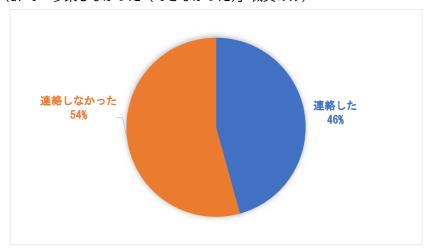
# Q4 到着後に実施したことは何ですか。(Q1で「参集した」職員のみ) 住民や施設管理者等と一緒に実施したことも含む(複数項目選択可能)



#### <主なその他の内容>

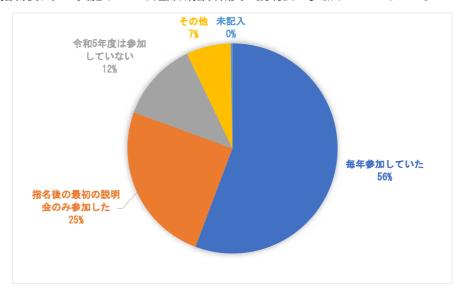
- ・断水などに備え、水をためておいた。
- ・巡回してきた地元自治会と定期的に情報を交換した。
- ・ペット同伴の方が多数おり、同伴者の名簿を作成した。
- ・暖房設備の準備、教室を使用したので暖房を入れた。
- ・受付の設置や施設の正面玄関に避難所への案内を掲示した。

- Q5 実際に開設して課題だと感じたことは何ですか。(Q1 で「参集した」職員のみ) <主な内容>
  - ・少ない人数で手が回らない。多くの避難者の出入りを把握するのは難しい。
  - ・誰にも相談できず、1人での対応はとても不安だった。
  - ・災害に乗じた犯罪に巻き込まれる可能性も有り、女性職員だけでの対応で不安だった。
  - ・施設の水道・ガスの復旧方法、暖房のつけ方等の事前確認。
  - ・施設への被害や二次被害を防ぐための施設管理者との確認。
  - ・備蓄物資配布のタイミング。
  - ・避難者への指示や統率。
  - ・ペットの受け入れ。
  - ・車いす、要介助者等への対応。
- Q6 Q1で「参集しなかった(できなかった)」理由 <主な内容>
  - ・市外、県外等に帰省していたため。
  - ・実家に帰省し、飲酒していたため。
  - ・療養していたため。
- Q7 参集しないことを区役所へ連絡しましたか。 (Q1で「参集しなかった(できなかった)」職員のみ)



# 2. 平時の取組みについて

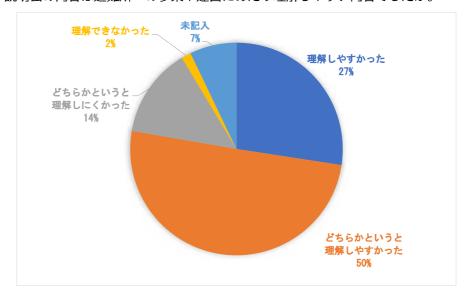
Q8 指名後、区が実施している避難所指名職員の説明会へ参加していましたか。



#### <主なその他の内容>

- ・仕事の都合上どうしても抜けれなく参加できなかった。
- ・職場の人員不足などで参加できた年とできない年があった。
- ・参加できる年は参加している。

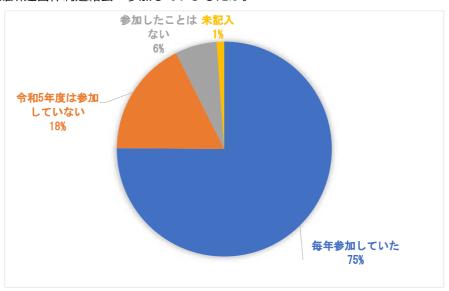
Q9 説明会の内容は避難所への参集や運営にあたり理解しやすい内容でしたか。



Q10 説明会に参加していない理由は何ですか。(Q8で「毎年参加していた」以外の職員のみ。)

## <主な内容>

- ・業務の都合。
- ・新規担当者以外の参加は任意と案内されていたため。
- ・職場の職員配置がギリギリのため参加できない、参加しにくい。
- ・指名後、最初説明会で内容を理解できたため。
- Q11 避難所運営体制連絡会へ参加していましたか。

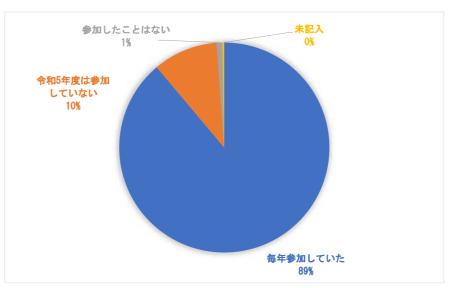


Q12 参加していない理由(Q11で「毎年参加していた」以外の職員)

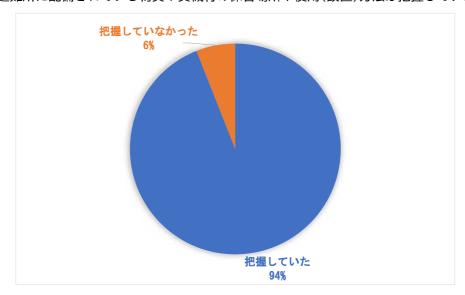
#### <主な内容>

- ・業務の都合。
- ・職場の人員配置の関係で出席が難しい。
- ・療養中のため。
- ・休暇のため。

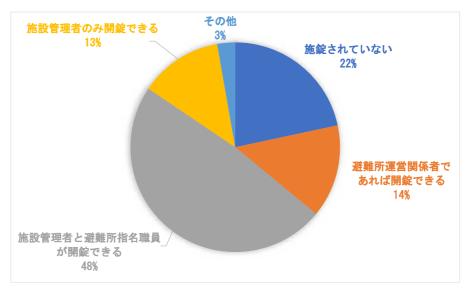
Q13 現地検討会(または現地確認)へ参加していましたか。



- Q14 参加していない理由(Q13で「毎年参加していた」以外の職員)
  - <主な内容>
    - ・業務の都合。
    - ・職場の人員配置の関係で出席が難しい。
    - ・療養中のため。
    - ・休暇のため。
- Q15 避難所に配備されている物資や資機材の保管場所や使用(設置)方法は把握していましたか。



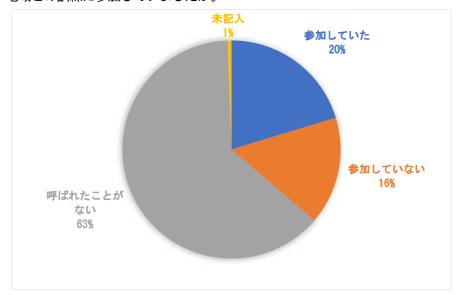
## Q16 保管場所の開錠は誰ができる状態でしたか。(Q15で「把握していた」職員のみ。)



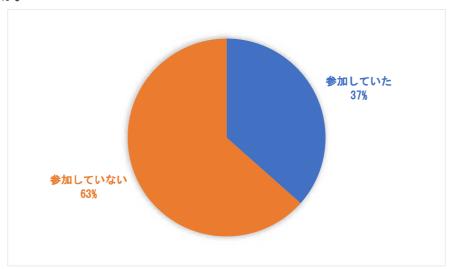
#### <主なその他の内容>

- ・資機材と一部物資は施設管理者と指名職員のみが開錠できる場所へ保管されているが、 物資の多くは施錠されていない場所へ保管されている。
- ・訓練に参加したことがある市民は保管庫の鍵の場所を把握しているため開錠ができる。

# Q17 地域との訓練に参加していましたか。

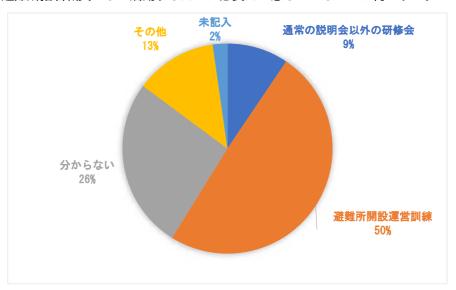


- Q18 参加していない理由(Q17で「参加していない」職員のみ)
  - <主な理由>
    - ・地域で訓練がない。
    - ・地域の訓練があるかどうかもわからない。
    - ・仕事、用事や家庭の都合で参加できない。
- Q19 普段から自分の住んでいる地域の活動(自治会・町内会、消防団など)に参加していましたか。



- Q20 避難所指名職員をするうえで負担に感じていることは何ですか。
  - <主な内容>
    - ・避難所の鍵の管理。
    - ・いつ参集しなければならないという不安感。
    - ・避難所までの距離が遠く、すぐに参集できないこと。
    - ・自宅不在時や遠方にいるときなどの参集。
    - ・任期に上限がなく、長期間指名されていること。
    - ・住民の命を預かっているというプレッシャー。
    - ・自治会長などの住民の方にリーダーシップをとること。

## Q21 避難所指名職員として活動するために必要だと感じていることは何ですか。



#### <主なその他の内容>

- ・災害派遣で被災した現地の避難所支援。
- ・災害時に市民の安心、安全を守るという職員の意識の向上。
- ・地域との関係性の構築や役割分担等の共通理解。
- ・距離に応じた適正な職員の指名。

#### ○自由意見

# <主な内容>

- ・1 クール 3 年や 5 年で交代するなどの対応が必要ではないか。
- ・区別に指名職員による避難所開設のロールプレイング等を行うと実践的でより良いと思う。
- ・1人あたりの負担が大きいため、増員してほしい。

令和6年9月30日 新潟市 危機対策課

# 「令和6年能登半島地震 災害初期対応検証に係る有識者等広聴会」実施概要 (案)

# 1 広聴会について

・開催日: 令和6年10月15日(火) 午後3時00分から(2時間半程度)

·開催場所:新潟市役所本館3階 本部会議室

·議 題:令和6年能登半島地震 災害初期対応検証報告書(案)

・その他:報道へは全て公開

# 2 有識者等一覧(五十音順)

機関名	役職	氏名(敬称略)
国土交通省 北陸地方整備局	統括防災官	齋藤 充
東北大学 災害科学国際研究所	准教授	佐藤 翔輔(座長)
日本放送協会 新潟放送局	コンテンツ センター長	篠田 憲男
新潟大学 危機管理本部 危機管理センター	   教授 	田村 圭子
新潟県 防災局	局長	原直人
新潟市防災士の会	会長	平井 孝志
社会福祉法人 新潟市社会福祉協議会	常務理事	前田 秀子
気象庁 新潟地方気象台	台長	前多 良一
公益社団法人 中越防災安全推進機構	事務局長	諸橋 和行
NPO 法人 にいがた災害ボランティアネットワーク	理事長	李 仁鉄

#### 3 市側の出席者

市長、危機管理監、統括政策監、環境部長、福祉部長、こども未来部長、保健衛生部長、建築部長、土木部長、下水道部長、西区長、水道局総務部長

## 4 広聴会当日の流れ

前半:各団体の活動報告(大学除く) A4 1枚程度、8人×5分 = 40分

まとめて質疑

~休憩~

後半:検証報告書(案)についてテーマごとに意見をいただく。